



Japan Foundation for  
Regional Art-Activities

# 令和4年度 公共ホール現代ダンス活性化事業 報告書

一般財団法人地域創造



## はじめに

---

一般財団法人地域創造では、地域における創造的な文化・芸術活動のための環境づくりを目的として、地方公共団体等との緊密な連携の下に、地域における文化・芸術活動を担う人材の育成、公立文化施設の活性化支援、情報提供、調査研究などの事業を実施しています。

これらの事業の一環として、地域創造では平成17年度から「公共ホール現代ダンス活性化事業」（通称：ダン活）を実施しています。

この事業は、公共ホールの利活用や地域の活性化を図ることを目的として、全国公募で選ばれたコンテンポラリーダンスのアーティストと、コンテンポラリーダンスの公演や地域交流プログラムの企画に詳しい専門家であるコーディネーターを地域の公共ホールに派遣し、ホールとアーティストが共同で地域交流プログラム（学校等でのアウトリーチ及び公募のワークショップ）や公演を企画し実施するものです。Aプログラム（地域交流プログラム）、Bプログラム（市民参加作品創作プログラム）、Cプログラム（公演プログラム）の3つのプログラムがあり、ホールが今後のダンス事業のビジョンに基づいて年度ごとに1つプログラムを選択し、翌年度以降に他のプログラムを継続して実施できます。また、コーディネーターによる企画から実施までの支援、全体研修会の開催など、充実したサポート体制のもとに、安心してこの事業に取り組むことができる仕組みづくりを行っており、地域創造では、この事業を通じて、公共ホールの利活用やホールスタッフの企画・制作能力の向上、創造性豊かな地域づくりを支援しています。

令和4年度は、11団体（Aプログラム4団体、Bプログラム6団体、Cプログラム1団体）で実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により1団体（Bプログラム）で中止となり、10団体での実施となりました。

この報告書は、事業を実施した各地での取り組みを取りまとめたものです。実施団体からの報告や担当コーディネーターのレポートを掲載し、事業に関係して気付いた点や企画制作のノウハウ、事業を実施する過程において生じた様々な課題や問題点などをケーススタディとして記録するように努めています。

コンテンポラリーダンスがアーティストの数だけダンスがあると言われるように、この事業も地域の実情の違いなどから、事業を実施したホールによって事業へのアプローチが全く異なるなど、地域の数だけモデルがある事業だと言えます。

この報告書が、地域の公共ホールで自主事業を担当されている方の参考となり、一人でも多くの方にコンテンポラリーダンスの魅力をお伝えすることができれば幸いです。

終わりに、この事業を主体的、積極的に実施していただいた実施団体、各地域に寄り添ったプログラムを実施していただいたアーティスト、事業の実施にあたりサポートいただいたコーディネーター、その他多くの関係者の皆様方のご協力のもと、令和4年度の事業を終了することができましたことに対して、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

## 令和4年度公共ホール現代ダンス活性化事業の概要

実施概要	2
全体研修会概要	6
事業の流れ	8

## 実施内容紹介（実施日程順）・コーディネーターレポート

### 【Aプログラム】

与論町中央公民館（鹿児島県与論町）	10
大空町教育文化会館（北海道大空町）	16
西尾市文化会館（愛知県西尾市）	22
東広島芸術文化ホールくらら（広島県東広島市）	28

### 【Bプログラム】

宮古市民文化会館（岩手県宮古市）	36
あすとホール（大阪府泉大津市）	44
小牧市市民会館（愛知県小牧市）	52
天草市民センター（熊本県天草市）	60
茅ヶ崎市市民文化会館（神奈川県茅ヶ崎市）	68
アトム・ユニバースてだこホール（沖縄県浦添市）	76

### 【Cプログラム】

フェニーチェ堺（堺市民芸術文化ホール）（大阪府堺市）	80
----------------------------	----

## 事業資料

公募ワークショップチラシ／当日パンフレット	88
令和4年度公共ホール現代ダンス活性化事業実施要綱	100
コーディネータープロフィール	105

令和4年度公共ホール  
現代ダンス活性化事業の概要

## 実施概要

### 1 趣 旨

一般財団法人地域創造（以下「地域創造」という。）は、公共ホールの活性化とコンテンポラリーダンスによる創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりに寄与し、あわせて公共ホールスタッフ等の企画・制作能力の向上と創造性豊かな地域づくりに資することを目的として、地方公共団体等との共催により、公共ホールを拠点としてコンテンポラリーダンスの公演事業又は地域交流プログラムを実施する。

### 2 実施内容

#### (1) 実施団体（都道府県順）

地方公共団体	実施団体	主会場（実施ホール）
<b>【Aプログラム（地域交流プログラム）】</b>		
北海道大空町	(一財)大空町青少年育成協会	大空町教育文化会館
愛知県西尾市	西尾市	西尾市文化会館
広島県東広島市	JTB・NHKアート・日本管財共同事業体	東広島芸術文化ホールくらら
鹿児島県与論町	(特非)ヨロン SC	与論町中央公民館
<b>【Bプログラム（市民参加作品創作プログラム）】</b>		
岩手県宮古市	(特非)いわてアートサポートセンター	宮古市民文化会館
神奈川県茅ヶ崎市	(公財)茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団	茅ヶ崎市民文化会館
愛知県小牧市	(一財)こまき市民文化財団	小牧市市民会館
大阪府泉大津市	泉大津市	あすとホール
熊本県天草市	(一社)天草市芸術文化協会	天草市民センター
沖縄県浦添市 ※	浦添市てだこホール指定管理共同企業体 ティダ・コミュニケーションズ&リレーションズ	アイム・ユニバース てだこホール
<b>【Cプログラム（公演プログラム）】</b>		
大阪府堺市	(公財)堺市文化振興財団	フェニーチェ堺（堺市民芸術文化ホール）

\*対象は地方公共団体、公益法人、指定管理者

※事業中止

#### (2) 開催時期

令和4年4月～令和5年2月

#### (3) 事業内容

登録アーティストを地域に派遣し、地域の公共ホールと共催で以下のいずれかのプログラムを実施。実施するプログラムは、今後のダンス事業を実施するためのビジョンに基づいて選択し実施。

##### ① Aプログラム（地域交流プログラム）

学校や福祉施設等でのアウトリーチ及び公募によるワークショップ（4～6回）

\*アウトリーチ（3回以上）\*公募のワークショップ（1回以上）

##### ② Bプログラム（市民参加作品創作プログラム）

市民参加で創作した作品の有料公演（1回）及び公募によるワークショップ（1回）

③ C プログラム（公演プログラム）

登録アーティストのレパトリー作品の有料公演（1回）及び公募によるワークショップ（1回）

（4）研修会

①全体研修会

日 時：令和3年 10 月 26 日（火）～ 10 月 28 日（木）

会 場：オンライン（としま区民センター）

内 容：事業の実施に必要な基礎的な考え方、企画・制作の進め方等についてのノウハウの提供及び登録アーティストによるプレゼンテーション

②現地見（個別研修）

事業の実施に必要な打合せ及び実施会場の下見等を行うため、登録アーティスト及びコーディネーター等を現地に事前に派遣

（5）費用負担

地域創造と実施団体が負担する主な経費区分

1) 地域創造が負担する経費

①登録アーティスト等派遣経費

派遣対象者の出演料等、現地移動費を除く交通費、宿泊費、日当、損害保険料

※派遣対象者

【A プログラム】 登録アーティスト、アシスタント（ソロの場合1名）

【B プログラム】 登録アーティスト、クリエイションのためのアシスタント（共演者）（ソロの場合2名まで、デュオの場合1名）、テクニカルスタッフ等（公演準備のサポート役として必要と判断されるスタッフ1名）

【C プログラム】 登録アーティスト、共演者（ソロの場合2名まで、デュオの場合1名）、テクニカルスタッフ等（公演準備のサポート役として必要と判断されるスタッフ1名）

②公演負担金（B プログラム及び C プログラム）

実施団体が支出した事業実施に係る経費のうち、対象経費の2/3以内で50万円を上限に実施団体に対して負担

2) 実施団体が負担する主な経費（実施するプログラムで異なる）

地域創造が負担する経費以外の現地移動費、会場使用料、舞台製作費（舞台・照明・音響などに係る経費）、広報宣伝費など諸経費

（6）事業実施に対する支援

①全体研修会の開催

②コーディネーターの派遣

（7）主催・共催等

主催：開催地の地方公共団体等 共催：一般財団法人地域創造

### 3 令和4年度コーディネーター

小岩秀太郎（東京鹿踊代表／縦糸横糸合同会社代表）

神前 沙織（NPO 法人 Japan Contemporary Dance Network チーフ・コーディネーター、ディレクター）

坂田 雄平（NPO 法人いわてアートサポートセンター プロデューサー）

中富 勝裕（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 プロデューサー）

中西 麻友（NPO 法人芸術家と子どもたち 事務局長）

宮久保真紀（Dance New Air チーフプロデューサー）

### 4 2022 年度登録アーティスト（五十音順）



©Kenji Kagawa

#### ●北尾巨

幼少期よりミュージカルを中心に舞台芸術に携わり、クラシックバレエからストリートダンスまで多様なジャンルを経験。2009 年ダンスカンパニー [Baobab] を旗揚げ、全作品の振付・構成・演出を担う。振付家として、舞台作品のほか、TVドラマ、CM、映画へ多数振付。ダンサー・俳優として多くの作品に出演。WS 講師やアウトリーチ活動を全国で展開。尚美学園大学、桜美林大学、多摩美術大学非常勤講師。横浜ダンスコレクション 2018 コンペティション I 「ベストダンサー賞」、ベッシー賞（ニューヨーク・ダンス & パフォーマンス賞）「OUTSTANDING PERFORMER 部門」（2020 年）ノミネートほか、多数受賞。



#### ●田村一行

日本大学芸術学部卒。98 年大駱駝艦入艦、鷹赤兒に師事。以降大駱駝艦全作品に出演。02 年『雑踏のリベルタン』を発表。同作品により第 34 回舞踊批評家協会新人賞受賞。08 年、文化庁新進芸術家海外留学制度によりフランスへ留学。22 年『舞踏 天狗藝術論』を発表。同作品により令和 4 年度（第 73 回）芸術選奨舞踊部門文部科学大臣新人賞受賞。地域の文化や風土を題材とした作品の創作にも意欲的に挑み、独自の作品を発表し続けている。また、子供から高齢者まで幅広い対象者への舞踏ワークショップ・アウトリーチを各地で展開し、好評を得ている。11 年度から 22 年度まで地域創造「現代ダンス活性化事業」登録アーティストとして活動。



#### ●長井江里奈

舞台芸術集団「山猫団」主宰。

「伊藤キム+輝く未来」「まことクラブ」にてダンサーとして国内・国外の様々な劇場のみならず、ライブハウス、商店街、美術館、廃墟などありとあらゆる場所でパフォーマンスをしてきた経験を生かし、ソロアーティストとしても活動中。ダンスを通して誰もがお互いの個性と自由を認められるコミュニティを作ること为目标に、日本各地で公演活動とワークショップを行う。愛鳥のセキセイインコと遊ぶのが日々の癒し。



©金子愛帆

#### ●中村蓉

早稲田大学在学中にコンテンポラリーダンスを始める。ルーマニア・シビウ国際演劇祭、国際芸術祭あいち 2022 などで作品を上演。サンリオピューロランドのショー『Nakayoku Connect』やドイツ・マインフランケン劇場製作『ANATEVKA（屋根の上のヴァイオリン弾き）』などの振付も担当。二期会ニューウェーブ・オペラ劇場『セルセ』では演出・振付を担当した。第 1 回セッションベスト賞、横浜ダンスコレクション EX2013 審査員賞、第 5 回エルスール財団コンテンポラリーダンス部門新人賞などを受賞。





© 阿部章仁

### ●藤田善宏

ダンスカンパニー CAT-A-TAC(キャットアタック)主宰。コンドルズメンバー。文化庁芸術祭舞踊部門新人賞受賞。福井国体開会式振付総合監修。群馬大学非常勤講師。身体表現と道具を駆使した台詞のない物語、柔軟な発想を生かした異ジャンルや伝統芸能とのコラボが得意。三世代間で楽しめるダンス劇や児童演劇・幼児教育教材の監修、障がい者対象WSなど多様性を重視した活動にも力をいれる。小栗旬やジャニーズ Jr. 主演舞台、TEAM NACS、山田洋次監督演出舞台、Eテレ他、振付出演ステージング多数。



©Nonoko Kameyama

### ●マニシア

ダンスアーティスト・ダンスムーヴメントセラピスト・ダンサー。長期におけるNYを拠点とした活動後、福岡で多国籍、多世代の参加者約100名とアジアの路上生活の子どもたちへの救済チャリティー公演を13年間開催。その後、障害のある人々とプロダンサーたちとのダンスグループ、ワレワレワークスを結成。難病の子ども、パーキンソン病の方、DV被害者、不登校生、少年院のティーンを対象としたWSや作品のクリエーションなどに挑戦しながら、あらゆる場所にダンスの種を蒔き続けている。コロナ禍の現在、移民問題で出生届けを出されていないマレーシアの子どもたちとオンラインでWSを継続中。



### ●康本雅子

はじめはダンサー、いつの間にか振付家、やめられんのがダンサー。その昔バックパッカー時代にアフリカダンスに出会い、セネガルへ。ダンス漬けの半年を送るも帰国後一文なしになりバックダンサーに。食うためのダンスだけじゃ飽き足りず、作品を作るようになって今に至る。演劇や映像などへの振り付けもやりつつライフワークは子供たちへのワークショップ。最近は小学生親子向けのWS「マジな性教育マジか」も始動中。どっちもハウツーは教えない。

## 令和4年度公共ホール現代ダンス活性化事業全体研修会概要

---

### 1 期 日

令和3年10月26日（火）～10月28日（木）

### 2 会 場

オンライン（としま区民センター）

### 3 目 的

- ・事業の趣旨・役割を理解する。
- ・コンテンポラリーダンスのワークショップを体験し理解を深める。
- ・ダン活の企画づくりをするために必要な基礎知識を習得する。
- ・ディスカッション等を通じ、それぞれのホールがダン活を実施する際のミッションを明確にする。
- ・登録アーティストによるプレゼンテーションなどを通して出演アーティストの情報を得る。
- ・事前にホール内で考えた企画原案をもとに、コーディネーターと相談しながら企画を具体化する。

### 4 プログラム内容

10月26日（火）

時間	会場：オンライン
13:30～15:00	セッション①「ワークショップ」 講 師：ダン活支援アーティスト 鈴木ユキオ コーディネーター 中西麻友（進行）
休憩	
15:15～17:15	セッション②「ダン活概要説明」「取り組みたいこと&ディスカッション」 講 師：コーディネーター 小岩秀太郎（進行）、神前沙織、坂田雄平、中西麻友、中富勝裕

10月27日(水)

時間	会場：オンライン
13:25 ~ 14:25	セッション③「アーティストプレゼンテーション」 (登録アーティスト4組4名)
休憩	
14:35 ~ 15:15	セッション③「アーティストプレゼンテーション」 (登録アーティスト3組3名)
休憩	
15:45 ~ 18:25	セッション④「フィードバック」 講師：コーディネーター 坂田雄平(進行)、小岩秀太郎、神前沙織、中西麻友、中富勝裕

10月28日(木)

時間	会場：オンライン
10:30 ~ 12:00	セッション⑥「プログラム別ディスカッション」 講師：コーディネーター 中富勝裕(進行)、小岩秀太郎、坂田雄平、中西麻友
休憩	
13:30 ~ 15:30	セッション⑥「企画発表」 講師：コーディネーター 中富勝裕(進行)、小岩秀太郎、坂田雄平、中西麻友
15:30 ~ 15:45	事務連絡

事業の流れ（9月実施のケース）

時期	(一財) 地域創造	コーディネーター	実施団体	アーティスト
令和3年度 10/26～ 10/28	<b>全体研修会（アーティストプレゼンテーション）</b>			
11/12 締切	実施計画案の確認 ←		実施計画案作成・提出	
	(仮) 日程調整 ←		(仮) 日程調整	
12月下旬	コーディネーター会議 (事業日程、アーティスト、担当コーディネーター決定)			
令和4年度 4月上旬	決定通知発送		各種準備 (内容詰め、宿泊手配、 制作スケジュール打合せ等)	
4月下旬～	個別研修（現地下見） (1回)			
	コーディネーター アーティストの派遣			
7月上旬	計画書の内容確認 ←		実施計画書作成	
	契約書作成 ←		実施計画書提出 (事業実施2か月前)	
	契約締結 ←		契約締結	
			広報、各種調整 (全体スケジュール、フェカル、 当日スタッフ体制等の調整)	
9月	<b>事業実施</b>			
10月	出演料等支払 ←			出演料等請求
			実績報告書等提出 (事業終了後1か月以内)	
令和5年度 6月	事業報告書発行			

# 実 施 内 容 紹 介

(実施日程順)

コーディネーターレポート

**Aプログラム**

(地域交流プログラム)

実施団体	特定非営利活動法人ヨロンSC
実施ホール	与論町中央公民館
実施期間	令和4年11月7日(月)～11月10日(木)
アーティスト等	アーティスト：長井江里奈      アシスタント：北園優
コーディネーター	小岩秀太郎
<p>■アウトリーチ(実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場)</p> <p>① 11月8日(火) 8:50～10:30、与論町立茶花小学校、3年生、23名、体育館</p> <p>② 11月9日(水) 8:30～9:20、与論町立与論中学校、1年1組、25名、体育館</p> <p>③ 11月9日(水) 9:30～10:20、与論町立与論中学校、1年2組、25名、体育館</p> <p>④ 11月9日(水) 14:15～15:00、与論町立与論小学校、1年生、19名、体育館</p> <p>⑤ 11月9日(水) 15:10～15:55、与論町立与論小学校、2年生、15名、体育館</p> <p>《ダン活枠外》 11月8日(火) 14:00～14:45、与論町立那間小学校、1・2年生、24名、体育館</p> <p>■公募ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)</p> <p>① 11月7日(月) 19:00～21:00、18歳以上、無料、17名、与論町中央公民館 大ホール</p>	

スケジュール

	下見		
	6/28(火)	6/29(水)	6/30(木)
9:00		与論中学校	
10:00			打合せ
11:00		中央公民館	
12:00			
13:00			
14:00	与論島着	砂美地来館	与論島発
15:00	与論小学校	打合せ	
16:00		那間小学校	
17:00	茶花小学校		
18:00	打合せ		
19:00			
20:00			
21:00			
22:00			

実施期間			
11/7(月)	11/8(火)	11/9(水)	11/10(木)
	アウトリーチ① 茶花小学校	アウトリーチ② 与論中学校	
	↓	アウトリーチ③ 与論中学校	全体振り返り
	振り返り	振り返り	
			移動
与論島着	《ダン活枠外》 那間小学校	アウトリーチ④ 与論小学校	与論島発
移動	振り返り	アウトリーチ⑤ 与論小学校	
打合せ		振り返り	
↓			
	準備		
	公募WS		
↓			
	振り返り		

## アウトリーチ

スポーツ振興の強い与論町において、児童・生徒を含む若年層を中心にダンスに興味を持ってもらい文化事業の活性化につなげたいという想いから、町立の3小学校と中学校で実施した。(ダン活枠外含む)

小学校は町内行事と重なったこともあり、1～3年生の低学年が対象となった。最初はやや緊張気味の児童もいたが、長井さんのダンス自己紹介や北園さんの生ピアノ自己紹介などのパフォーマンスで皆一気に打ち解けた。ピアノに合わせて様々な動きをする中で、音が止んだら自分も止まる「ゼロダンス＝心臓と息以外は全て静止する」が好評で児童の生き活きた姿を見ながら生音の力を再確認した。前半は特別支援学級を含む一部の児童が動けなかったり参加を躊躇していたが、徐々に動き出し後半は表現を楽しんでいたのが印象的であった。長井さんの「全員を褒める」自由なダンスや表現活動が、普段と違う児童たちの素直さを引き出したのではないかと思う。振り返りで「与論の子どもは都会に比べて、音への反応が早く低学年でもしっかり動ける」との話があり、先生方にとっても大きな励みになったと思う。

中学校は1年生2クラスが対象で、導入は小学校同様に自己紹介パフォーマンスで、場を和ませてから開始となった。ピアノのテンポに合わせて様々な歩き方をする中で、一人の生徒が皆を盛り上げて広い体育館の真ん中にピアノを移動させての活動となった。その後は「校歌に振付をして踊る」という難題？に挑戦。Aメロ、Bメロ、サビと異なった動きを取り入れ、北園さんの提案で1番～3番でマーチやサンバなどリズムを変えてトライした。積極性に差はあったが、不参加の生徒は居らず全員真剣に取り組んでいた。「ダンスとピアノに衝撃を受けた」「最初は少し恥ずかしかったけど、みんなで踊るのはすごく楽しかった」などの感想もあり、多くの生徒たちに強いインパクトを残せたと思う。

全体をとおして、プロアーティストや生きた芸術など今まで触れたことのない世界と接することで、離島で暮らす子どもたちと先生方がともに沢山の刺激を受けていたように感じた。



茶花小学校



与論中学校



与論中学校



与論小学校

## 公募ワークショップ

普段の当館利用者に偏りがあり来館頻度の低い若年層を中心に参加してもらいたいとの思いがあったが、学校関係はアウトリーチを実施することもあり、18歳以上を参加対象にした。高校生から60代まで17名の参加があり、そのうち30代以下は5名だったが結果として幅広い層に参加してもらえてよかった。

簡単なウォーミングアップからピアノのリズムに合わせての動きへと進んでいくなか、見学予定で来られた年配の女性が「やっぱり参加します！」と一緒に踊りだしたことが印象的であった。生ピアノが直感的に彼女の身体を揺さぶり動かしたのだと思う。参加者が輪になって動きを真似していく「ムーヴしりとり」や、指先を笛に見立て自由に動かし会場を広く使って参加者たちが交流するなど徐々に大きな動きへと変わっていった。最初は仲間や知人同士で踊っていたが、最終的には老若男女が入り乱れてみんな笑顔でダンスを楽しんでいた。年代が離れていたり生活圏が異なっていたりと、小さい島でも普段ほとんど接点がない人たちが仲間意識を共有できる手段として、ダンスや音楽の力をあらためて感じる事ができた。最後に長井さんが参加者各々を褒めていらして、対象者の目が輝いていた。やはり大人も褒められたら嬉しいのである。

終了後は「付き合いで来たけど実際踊って見たら楽しかった」「定期的開催してほしい」との意見があり参加者の満足感が伺えた。反省会では小岩さんより「単に参加人数が多かったり、ダンス経験者が居たりするよりも中身（ワークショップの内容や参加者一人一人の意識）が重要であり、その点において今回は手応えありですね」との話があった。これを機に参加者をきっちりとフォローし、次年度以降の公民館講座はもとより町内文化事業への参加につなげていきたいと思う。





## プログラム詳細

## 11月9日（水）与論小学校 1・2年生

## ●授業開始前

授業前に長井さんたちはストレッチ等ウォーミングアップをしていたのだが、児童が体育館に入ってくるタイミングでみんなに話しかけ交流が始まった。与論の子どもたちはあまり人見知りをしないので、アーティストの3人は質問攻めにあい、開始前からにぎやかな雰囲気となった。

## ●自己紹介

長井さんと鈴木さんのダンス自己紹介から、北園さんのピアノに合わせてのパフォーマンスで児童たちの心を掴んだようで、全員がピアノの周りに集まって興味津々の様子だった。

## ●まねをする～「ゼロダンス」

お二人のまねをする動きから、立った状態から誰が最初に床に寝られるかの競争へ移り、その後「心臓と息以外全て止める＝ゼロダンス」にトライ。ピアノの音に合わせて自由に動いてよいが、音が止むと同時に全員「ゼロ」状態になる。変な格好で静止したり、友だちと絡み合っ

## ●ピアノの神様

北園さんがお題を出して、そのイメージの音やリズムをピアノで奏でる。神様のお題は絶対なので、児童はそれに習って動くのだが、「クネクネ」「ピカドーン」「5本足」など様々で各々の個性あふれる動きが見られた。

## ●二人一組のダンス

ペアを組んでピアノに合わせて自由に動き、片方が相手の身体に触れたらその人は触れた体勢で静止し、触れた人は静止した相手からそっと離れてダンスしながら自由な体勢で相手に触れる。それを繰り返してピアノが止まったら全員静止する。一見難しそうな内容だが、アクロバティックな動きをする児童やブリッジした相手の下を潜る児童など、見ている側も目を見張るようなダンスをしていた。長井さんから「高学年向けだが低学年でもこの子どもたちならできると思いトライしてみた」との話があり、あらためて与論の子どもたちのポテンシャルの高さを感じた。



●この事業への応募動機

当館は与論町より指定管理を受け10年になるが、文化的・芸術的な自主事業の開催実績がほとんどない。施設利用者も公民館講座受講生が大半を占めており、中高年以上の女性の割合が高く町民の中でも偏りが見られる。

町内文化事業としては文化祭や児童・学生主体の音楽発表会、隣県である沖縄との音楽交流祭などを毎年開催しており、近年は有志団体によるフラダンスフェスティバルや島人が結成した劇団のダンス劇等のイベントも開催されている。しかしながらスポーツ大会や体育行事等のイベントと比較すると、参加人数や町民の注目度、参加者の熱量もいまひとつといった状況である。

そこでダンスを通して若者を中心に幅広い層へアプローチを行い、町民の関心を文化事業にも向けてもらい活性化させていく目的で本事業に応募した。

●事業のねらいと企画のポイント

離島という地域性からプロの芸術に触れる機会が少なく、少子高齢化が進む中で文化事業にもある種の偏りが見られる。(伝統文化・芸能の継承に重点をおく一方で、新しいことにチャレンジする機会が乏しい)

これを機に子どもたちや若年層にダンスに興味を持ってもらいダンスの楽しさを伝えて、当館主催のダンス・舞踊教室への参加を促し、施設の活用度アップ、そして地域の文化事業活性化につなげていく。

●企画実施にあたり苦労した点

1年前から教育委員会に相談の上で実施時期を決定したが、結果として町内イベントや学校行事と重なった為、アウトリーチ対象に偏りが出てしまった。また先生方共通の意見として、担当者やアーティストとの打合せ調整に手間と時間が掛かるということ、カリキュラムにどう組み込むかの調整に苦労する点などがある。

ワークショップ参加者が少なく、最終的に口コミで集客することになった。内容をより理解してもらう為、動画QRコードを入れたチラシの作成や、SNSを使った広報にもっと力をいれるなどの工夫が必要だった。

●事業の成果と課題

事業企画趣旨の根本である「町内の若年層を中心にダンスに興味を持ってもらい、楽しさや面白さを体感してもらう」という点はおおむね達成できたと思う。各学校の児童・生徒とも楽しそうに身体を動かしていたのが印象的で、児童からは「もう一回ダンスがやりたいのでまた来てください」「ぞっち(長井さん)に褒められて嬉しかった」などの意見が聞かれ、先生からは「自由でのびのびとした表現活動だったので、普段は自ら発言や行動をしない児童が満面の笑みで踊っている姿に感激した」との話があった。今後はダンスや音楽に興味をもった児童・生徒らをどのように文化活動と係わらせていくかがポイントになると思う。

●今後の事業展開や展望

今回のAプログラムは文化事業活性化の最初の一步と感じている。今年度は文化祭や音楽祭など町内の文化催物が3年ぶりに開催されていずれも盛況である。やはりこのようなイベントを心待ちにしていた町民は多く、出演者も観客も笑顔で生き活きとしていた。来年度以降はC～Bプログラムを実施するので、今回の参加者を中心により多くの人たちにダンスを広めて楽しさを感じてもらい、これからのダン活と文化事業を盛り上げていきたい。

●この地域のダン活の特徴

事業主体の与論町中央公民館の指定管理団体はNPO 法人ヨロン SC、スポーツクラブである。名の通り文化芸術団体ではない。地域の文化芸術の集積・発信の中心になりうる、いわゆる「公共ホール」はなく、代わりに老朽化が進む中央公民館や、体育館である「砂美地来館（さびちらかん）」で催しが行われるのが常である。島の経済は美しい海や珊瑚礁を有した観光やマリンスポーツで支えられており、若年層が描く将来像として、より早く結果が見えやすいスポーツが位置づけられ、町として注力するのも理解できる。一方で、沖縄文化圏の島嶼部らしく、地域行事の中心に「祭り」が据えられており、祭りを軸にコミュニティの結束が図られてきた地域性である。こうした祭りに付随して、住民たちは「出し物」を発表するのが慣例であるため、人前での表現・パフォーマンスをすること、芸能や踊り、演劇や、もちろんダンスもその一環で、その発表をするために会合を持ち、稽古をすることで結束を高めてきたといえる。

したがって、与論島民にとって「人前で表現すること」はハードルではなく、むしろ小さい島だからこそ、顔の見える距離感を保ってきたものであったらう。

今回は長井江里奈さんを迎えての実施であったが、「島民みんなの顔が見えて、知り合いになれる」、「人前で表現できる」与論らしさを取り戻すことを目指して、プログラムを展開した。公募ワークショップのチラシには、長井さんを全面に押し出すのではなく、島民に認識されている中央公民館のスタッフの皆さんを起用し、誰でも安心して応募・挑戦できる雰囲気を出した。結果として、それまで接点がなかなかなかった世代、地域からの人たちが方々から集まったのと、長井さんによる個性の引き出し上手、褒め上手の力が与論人のDNAに火をつけたのか、見学だけの予定だった物静かな方も急遽参加し、殻をやぶったように体を動かすようになった。接触や体験がコロナ前と大きく変わってしまった今、顔が見える人間関係をどのように構築し、手を取り合うか、人口5千人の島だからこそいち早く取り組み、試行できたと思う。

また、島内全ての小学校と中学校の児童・生徒にアウトリーチができた（コマ数超過のためダン活外含む）。進学や就職に制限がかかる島だからこそ、将来の可能性・選択肢を広げる上で平等に経験できる機会を調整された中央公民館の皆さんと、「島全体の共通の記憶が、将来的な島づくりのきっかけとなったり、同世代が手を携えるきっかけを提供できたら」とダン活外のアウトリーチを英断された長井さんに心より敬意を表す。そして、「小さい島だから世の中を知らない、積極性がない、自信がない」という各校先生方の前評判を裏切り、純粹に伸び伸びと、即興性も高い身体表現をする子供達が多数見られたのは、皆大変な驚きと感動であった。

ひとえに先生や保護者、島民の皆さんの、子供達を見守る優しさや距離感、そして風景の美しさやそこから生まれた濃厚な文化環境が、この感性を保たせているのだと感じた。

●課題とこれからに向けて

コマ数超過について、アーティスト長井さんの了承を得られ、館もあわせた両者の思いも一致したため決行できたが、移動時間・振り返り時間の確保や体力保持の観点からも、時期を変えるなど詰め込みにならないよう留意したい。

全ての島民に機会を与えたいというのは、公民館の杉山館長はじめスタッフの顔の広さと信頼の高さゆえかもしれない。翻って、目的であった「公民館を使わない」新規層の開拓までは届かず、スタッフの皆さんからの口コミによる参加者が多かったため、「地域にとってのダンスの必要性」を感じて参加を促すことは難しかったように思う。しかし、アウトリーチにおいて豊かな表現力を持つ子供達や、ワークショップにおいて思いがけず表現者が多数いることを発見できた今年度のダンス熱を、顔が見える小さな島だからこそ、言い続け、発信し続けられる機会の設定や媒体（広報やSNS）の発信などを定期的に継続してほしい。

実施団体	一般財団法人大空町青少年育成協会		
実施ホール	大空町教育文化会館		
実施期間	令和4年12月14日(水)～12月17日(土)		
アーティスト等	アーティスト：中村蓉	アシスタント：田花遥	
コーディネーター	中西麻友		
<p>■アウトリーチ(実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場)</p> <p>① 12月14日(水) 12:50～13:35、女満別小学校、3年生、34名、体育館</p> <p>② 12月15日(木) 9:20～10:05、東藻琴小学校、3年生、13名、体育館</p> <p>③ 12月15日(木) 13:10～15:00、東藻琴中学校、1年生、17名、体育館</p> <p>④ 12月16日(金) 8:40～10:30、女満別中学校、1年A組、19名、体育館</p> <p>⑤ 12月16日(金) 10:40～12:30、女満別中学校、1年B組、17名、体育館</p> <p>■公募ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)</p> <p>① 12月17日(土) 13:00～14:30、小学3年生以上、無料、15名、大空町教育文化会館教育ホール</p>			

スケジュール

	下見	
	6/17(金)	6/18(土)
9:00	送迎・移動 打合せ	移動 町内視察
10:00	東藻琴小学校 下見	移動
11:00	東藻琴中学校 下見	昼食
12:00	昼食	移動
13:00	移動	↓
14:00	女満別中学校 下見	空港着
15:00	女満別小学校 下見	
16:00	移動・打合せ	
17:00		
18:00		
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間			
12/14(水)	12/15(木)	12/16(金)	12/17(土)
	東藻琴小学校ア ウトリーチ	女満別中学校アウト リーチ(1年A組)	
移動・打合せ	移動	↓	アーティスト 入り
女満別小学校 入り	東藻琴中学校 入り&軽食	女満別中学校アウト リーチ(1年B組)	
女満別小学校 アウトリーチ	準備	↓	受付開始
振り返り	東藻琴中学校 アウトリーチ	振り返り移動	公募WS開始
移動	↓	昼食	↓
昼食	東藻琴中学校 振り返り	移動	振り返り
移動・打合せ	東藻琴小学校 振り返り		移動
移動	移動		空港着

## アウトリーチ

アウトリーチ先については、町内に2箇所ある小学校と中学校を対象とし、学年は小学校は3年生、中学校は1年生とした。小学校では学芸会にてダンスを踊る機会があるということ、中学校ではダンス授業があるということでダンスに馴染みのある学校での実施とした。ダンスに親しみがない地域のため、子どもを対象に実施することで親も巻き込むことができるし、周知にも繋がると考えたことも理由の一つである。学年については、中学校での実施も考えていることから年齢に近い高学年ではなく低学年での実施とし、4年生については当館の音楽事業が対象となっているため対象から外し3年生での実施とした。中学校ではダンス授業をまだ経験していないまっさらな状態の1年生を対象と考え、最終的には学校との協議の上決定とした。

小学校では準備体操から始まり、ポーズを真似て同じ動きをする、画面上の写真のポーズやテーマに沿った表現、グループに分かれて一つのを表現、写真に音を付けて音がなったらポーズを取る、曲に振り付けをつけて最後まで踊りきるといった内容を実施。両学校とも待ってましたと言わんばかりの雰囲気、終始笑顔の児童が多く見受けられた。また情熱的な出会いというテーマでの創作表現では、大人顔向けのパッション溢れるダンスを披露しているグループや、男女一緒に創作するひまわりというテーマでは、各々のグループが素晴らしいひまわりを表現しており、子どもの発想力には驚かされるばかりであったが、女子が花で男子が草を表現しているところが多く、普段の関係性が読み取れるような、クスツとなる場面もあったアウトリーチであった。

中学校では、ポーズ伝言ゲーム、身体の一部のみ接触した状態で動く、代表者の創造力で複数の椅子を組み合わせたものを観察し身体で表現するといった大人でもすぐには対応が難しい内容が追加されたアウトリーチとなった。大人びた子も多く、人前で踊ることの抵抗感があるのか雰囲気が重いクラスもあり、始めはあまり乗り気ではなかった生徒もいたが、「すごくいい」「できるじゃん」「かっこいい」「はいやるよ」「まだいける」などの中村さんのどんな些細な動きでも褒める姿勢、絶妙な飴と鞭やアシスタントの田花さんの絶妙なフォローも相まって、生徒たちのやる気と向上心を引き出し、中盤からはとても良い雰囲気を創られていた。始めの頃の生徒の動きとは全然違った動きであり、生徒の可能性を拓けていた。どの学校でも教頭先生や体育教諭も一緒になって参加して児童や生徒と一緒に楽しまれており、生徒や先生の関係性も良いことがより児童や生徒も楽しむことが出来た要因だと感じている。

最終的にはどの学校も皆が1つとなって曲の振り付けを踊りきる様は、観ていて私も非常に胸が熱くなったのを今でも覚えている。中村さんの講師としての指導力もさることながら、田花さん、中西さん、素晴らしいONE TEAMで最後の日まで走り抜けることができ、嬉しく思う。



東藻琴小学校



東藻琴中学校



女満別中学校



女満別小学校

## 公募ワークショップ

アウトリーチでは、小学校3年生と中学校1年生を対象としたため、公募ワークショップではより多くの方、特に一般の方にもダンスを体験いただきたいと思い、小学校3年生以上でかつ身体を動かしても問題ない方を対象に参加者を募集した。広報に使用するチラシについては、両面カラーのチラシを作成し、町内・町外での新聞折込、各主要施設でのチラシの配布と掲示、当館 SNS、町広報誌等で実施。さらにこの度新たな試みとして、6月の下見の際に中村さんにご協力いただいて告知動画を撮影し、SNS や当館の YouTube チャンネルで動画を配信した。視聴回数や、当日参加者の方から拝見したとの声もいただいたことからある程度の効果を実感することができたので、これからも継続していきたい。

当日は15名の方が参加。年齢も職業も異なり、親子での参加も2組ほどあった。ワークショップの内容としては、創作ポーズを決めての自己紹介から始まり、ポーズ伝言ゲーム、代表者の創造力で複数の椅子を組み合わせたものを観察し身体で表現するゲーム、グループリーダーの真似をするゲーム、曲に振付をつけて最後まで踊りきるといった盛り沢山の1時間30分であった。

始めの創作ポーズを決めての自己紹介において、大人の皆さんは恥ずかしさなんてなんのそのという方ばかりで各々個性の塊のようなポーズを披露していく中、不安そうな表情で参加している小学生も中にはいた。けれども、講師である中村さんとアシスタントの田花さんの息の合ったコンビネーションから繰り出される参加者への声かけや接し方がとても自然なもので、それでいて「それでよい」と鼓舞してくれるので、途中から体力がどんどん削られていくアダルトチームを子どもが先頭に立って引っ張っていくという場面を多く観ることができ、始めの不安そうな表情とは打って変わって、本当に楽しそうに踊っている表情を観ることができた。世代関係なく実施したワークショップであったが、大人が子どもを、子どもが大人をとお互いに協力して取り組む姿がとても印象的で新鮮なものを観ることができた。参加者の発想力、表現力、個性をより引き出してより魅力的にしてくれた中村さんと田花さんには感謝の気持ちで一杯である。参加者の煌めく瞬間に立ち会えることができ嬉しく思う。



## プログラム詳細

## 12月16日（金） 女満別中学校 1年B組

## ●女満別中学校 1年B組アウトリーチ

12月16日（金）のプログラムは、学校時間割で1時間目～2時間目が1年A組、3時間目～4時間目が1年B組と4時間目まで通しのアウトリーチとなり、中村さんにはかなりご負担をかけてしまうスケジュールとなった。

当日は朝8時に学校入りし、1年A組のアウトリーチを実施。1年A組の2時間分（08:40～10:30）終了後に、続けて1年B組の2時間分（10:40～12:30）実施した。

## ●最初の雰囲気

当初の予定では24名ほどの参加であったが、新型コロナウイルスに感染してしまった生徒が多いことから人数が減少。初めの段階で生徒に対してダンスが好きかどうかのアンケートを取ったところ苦手と答えた生徒がどのクラスよりも圧倒的に多く、中村さんの指示の後の動きも非常に足取りが重たいもので、雰囲気も一番重たく、幸先が不安になったクラスである。

内容としては、ポーズ伝言ゲームから始まり、身体の一部のみ接触した状態で相手との呼吸を合わせながら動き回るゲーム、代表者と表現者に別れ、代表者は創造力で複数の椅子を組み合わせ、表現者はそれを観察し身体で表現するゲーム、最後に曲に振付をつけて最後まで踊りきるといった盛りだくさんの内容であった。

## ●変化

中村さんの飴と鞭、そして田花さんのフォローもあり、クラスの足取りがどんどん軽くなっていた。変化を感じたのは、授業の序盤～中盤にかけて実施した椅子を用いた表現のゲームにおいて、代表者が提示したお題に全員がすぐさま反応し、各々の表現を形作っていた。これまで実施してきた数々のゲームで身体が温まり、良い感じに緊張もほぐれたおかげか、雰囲気も明るく、表情にも笑顔が現れるようになった。その中でも特に輝いていたのは、特別支援学級の生徒であったと私は感じている。1年B組は特別支援学級の生徒が多いクラスではあるが、激しく身体を動かしたり、率先して動いていたのは特別支援学級の生徒であった。彼らに触発された生徒もいたのではないだろうか。

## ●個性爆発

最後の曲の振り付けでは、一人一人の動きもキビキビしているし、何より表現力というか表情まで完成している生徒が何名かおり、短時間でここまで変わるものかと、驚きと感動の回であった。



**●この事業への応募動機**

「ダンスを身近なものに」というコンセプトのもと、町民にダンスの魅力や表現の楽しさを発信したいと思い企画した。大空町の人口は約6,800人で、ダンスという分野に関しては、民族舞踊など比較的高齢者が嗜む踊りや、クラシックバレエ、ヒップホップなどの小さなダンス教室がある程度で、ダンスを観る機会、体験する機会も非常に限られており、ダンスに親しみのある地域ではないのが現状である。当ホールにおいてもこれまでダンス事業をほぼ実施してきてはいないのが実態であって、ダンスに関わらず、地域に文化芸術活動の実践者も少なく、何かにチャレンジをしたいという方も多くはない地域である。その中でダンスをどのように身近に感じてもらうように広めていくかということであるが、まず、実際に体験していただく、間近で観ていただくことによって、ダンスの楽しさ、表現の自由さ、魅力を感じていただき、ホールの新たな活動の一つとして定着させていきたいと考えている。

**●事業のねらいと企画のポイント**

当ホールでは、初年度にAプログラムを実施し、翌年にCプログラム、翌々年にBプログラムの実施を計画している。大空町でのダンス事業の実施を考えると、まずはコンテンポラリーダンスを知ってもらい、体験していただくことが最重要であると考え、初年度にAプログラムを実施することとした。アウトリーチ先としては、ダンス発表の機会や授業がある小学校、中学校を対象とした。公募ワークショップについては、少しでも広報の期間を設けることで多くの方にコンテンポラリーダンスを体験していただきたい、アウトリーチを体験した生徒にも、もう一度体験できる機会を設けたいと思い、最終日に設定することとした。

**●企画実施にあたり苦労した点**

ダンスに親しみのある地域ではないため、どこまでダンスに対して関心を持っていただくことができるかと不安であった。コンテンポラリーダンスの魅力について、また実施場所においてどのようなメリットがあるかを私なりに言語化し、相手にどのように伝えるかということが非常に悩んだ点である。

また、公募ワークショップの広報開始が少々遅かったということもあるが、想定していた以上に参加者が伸びず、最終日近くまで参加者を募るのに苦慮した。広報についてはより積極的な手段についても今後用いる必要があると感じた。

**●事業の成果と課題**

身体を使ってどのように表現するか、どうすれば相手に伝えることができるのか。相手を観察し、相手の伝えたいことを感じ取ることができるか。参加者の想像力を大いに育むことができ、自己表現の場となったプログラム内容であった。ただ踊るだけがダンスではなく、一つ一つの動作にその方の個性とメッセージがある、コンテンポラリーダンスの魅力を私自身強く感じる事ができた。「ダンスを身近なものに」というコンセプトも最初の一歩としては大変素晴らしいものになったと心から感じているところである。ただ、あくまで第一歩ということで、まだまだ町民に周知をすることができてはいないし、ダンスに対する意識もあまり変化を与えることはできていないと感じている。変化をあたえるためには、体験することが一番効果的ではないかと私は考えており、そのためにもダン活事業を活用し、継続してワークショップを実施しながらノウハウを学んでいきたい。

**●今後の事業展開や展望**

ダン活事業を実施できる間は、当館でこのような活動をしていると周知していくことで、新たな客層の獲得を目指していきたい。A、B、Cプログラムが継続して実施していくことで、当館単独でダンスのワークショップを実施する、または当館の新たな事業としてダンス公演という選択肢を増やしたいと考えている。さらには当館がダンス事業の先駆けとなり継続して実施していくことで、他団体で実施する事業にダンス事業という選択肢を増やしていければと考えている。



**●この地域のダン活の特徴**

アウトリーチは、音楽や演劇を経験した学校はあるがダンスは初めてということで、下見の際にはアーティストからも丁寧にお話をしつつ、普段の子どもたちの様子やワークショップで期待すること、心配なことなどを先生からヒアリングした。どの学校でも、表現活動自体は前向きに取り組めそうでも、ダンスの経験や自分で考え出すような表現活動の経験が少ないこと、正解がない活動や人前に出るとは戸惑うかも、という不安点が挙げられた。そうした先生の想いを受け止めながら、アーティストから「自分で踊りを生み出すこと」や「子どもたちみんなのアイデアを引き出すことを大事にしたい」という想いを伝えて、ワークショップのイメージを共有した。

下見を経て対象学年やコマ数を検討される学校もあり、最終的には、小学校2校は3年生1コマ45分の実施、中学校2校は1年生に1クラスあたり2コマ100分での実施となった。中学校は体育の時間数との調整が難しそうな学校もあったが、じっくり関わられる2コマ実施が実現した。事業計画の段階で対象学年や授業時数を固めてしまわずに、実際に先生とアーティストが話した上で調整ができる幅を残しておいて良かったと思う。

ワークショップの内容は共通するものもあったが、各学校で少しずつ違った展開が見られた。小学校ではロダンの『考える人』やゴッホの『ひまわり』など美術作品の写真を見て、それらを身体で表すワークを行なったが、中学校では椅子を使い、その場で彫刻のように組み立てて椅子を身体で表すことに挑戦。授業の最後は、全ての学校で振付を一曲踊った。どのワークでも、子どもたちは人やモノと関わり合いながらその場で即興的に動きを考え出しており、他者やモノの存在が、自分一人ではできない動きの可能性を引き出していた。決まった正解は無く、アーティストは全員の表現を丁寧に認めて「それいいね!」「すごいね!」「面白い!」と言葉をかけ、時には誰かが考えた動きをみんなに見せて共有するなどしていたので、どんな表現でも認められるという安心感の中で、子どもたちが自分を出せるようになっていったのだと思う。先生の感想で、教員は「それはダメ」という声かけが多くなってしまいが、「それいいね!」と言うことで子どもも大人もお互いに楽しい気持ちになるし、褒められることで次への意欲が掻き立てられる、というお話が印象的だった。

また、同じ学年でも、素直で元気いっぱいの子もいれば、表現することに抵抗がある子など、学校ごとに子どもたちの実態は異なるので、どのワークをどのように展開するかを、アーティストが実際に子どもたちに出会ってから選択して柔軟に進めていたこともより効果的だったと思う。一人ひとりが認められる場で、誰かと一緒に身体を動かして、いつもとは少し違うものを見方や価値観にふれた経験が、今後の子どもたちの成長の糧となることを願っている。

公募ワークショップは、参加者の年齢に幅があったが、終始和やかな雰囲気、最初の自己紹介から自然と名前をポーズをする流れになり、子どもより大人の方が抵抗なく素敵なポーズを披露してくれたことに驚いた。その後も皆さん積極的で、ペアやグループワークでは、同じ家族以外の大人と子どもが関わられるようにアーティストからも促していた。学校でのワークショップに参加してくれた子も来ていて、個性豊かな市民の方がいることも分かり、今後Bプロに臨む時にも素晴らしい出演者が揃うのではないかと期待が膨らんだ。

**●課題とこれからの向けて**

ホールにとって初めてのダンスでのアウトリーチということで、ダンスの魅力や効果をどう伝えて理解を得るか、担当者には苦労があったことと思う。しかし、担当者自身が自分の言葉でアウトリーチ先と交渉し、時にはワークショップ前のアップから一緒に身体を動かし、最終的には自己紹介のポーズもいろんなバリエーションを考え出していたように、自分自身の身体を使ってダンスの面白さを実感したことが、大きな成果だったと思う。どの学校でも、これからもダンスを経験したいという声が聞かれたので、ホールの方が仰っていた通り、一過性で終わらないよう、今回の意義を必要な場で的確に伝えながら、大空町でもダンスが教育の中に根付いていくことを応援しているし、今回生まれたつながりが、次年度以降のCプロ、Bプロでも様々な形で活かされることを期待している。

実施団体	西尾市		
実施ホール	西尾市文化会館		
実施期間	令和5年1月18日(水)～1月21日(土)		
アーティスト等	アーティスト：中村蓉	アシスタント：池上たっくん	
コーディネーター	坂田雄平		
<p>■アウトリーチ（実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場）</p> <p>① 1月19日(木) 9:35～10:20、西尾市立室場小学校、4年生、29名、体育館</p> <p>② 1月19日(木) 10:40～11:25、西尾市立室場小学校、3年生、35名、体育館</p> <p>③ 1月20日(金) 9:25～10:25、西尾市立一色中部小学校、特別支援学級1～6年生、15名、集会室</p> <p>④ 1月20日(金) 13:30～14:45、日本語初期指導教室カラフル、小学生～中学生、18名、鶴城小学校体育館</p> <p>■公募ワークショップ（実施日時、対象、参加料、参加人数、会場）</p> <p>① 1月21日(土) 13:30～15:30、小学5年生以上、無料、24名、西尾市文化会館大ホール舞台上</p>			

スケジュール

	下見	
	8/25(木)	8/26(金)
9:00		移動
10:00		一色中部小
11:00		移動
12:00		室場小
13:00	アーティスト等 西尾着	休憩・移動
14:00	打合せ・移動	撮影
15:00	文化会館	↓
16:00	カラフル	移動・休憩
17:00	動画撮影テスト	打合せ
18:00	移動	アーティスト等 西尾発
19:00	打合せ	
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間			
1/18(水)	1/19(木)	1/20(金)	1/21(土)
	室場小入り	一色中部小入り	公募WS仕込み
	4年生 アウトリーチ	特別支援学級 アウトリーチ	アーティスト等 文化会館入り
	3年生 アウトリーチ	振り返り	準備
	給食	移動・昼食	昼食
	振り返り	鶴城小入り	受付開始
	市民交流	準備	ワークショップ
		カラフル アウトリーチ	↓
アーティスト等 西尾着	打合せ・準備	振り返り	全体振り返り
打合せ・準備	↓	移動	移動・夕食
	交流会	準備	アーティスト等 西尾発
	↓		

## アウトリーチ

現在実施している市内小中学校への芸術家派遣事業（アーティストインスクール）において、質的・量的に学校のニーズに答えられていないと感じたことから、通常のアウトリーチに加えて実施した。「ジャンル拡充」「いままでアウトリーチできていなかった層へリーチすること」を目指し、市内小学校2校（2学年と特別支援学級）、日本語初期指導教室を対象に実施した。

## ①②室場小学校

現状実施しているアーティストインスクール事業のジャンル拡充として、3年生・4年生の2学年に45分ずつの2コマ実施した。ほぼ同じプログラムでも3年生はチームでの表現が得意、4年生は個々の表現が光るという得意分野の違いがあり、コンテンポラリーダンスが個性を引き出すプログラムであることを実感するアウトリーチとなった。「2人の面白さが元気をくれて楽しくできた」という感想が印象的だった。

## ③一色中部小学校特別支援学級

アーティストインスクール事業としては初めて、特別支援学級からダン活をきっかけに申込があり実施。学校下見の際、担当の先生から丁寧に参加児童の特徴を細かくお伺いすることができただけでなく、本番に至るまできめ細やかな対応を継続いただき、あたたかい雰囲気の中でアウトリーチを実施することができた。

## ④日本語初期指導教室カラフル

言語の壁がある日本語初期指導教室カラフルへのアウトリーチは、3か月の通室期間の序盤に実施することで、スムーズな友達作り、言語以外の表現による自己肯定感の向上を目的とした。言語の問題ではじめ戸惑っていた児童・生徒も徐々に反応速度が上がり、極寒の体育館でも汗をかくほど夢中になっている様子だった。



室場小学校



室場小学校



一色中部小学校特別支援学級



日本語初期指導教室カラフル

## 公募ワークショップ

【中村蓉「あなたも変わる、わたしも変わる 西尾市文化会館コンテンポラリーダンスワークショップ」】

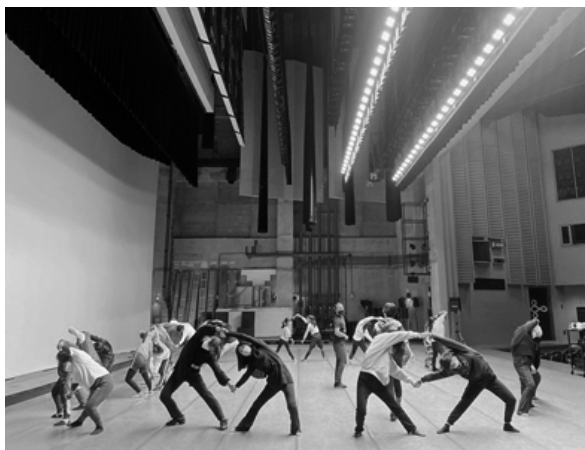
令和5年6月から大規模改修工事により約1年半休館する西尾市文化会館で「変わる」をメインテーマにした公募ワークショップを実施するにあたり、コンテンポラリーダンスや文化会館に馴染みがない市民にも親しみやすい企画及びPRに力を入れた。

キックオフ時点から下見時にできるPRを検討するためオンライン打合せを開催し、企画意図と西尾市の魅力を伝える動画撮影とチラシ用スチール撮影をぎゅっと詰め込んだスケジュールで下見を実施した。職員の資質向上、動画撮影のロケーションを提供してくれた市民の方及び会館との関係性構築などの副次的な要素も生まれたため、単なるPRを超えた取り組みになったと認識している。

参加者の募集は、市の広報紙及び市公式LINEでの周知を中心に、チラシ配布を公共施設だけでなく市内の店舗にも依頼した。その結果、応募開始時点から継続的に申込があり、11歳～77歳までと多世代が集まった。

個性あふれる方々が揃い、ダンスを踊るごとに打ち解けていく様子が印象的だった。

アンケートの「コロナ以来、友人とできえ、このような密な時間を過ごすことはありませんでした。初対面の人たちと、文字通り触れ合い、笑い合い、体全体を動かして、思いっきり楽しみました。このような機会を与えていただいて、感謝、感謝です！」という言葉のとおり、参加者が高い集中力を保っていた様子であった。



## プログラム詳細

## 1月20日（金）一色中部小学校、特別支援学級

## ●自己紹介→動きをまねっこ

小学校の2階、カーペット敷きの集会室で実施。ダンサーネームを大きく体操服に貼った子どもたちが集会室に集まってきた。

中村さんの「ようちゃんだよ～」の自己紹介で、一気に集会室の空気が和む。その流れで中村さんの動きをまねっこするアクティビティが始まり、「いいね！」という肯定の言葉が子どもたちに投げかけられる。安心感に満ちた空間が作り出されるウォーミングアップとなった。

## ●ごまかす→円になってポーズのリレー

室場小学校、日本語初期指導教室カラフルでも同様に行ったアクティビティ。先生が板書している間は自由に動いて良いが、先生が振り返ったら「勉強している」ふりをしてごまかすルール。子どもたちに馴染みがあるシチュエーションのため、大いに盛り上がっていた。

続けて円になって行うポーズのリレーを組み込むことで、子どもたちが「周りを見ること」が自然に意識された。

## ●人差し指の思い出→頭→背中

ペアになり、人差し指の先端だけを接触させたまま、自由に動くアクティビティ。接触部分を頭や背中に変えて、繰り返した。ダンサーネーム・ピーチとしろくまの2名による背中をくっつけた動きは、観る者に物語性を感じさせてくれた。

## ●画像をみてからだで表現

モニターに表示された写真のりんご（そのまま→カットされた→うさぎ）やバナナをみて、思い思いに全身で表現する。ダンサーネーム・パワーは「先生」と呼びたくなるほどセンスのある表現を繰り返してくれた。

## ●一曲踊ってみよう！

いきなりの振り入れも、擬音語を多用しているため子どもたちが違和感なく動き始めた。それが音楽に乗ると、とたんにダンスとして成立する過程が魔法みたいで…先生たちの表情が一気にゆるんでいた。



●この事業への応募動機

本市において、市内小中学校及び義務教育学校に対し芸術家派遣事業（アーティストインスクール）としてアウトリーチ事業を実施してきているが、内容のマンネリ化や、社会包摂の観点からアプローチできていない層があることから、この事業を実施することにより、コンテンポラリーダンスのような新しいジャンルの開拓とダンスをきっかけに幅広い層への文化振興の推進を図りたいため応募した。

●事業のねらいと企画のポイント

通常実施している小中学生のほか、特別支援学級や外国にルーツを持つ子どもたちが通う教室（日本語初期指導教室）で実施し、市のアウトリーチ事業の新しいジャンル開拓と、コミュニケーションツールの1つであるダンスを使って社会包摂の実現を図ることをねらいとした。また、公募ワークショップについては、大規模改修工事のため休館する文化会館の今後を見据え、「変わる」というテーマを設け、このワークショップをきっかけに、新たな会館利用者へつなげるため企画した。

●企画実施にあたり苦労した点

アウトリーチ事業において、アウトリーチ先を選定するのに苦労した。募集に対して応募が少なく、教育委員会と相談し、学校訪問等を行ってやっと選定することができた。さらに、今回は初めて実施する特別支援学校や日本語初期指導教室などアウトリーチ先に合わせた事前準備ができず、苦慮した。市として初めてのアウトリーチ先でも適切な準備ができるように先生からの聞き取りを綿密に行い、チェック体制を整えたい。

●事業の成果と課題

アウトリーチ事業について、振り返りの際に「〇〇くんのこんな姿は初めて見た」という感想を先生からいただき、コンテンポラリーダンスにより自由な発想や表現を見出すことを実感してもらうことができた。

公募ワークショップは、市として新しい試みであったため、参加人数が懸念されたが、定員を超える申し込みがあり、コンテンポラリーダンスに興味のある市民が少なからずあることがわかった。参加者からは、「今後も継続してほしい」「またあったら参加する」などの声が多く、今回の事業を一過性のものとしたくない取組が課題として挙げられる。

●今後の事業展開や展望

今回実施したAプログラムでの振り返りを踏まえ、得られた経験や情報、繋がりをもとに今後実施するB、Cプログラムにつなげていきたい。その際にも社会包摂という観点を大切にして、多様性を考慮した事業を継続的に実施し、市の文化振興の向上を図りたい。

**●この地域のダン活の特徴**

愛知県西三河地方にある西尾市は、日本屈指の抹茶の生産地としても知られている。旧市の小学校には茶室が併設されており、歴史的な街並みを含めて文化度の高さを感じる「三河の小京都」だ。今回は中村蓉さんとともに、1年目のダン活としてAプログラムに取り組む。西尾市は平成22年度から「アーティストインスクール」(芸術家派遣事業)を行い、小中学校へ多様な西尾市近郊で活躍する芸術家の派遣事業を行ってきた。今回は、コンテンポラリーダンスというジャンルの拡充や、特別支援学級、日本語初期指導教室など派遣先などこれまで手が届かなかった層への機会の提供が狙いだ。また今回のダン活への参加の契機となったのが、令和5年度からはじまる西尾市文化会館の大規模改修工事と休館だ。リニューアルオープンする令和7年に向け、西尾市文化会館を含めた西尾市の文化行政アップデートするヒントを見つけたいという担当者の熱意が、このダン活の大きな特徴にもなっていた。

アウトリーチでは、市内小学校、特別支援学級、日本語初期指導教室で開催された。自然に個性や動きを引き出す中村蓉さんのアウトリーチは、小学校はもちろんのこと、特別支援学級でもこれまでにない児童らの輝きを引き出す機会となった。また先生の丁寧な準備や情報提供などもあって、とてもよい空気のなかでプログラムが行われた。アウトリーチ先の日本語初期指導教室は、愛知県ならではの地域性が反映されたものであり、ダン活Aプログラムにとっても新鮮な取り組みだった。まだ日本に来て間もない児童たちが多く、言語の壁が高いなかでのアウトリーチだったが、徐々に身体を通じたコミュニケーションが浸透していく様子は、お互いを認め合うよいきっかけになっているようにも伺えた。今回のアウトリーチを通じて、コンテンポラリーダンスのプログラム持つ特性や、芸術家派遣事業の新たな可能性について担当された先生を中心に学校とも共有する機会になったのではないだろうか。

さて公募ワークショップは、担当者が特にも気合いをいれたプログラムとなっていた。ダン活をはじめの契機となった西尾市文化会館を含めて「変わる」をコンセプトにした内容だ。下見の段階から、西尾市文化会館の使い方やコンテンポラリーダンスという新ジャンルへの期待感をどのように構築するか、さまざまな意見が交わされた。当初ははじめての試みに参加者が集まるのかという不安が大きくあったように思うが、蓋を開けてみれば募集早々に定員を超える申し込みがあった。これには下見時に街中で撮影したPR動画や地道な広報が功を奏したように思う。担当者が自ら動画の撮影・編集やチラシ作りなどのクリエイティブに挑み、情熱的に取り組んだことも印象的だった。参加者も三河の小京都だけあって、個性的な方々が参加。今回のコンテンポラリーダンスWSの場が市民の新しい出会いの場になったことには、今後の西尾市の文化を支える大きなヒントが隠されているのではだろうか。

**●課題とこれからに向けて**

西尾市文化会館のリニューアルに合わせて、劇場法等に示された「新しい広場」としての会館像を目指すために、西尾市の文化行政のどのようにアップデートをしていくのか、今回のダンス活動を進める中で現場レベルでの課題とともに可能性にも触れる機会になったのではないだろうか。新たな会館像を目指すにあたって、市として文化政策の計画づくり→会館のミッション・ビジョンの明確化→指定管理の新要項作成のステップを行うことが一般的な流れであるものの、スムーズに進むとは限りらない。現状の中で、仲間たちときちんと変えられることに目を向け、丁寧に文化の大切さをともに噛み締め、文化行政のアップデートに取り組んでほしい。今回のダン活で最も財産となったのは、ダンスを通じて出会った市民(学校の先生も含む)と、何よりワークショップを中心に伴走してくれた文化会館の職員とこの時間を分かち合ったことだ。西尾市の文化芸術の現場最前線で働く文化会館とも企画づくりから一緒に楽しめる西尾市のパートナーシップ力の強化にぜひ期待したい。





アウトリーチ

東広島芸術文化ホールくららでは平成 31 年度より自主事業として音楽アウトリーチに取り組んでいるが、ダンスは初めての試みであった。今回はアーティストの活動スタイルを参考に、保育施設、小学校、適応指導教室の 3 ヶ所、計 5 回で実施することとした。

【西条フレンドスペース（適応指導教室）】当日は参加者である生徒 1 名と同行スタッフ、指導員、市役所担当課職員も加わり実施。不登校の児童生徒たちが通う教室であるため、実施当日まで参加人数が不確定であった。「自分の気持ちをポーズにする」というテーマで、全員のポーズを繋げて 1 つのダンスを作った。振り返りでは、参加した生徒が雪という悪天候の中、“ダンスがあるから早く行く”と言って楽しみに登校してくれた、と保護者からのお話を聞いた。また、大勢の人がいる中で生徒が自分自身のアイデアを出せたことへの驚きと、指導員の方がダンスに対して抵抗があったが、ジャンベの音で心が躍り恥ずかしさがなくなった、という感想も印象的であった。

【認定こども園さざなみの森】今回は園長先生の希望で「保育者の養成」が目的であった。保育者からの“どんなことをするのか、子どもに対して言葉での紹介や誘いかけが難しい”という意見を踏まえ、前日に保育者がワークを体験する形で実施。翌日の実施方法について検討した結果、まずは対象の年長児の教室前でダンスを披露し、興味を持った子どもたちが実施会場に集まる形で開始した。「身体で 3 つの丸を作る」というテーマで自分の動きを楽しむ子、マネすることを楽しむ子、ジャンベのリズムを楽しむ子、踊らず見ているだけの子など、「正解・不正解がない時間」の中でそれぞれに楽しんでいった。園長先生からは「場面づくり」の経験として継続を望む声があった。

【東広島市立豊栄小学校】令和 3 年度に自主事業で行ったダンスワークショップ（教職員対象）がきっかけで、今回の実施先として選定した。全校生徒 89 名の小規模な学校のため、3 学年ごとで午前・午後に分けて実施した。「自分の名前の中で、一文字をひらがなで書いてみる」というテーマで、異学年で 3～4 人のグループを作り、それぞれが決めた一文字を繋げてダンスを作った。後日届いた子どもたちの感想文ではアーティストの「自由でいいよ」という声かけにより「ダンスは難しい」というイメージからはなれ、楽しく踊れたという感想、また、DAI さんのジャンベが“マニシアさんのダンスを音楽で飾っていた”という印象的な言葉があった。ダンスとジャンベの音楽が合わさることで生まれる、心躍る瞬間をみんなで共有できた。



西条フレンドスペース



さざなみの森（保育者）



さざなみの森（年長児）



豊栄小学校

## 公募ワークショップ

企画当初は対象を小学生以上で考えていたが、アウトリーチで保育施設を実施先として選定したこともあり、幅広い年齢層が参加できるように設定した。それにより、今回のくらのダンスワークショップは「0歳からお年寄りまで、ダンス未経験者も、どなたでも大歓迎！」というコンセプトのもと、当日は2歳から75歳までの幅広い年齢層、ダンスの経験の有無など、さまざまな参加者が集まった。今回、アーティストが昔から取り組んでいる活動スタイルである、“障がいのある方とのダンス”経験が豊富ということを活かし、くらの定期利用団体（サークル）でダウン症や知的障がいのあるメンバーも所属するダンスグループに声かけし、代表者に現地下見（個別研修）のインリーチにも参加いただいた。当日は4名の参加があり、ダンス講師や保護者がサポートのため近くで待機していたが、サポートが必要となる場面も少なく、経験豊富なアーティストのおかげでまさに「だれでも」参加できるワークショップとなった。参加者に配布したアンケートに「今回のワークショップを体験して、あなたのダンスに対するイメージは変わりましたか？」という質問を入れたところ、「絵からイメージするダンスが楽しかった」「普段の動きがダンスになることに驚いた」「自分の好きなように表現すること」「自由に踊るのが楽しかった」など、ダンスに対するイメージが“変わった”というご意見を多数いただいた。

また、ワークショップの内容で特筆すべき部分として、ショーイングの前には参加者に客席に座っていただき、袖幕が下がってくる様子や、これから自分たちが踊る舞台上が照明で照らされる様子を見学してもらった。その意図するところは、今回の参加者に「非日常的な空間」、光を浴びる「劇場のマジック」を体感してもらうというアーティストのアイディアによるものであり、日常から離れて劇場で過ごせる特別な時間、普段は入れない場所で開催することこそ、ホールでワークショップを開催する醍醐味ではないだろうか。ここがきっかけでアーティストを目指す人もいれば、もしかしたら舞台スタッフに興味を持つ子どもたちもいるかもしれない。これからも「くらならでは」のワークショップを開催していきたい。



プログラム詳細

1月28日(土) 公募WS 対象:だれでも

●挨拶、自己紹介、ウォーミングアップ

輪になってお互いの名前を呼び合う。まずは手足を軽くほぐしたあと、ビニールテープ(紐)を持って輪になり前後左右に動いたり、少しずつ動きを増やしてウォーミングアップを行う。

●クレヨンを使って模造紙にドローイング

5人程度のグループに分かれ、順番を決めて、好きな色のクレヨンを使って白い模造紙に落書きをするような感じで線を描いていく。次の人は前の人描いた線の続きから描き、最後に四角を描く。

●描かれたドローイングを身体表現

自分の描いた四角の「ここが好き」というのを見つけ、色々な線があるなか自分の四角をクレヨンではなく自分の身体を使って表現するよう、実験的に身体を動かしてみる。

●グループワーク

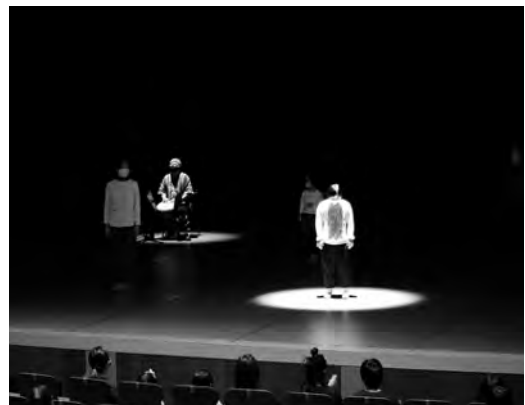
各グループで1番目の人から自分が考えた動きを発表する。ほかの人は、前の人動きのマネをする。全員が終了後、各自で振り返り。マニシアさんから「(動きの)終わりが見えるようにしっかり止まる」とのアドバイス。

●リハーサルとショーイング

舞台上に照明(直径3mくらいのサス)を4~5ヶ所、センターに5~6人が入れる大きなサスを1個を準備。ジャンベが「始まりのリズム」を叩いたら1番目の人からソロで踊り、止まったら次の人がスタート。全員が踊り終わったら、ジャンベのリズムをきっかけに色々なところに走って行ってジャンプを3回繰り返し、センターに集合する。再び1番目の人からソロで踊り、ほかの人はマネをする。全員が踊ったら各自で自由に踊り、ジャンベの音がフェードアウトするとともにライトもダウンし終了。

●エンディングのダンス

会場内に音楽が流れる中、グループごとにステージの前に出て挨拶。最後にマニシアさんのダンスとご挨拶。



●この事業への応募動機

私自身、ダンスの知識はなく全くの未経験者であったが、ある日突然ダンスに興味を持ち、他館で実施していた「ダン活」のアウトリーチを見学した。翌年はダンスワークショップにも参加し実際に体験してみると、道具を使わず自分の身体で表現し、ダンスの知識や技術がなくても誰にでもすぐに参加ができる手軽さ（良い意味でのハードルの低さ）に魅力を感じた。また、くらら近隣の公園等でダンスの練習をしている中高生の姿を多々見かけることがあり、「地域としてダンスの需要があるのではないか？」と考えた。ダンスの知識がない私でも「ダン活」に応募することにより、経験豊富なアーティストやコーディネーターと一緒にダンス事業を作りあげることのできることに魅力を感じ、今後の活動の基盤づくりと経験を積みたいと考え応募した。

●事業のねらいと企画のポイント

事業のねらいとしては、今回のダン活をきっかけにダンスに興味を持ち、次の世代の人材を育成するアーティストの養成を目指している。将来的には音楽普及事業と同様に、地元のアーティストを招聘してダンスの普及啓発活動が行えることが目標であり、くららのダン活の最終目標は「東広島子どもたちに夢を届けるアーティストを東広島から」である。公共施設の役割として、世代や所属を問わず、ダンスを通して人と人とが交流するきっかけや、それを基にくららを拠点とした新たな文化芸術の創出を目指している。

●企画実施にあたり苦労した点

ダン活の応募からアーティストが決定するまでの約5ヶ月の間に、全体研修会や書類提出などで自分の中のイメージを言語化する機会が多々あるが、Aプログラムはアーティストが決まってからがスタートである。アーティストの良さを引き出す（良い意味で最大限活用する）ために、当初の計画から大きく軌道修正する必要があった。また、今回のくららの場合はアーティスト決定後から実施まで1年以上の間があり、担当者としてモチベーション維持も少々苦戦した。

●事業の成果と課題

ダンスの“種蒔き”として取り組んだ今年度、今まで交流のなかった新しい場所や人との繋がりが生まれた。広報としてチラシを東広島市内・外の広範囲に配布し、くららでダンスの取り組みを行っていることを知ってもらうきっかけとなればと考えた。広島県内にある車いすダンスのサークルへチラシを送付したところ問合せがあり、参加には繋がらなかったが興味を持ってもらえたことがまずは一歩前進である。また、アウトリーチを体験した子どもたちの姿を見て、子どもたちがこれまで見せなかった行動など、大人が気付かされることも多かった。私自身は音大出身で音楽のアウトリーチを行った経験もあるが、音楽では対象を限定せず「だれでも」参加できる内容にするのはなかなか難しい。どうしても対象を考えてプログラムを決めることが多いため、今回のように幅広い世代が一緒に参加できるのはダンスワークショップならではの点と考える。ダンスとジャンベの音楽によって心が解放されること、そこから自分の感覚に対する気づきがあるのではないだろうか。課題は、今回のように質の高いワークショップをくららが継続していくことである。アーティストはその道のプロなので内容はお任せでも十分良いワークショップは開催できるが、「くららならではの」に拘るならば、それなりの知識をスタッフ側も身に付ける必要があると感じた。

●今後の事業展開や展望

事業のねらいでも書いたが、くららのダン活のコンセプトは「東広島子どもたちに夢を届けるアーティストを東広島から」である。表現することの楽しさ、表現方法が多様であることを体感できる機会として、ダンスのアウトリーチやワークショップを継続的に作っていくことが、将来的には普及啓発のような活動できるアーティストの育成に繋がると考える。また、東広島市西条は“酒都西条”日本三大酒処としても有名な土地である。「西条酒造り唄保存会」や「西条樽踊り保存会」など、地域の伝統文化を保存するために活動している人はやはり年配者が多い。今後、地元の伝統芸能との結びつき、コラボという形になれば面白い。若い人たちと交流することで西条の伝統文化が引き継がれるなら、街の活性化にも繋がる。くららのダンスの“種蒔き”はスタートしたばかりだ。

●この地域のダン活の特徴

東広島市は、広島駅からJRで市の中心エリア・西条駅まで40分ほどの場所にある。赤い煉瓦作りの長方形の煙突がいくつも立ち並び、それぞれに日本酒の銘柄が書かれていて日本三大酒処であることが一目でわかる。西条駅からまっすぐ歩いて5分で到着する劇場のエントランスの部分も蔵のイメージが反映された作りになっている。

くらのダン活1年目は、これまでの音楽アウトリーチをベースにした繋がりを活かしつつ新しい関係性を発掘する計画が立てられた。アーティスト下見時のインリーチでは、アウトリーチ候補先の関係者も多数参加した。

●適応指導教室は毎日来校する人数が定まっていない。下見の際は生徒たちがいる時間に伺い、ジャンベの体験をしてもらうなどのコミュニケーションをとり数ヶ月後の再来を伝えたが、本番日は今季最大の寒波到来。残念ながら一人だけの参加となり、3名の先生と劇場とダン活担当の私たちが加わって実施することに。唯一の参加者の生徒は自転車通学しているところ雪のために30分以上かけて徒歩で来てくれた。普段より早く、とても楽しみに家を出て行ったと彼女のお母さんから報告があったそうだ。言葉数は多くなくても周りの大人たちにも動じず積極的に参加する姿はとても素敵で、今回の1時間ほどの出来事が楽しい思い出として彼女の心にいつまでも残るといいな、と思わずにはいられなかった。

●「さざなみの森」は里山の地形を活かした広い敷地の中で独自の方針で幼児教育を行なっている魅力的な私立の認定こども園。グラフィックデザイナーでもある園長先生は保育士の意識もダンスを通して変化が期待できるのではという思いがあり、2日に渡って園を訪れる計画となった。20～30代を中心とした保育士たちは最初「自由に」というお題に戸惑いがあったよう。子どもの頃のニックネームを名札に書いたことで少しずつ童心に戻り、後半にはかなりの集中力で個々の発想から動きが生まれていた。翌日はマニシアさんがDAIさんのジャンベに合わせて踊りながら各教室を周って子どもたちの関心を惹きつけたところからスタート。60名近い年長の子もたちに、1時間以上集中してもらうことは大変チャレンジングなことである。飽きてしまう子も出る中、マニシアさんは数名のグループを作り、順番にダンスを披露してもらう内容を組み込まれた。子どもたちの力を信じる姿勢は園の先生方にも伝わり、「待つ時間」の経験ができたことを貴重に感じて下さった。

●全学年1クラスずつのみの豊栄小学校は、全児童にダンスを経験させたいという要望で1・2・5年生と3・4・6年生と二つに分けて実施した。学年を混ぜたチームを作ってそれぞれのダンスを創作するお題は、子どもたちのアイデアを存分に活かし、消極的な子にも焦点があたるような方法をマニシアさんがアドバイスしながら進んでいく。怪我や体調不良などで身体を動かせない子には、DAIさんが静かに近寄って小さな打楽器を手に取りさせて音楽で関われるよう輪に引き入れる。全ての子どもたちがダンスを共有できる充実した時間となった。豊栄小では俳句が盛んで毎週金曜の給食時の放送で良作を校長先生が発表している。実施日がちょうど金曜日で、その発表を聞く機会に恵まれた。自由で豊かな表現の作品から、俳句を読む鍛錬から子どもたちの身体表現にも強く影響していると感じることができた貴重なタイミングだった。

●公募ワークショップは劇場大ホールの舞台上で開催。ダン活担当者の折坂さんが普段劇場のチラシを配布しない場所へも周知を拡げたこともあり、募集を開始してからあっという間に定員が埋まったそうだ。土曜日ということもあって家族参加もあり、マニシアさんが準備した小道具や模造紙などを用いながら、最後には舞台照明の中でグループ発表するなど、参加者のみなさんが満足を得られる内容となった。

マニシアさんとDAIさんは、いつもユニットで活動しているわけではないが、度々ワークショップやアウトリーチをご一緒されていて阿吽の呼吸で参加者の身体の中のダンスの種を芽吹かせてくれる。ダンスへ近づく第一歩として生の音楽が加わることの強さを再認識させられた。

●課題とこれからに向けて

担当の折坂さんはホルン奏者でもあり、講師として音楽アウトリーチの経験をお持ちだ。音楽の世界にいらしたからこそ、ダンスならではの「臨機応変さ」が魅力、とお話されていたことが印象的だった。アンケートのタイトルに「ダンスの種まきをはじめました」という言葉を用いるなど、ダンス事業を発展させていこうという気概も同業者としても大変嬉しい。来年度、再来年度のダン活事業での市民との化学反応を今から楽しみにしている。



# Bプログラム

(市民参加作品創作プログラム)

実施団体	特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター
実施ホール	宮古市民文化会館
実施期間	令和4年4月22日(金)～4月24日(日) 令和4年5月31日(火)～6月5日(日)
アーティスト等	アーティスト：北尾亘 クリエーションのためのアシスタント(共演者)：山田茉琳、河内優太郎 テクニカルスタッフ等：中瀬俊介
コーディネーター	宮久保真紀

■公募ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)

① 4月22日(金) 19:00～21:00、小学生～中学生、無料、17名、大ホール

■公演(演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数)

■『まほう - からだとことばとわたしとあなた -』

■ 6月5日(日) 14:00 開演

■ 北尾亘、山田茉琳、河内優太郎、メッカダンススクール、やまだなかよしだんすくらぶ

■ 一般：1,000円 U18：500円 \*当日500円増

■ 宮古市民文化会館 大ホール

■ 105名





# スケジュール

岩手県宮古市／宮古市民文化会館

	下見	
	2/27 (日)	2/28 (月)
9:00		
10:00		市内視察
11:00		↓
12:00		↓
13:00		昼食
14:00		地域取材
15:00	宮古駅集合	↓
16:00	打合せ・ホール下見	↓
17:00	↓	移動
18:00	↓	
19:00	MDS・YNDC 打合せ	
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間①		
4/22 (金)	4/23 (土)	4/24 (日)
	市内視察	クリエイション②
	↓	↓
	↓	(昼食)
	↓	↓
	市内視察	↓
宮古駅集合	↓	↓
打合せ	テクニカルミーティング	振り返り
↓	↓	移動
WS 準備	クリエイション①	
公募 WS	↓	
↓	↓	
退館	退館	

	実施期間②					
	5/31 (火)	6/1 (水)	6/2 (木)	6/3 (金)	6/4 (土)	6/5 (日)
9:00						
10:00						公演準備
11:00						↓
12:00						休憩・修正
13:00		打合せ・アーティスト稽古	打合せ・アーティスト稽古	打合せ・アーティスト稽古	クリエイション⑦	↓
14:00		↓	↓	↓	↓	公演開演
15:00	宮古駅集合	↓	↓	↓	↓	↓
16:00	打合せ テクニカル確認	↓	↓	↓	↓	参加者振り返り
17:00	↓	ラジオ出演	↓	↓	↓	振り返り
18:00	準備	準備	準備	準備	ゲネプロ	↓
19:00	クリエイション③	クリエイション④	クリエイション⑤	クリエイション⑥ ・荒通し	↓	終了・退館
20:00	↓	↓	↓	↓	↓	
21:00	終了・退館	終了・退館	終了・退館	終了・退館	終了・退館	
22:00						

### 公募ワークショップ

新型コロナウイルス感染症の影響から徐々に回復傾向にある本ホールで、コロナ禍となって初めての一般公募ワークショップとなった。

コンテンポラリーダンスに初めて触れる子どもたちを対象として、[身体]で遊ぶことを目的に日常生活の動きを基にしたプログラムを組んだ。また、コロナ禍で生徒数が激減した市内ダンスクラブへ興味を持ってもらったり、新学期後に開催できたことから新しい習い事としてダンスクラブ等へ参加してもらえるような流れを汲むことを計画した。参加者は未経験の小学生1名、経験者の中学生1名、市内ダンスクラブ参加者が4名、市外ダンスクラブ参加者が10名であった。新学期のタイミングと広報期間が短く苦戦したが、大ホールの舞台上で行う人数としては最適であった。ただ市内参加者が思った以上に少なく、広報の改善をしていきたい。

ダンス経験のある子ども達のほとんどはポップスやストリート系を好んで踊っているため、コンテンポラリーダンスとは初対面であった。まず初めに学校ではやらないようなストレッチを十分に行い、体を伸ばすことに重点を置いた。北尾さんの「日常ダンス」が始まると、一つ一つの動作を慎重にこなしていましたが動きの繋がりを自分なりに解釈している様子であった。

また、参加者ほとんどが本館の大ホールステージに立つことが初めてであった。コロナ禍となってステージパフォーマンスが減っているというダンスクラブの子どもたちにとってはよい経験になったと指導の先生方からお話いただいた。初めて触れるコンテンポラリーダンスに真摯に向き合っている子どもたちをみて、ダンス事業がもたらす可能性を改めて再認識できた。



## クリエイションの様子

### ● アップは入念に、でも遊びも交えて

4月の末に開始したクリエイションは、公募ワークショップの翌日に行われた。まずは体のストレッチを30分程度じっくりゆっくり行なった。顔合わせには自分の名前に合わせた振付を自分で考え、リレーで繋いでいく。宮古市と山田町でそれぞれ活動するダンスクラブであったことから双方共同で何かをすることが初めてであったため、名前と顔を覚えるいいレクリエーションとなった。

### ● 1回目のクリエイション／数字遊び

初めに行なったクリエイションは、7個程の動きを決めて、誰かがその一つの動きをし始めたら同じ動きをする、というものであった。6個程度を北尾さんが決め、残りを子どもたちから上がったアイデアを採用した。バック移動ではぶつからないように、舞台全体を大きく使って動いたり、舞台空間や他者の動きに意識を向ける内容であった。

### ● 宮古オリジナルのダンスの創作

2月の下見の際、市内で踊りを教えている方に「宮古大漁御祝い唄」と「宮古アイヤ節」と言う市内のお祭りで踊られる踊りを教えてもらった。その動きをアレンジした振付2種を北尾さんに作っていただき、シーンに取り入れた。参加の子どもたちは基の踊りをあまりわかっていない様子であったが、見学にきていた親御さんからは動きの相対差に納得していた様子であった。

### ● 「UMU」の振付

延期前に取り入れる予定であった北尾さんの作品「UMU」を本作品でも取り入れた。宮古のダンスクラブのメンバーは延期前にも一度レクチャーを受けていたこと、また振付の曲や内容もポップスをよく踊る子どもたちに浸透しやすそうな印象もあり、初めて踊る山田町からの参加者も複雑な動きながら繰返しの練習のうちに身につけていった様子であった。



## ● 2回目のクリエーション

舞台ではリリウムを敷き、幕の上げ下げも行なってクリエーションしていった。2回目で裸足で踊ることを決め早速実践。初めてのリリウムの感触と裸足で踊る感覚に慣れていない様子であった。

4月に行われたクリエーションの反復を行う。数字遊び、宮古踊り、UMUを振り返り、細かい動きや出捌けの調整をしていった。

また、ダンスクラブに加入をした1名も加わることとなり、総勢16名でのクリエーションとなった。

## ●映像の撮影と劇中歌の録音

テクニカルスタッフの中瀬さんに宮古市内・山田町内を散策していただき、舞台スクリーンに映す映像の撮影を行なっていただいた。普段見ている景色がアーティストの目線で映ることに参加者親子共々感心している様子であった。

また宮古市民文化会館に繋がりがある音楽家にオリジナルの楽曲を製作していただいた。うち1曲はラップ調の曲で、子どもたちも一緒に歌うシーンを取り入れた。舞台上でマイクを仕込む難点を解決するため、クリエーションで歌の録音も行なった。

## ●衣装チェック

今回の衣装は全て参加者の私服を採用した。好きな服、テンションが上がる服など、普段着ている服を持ってきてもらい、ゲネプロの2日程前にチェックを行なった。

## ●通し稽古

ゲネプロの前日に1シーンずつ順を追っていき通し稽古を行なった。舞台のしつらえもほぼ終えていたため、会館テクニカルスタッフのきっかけ合わせも含めて行なった。

## ●ゲネプロ

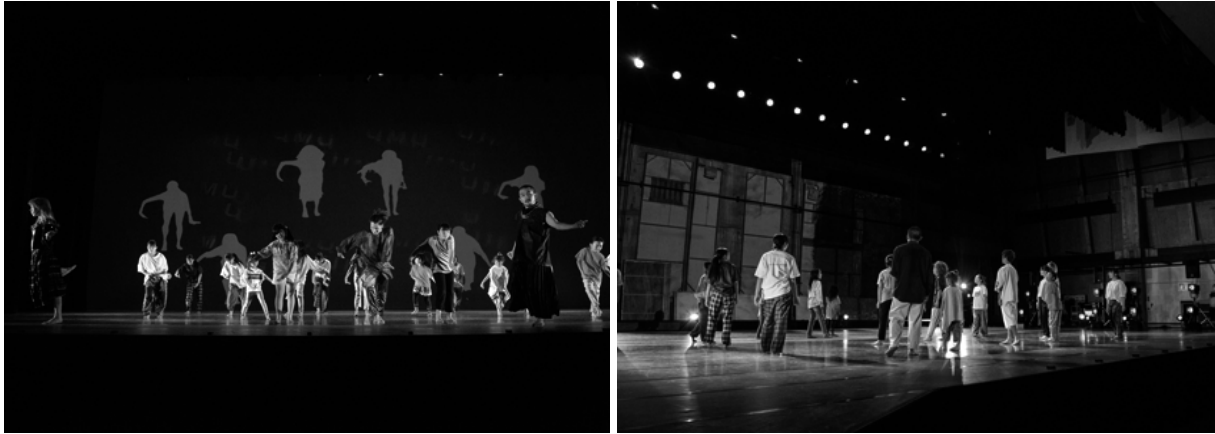
公演日前日に行う。学校行事により参加できなかった出演者が合流し、初めての通しとなった。

子どもたちの意欲も高まってスムーズに終了。翌日の本番に向け緊張している出演者もいたが、よい雰囲気でのクリエーションを終えることができた。



## 公演

DANCE DE UPDATE MIYAKO/YAMADA ×北尾亘『まほう - からだとことばとわたしとあなた -』



本館としては初めてとなる市民参加型のコンテンポラリーダンス公演。「ことばとからだ」、「自分と他者」をテーマとした舞台とし、当日パンフレットにダンスシーン名を記載するなど、お客様にも伝わりやすい工夫を行なった。前説で公演や出演者の説明、さまざまな想像をしていくこと等を北尾さんの言葉で説明いただいたことで、舞台を見る前の緊張感が和らいだように思う。ダンスクラブの子どもたちの出演シーンと北尾さんをはじめとするダンサー3名のシーン、北尾さんのソロシーン、出演者が歌うシーンと緩急あるシーン構成であった。

ラストナンバーでは袖幕・スクリーンが全て上がり切るという舞台演出も行った。舞台機構をフルに活用することを下見時より想定しており、魔法にかけられた舞台が、次第に剥き出しになっていく機材や舞台により現実味を帯びていく様子を効果的に見せていた。舞台の始まりから終わりまでタイトルの如く「まほう」にかけられていたかのような錯覚になり、出演者とおお客様の繋がりも感じられるような舞台作品となった。

初回のクリエイションでコンテンポラリーダンスや北尾さんの人柄に触れて公演のイメージが掴めたのか、出演者の宣伝効果が大きかった。Youtube や Instagram も活用し、新しい広報にもチャレンジできた公演だった。

## ●来場者アンケートより（感想）

- ・ダンスの舞台公演を初めて見ましたが、プロのダンサーの方々の身体能力の凄さ、技術の凄さがとにかく素晴らしかったです。音楽、映像も宮古でなかなか見れるものではなく、かっこよかったです。山田、宮古のこども達もダンスが上手でかっこよかったです。もっと宮古山田、沿岸の若い人達に見てもらいたい舞台だと思いました。
- ・「まほう」をかけられたかのようにダンスに引き込まれていった。こんな素晴らしい表現を間近で見られて本当に光栄です。また教え子の普段は見られない活き活きとした動きを見れて感動した。このような機会を作っていただき本当に感謝しております。
- ・このようなダンスパフォーマンスの公演は初めてみましたが、ダンステクニックだけでなく表現が素晴らしく感動しました。「まほう」にかけられた気分でした。こどもたちの表現力の素晴らしさに感動しました。北尾さんが宮古の踊りを取り入れたダンスを作ってくれて嬉しかったです！
- ・最後の舞台を全て見せる演出が異様で印象的でした。田舎の宮古にコンテンポラリーのダンスを見れてよかったです。生きている中で当たり前のことが刺激的に感じる必要があるですね。プロの方々の関節の動きが本当に素晴らしかったです。

●この事業への応募動機

本館は2014年に東日本大震災から再オープンして以降、主に音楽事業に力を入れてきたが、近年演劇事業やダンス事業での地域の課題解決や芸術振興、コミュニティの形成に視点を定めたことから、ダンス事業での新たなコミュニティ形成や、若年層の来館者や利用者の増加を目的に本事業へ応募した。2019年度にAプログラムとして北尾亘さんに初めてお越しいただき、次年度に再度北尾さんをお迎えしてBプログラムを実施予定であったが、新型コロナウイルスの流行に伴い延期。2021年度に田村一行さんのCプログラムを実施し、漸く本年度改めてBプログラムを実施することができた。

●事業のねらいと企画のポイント

ダン活1年目に名付けた「DANCE DE UPDATE」を大きなテーマとして継続した。震災から10年を迎えたこともあり新たな自分や街、他者との関係性をダンスを通して発見できないかを目指した。またコロナ禍の活動制限により市内ダンスクラブに通う生徒がコロナ禍前の半分以下に落ち込んだということも伺い、本企画でダンスファンやダンスクラブに興味を持ってくれる子どもたちの獲得も目指した。

●企画実施にあたり苦労した点

延期前の2020年度から出演依頼をしていたダンスクラブは主に地域のお祭りやスポーツの試合の休憩時間等にダンスを披露することが多く、今回のような舞台公演が初めてのこともあり、指導に当たる先生とのイメージ共有に時間を要した。また公募WSやアウトリーチに消極的な地域柄でさらにコロナ禍が加わり、公募WSが思いの外集まらず苦労した。また延期時期を決定した際、例年本館での貸館や市内イベントもあまりない閑散期であったが、コロナ禍からの回復のせいかイベントが重なってしまい市内からの観客が少ない印象であった。

●事業の成果と課題

宮古市だけでなく、山田町のダンスクラブも加わって舞台を製作できたことで、市外からの観客の割合が多かった。本館は宮古市だけでなく、周辺地域の中核施設としての役割を持っているが、近隣市町村に向けた訴求効果がこれまであまり得られなかった。本公演を通して本館で行うイベントのイメージや、他事業の宣伝をできたことは大きな成果と言える。

本館でのダンス公演の経験が少ないため、ダンス公演に興味を持つきっかけづくりとして企画した側面もあった。出演者からはまた北尾さんと舞台を作りたいという感想や、観客からもまた見たいという要望があり、きっかけづくりとしての成果は得たと言える。コロナ禍により遠のいた客足が徐々に戻りつつあるが、まだ戻ってきたとは言いがたい現状にある。地元ダンスクラブへの興味関心を増やせたかと言えば、思うようには行かない部分もあった。対象者に向けてフックになるような広報方法や集客に向けた新しい工夫が今後の課題と感じた。

●今後の事業展開や展望

2019年から数えて延期年を含め4年間ダン活事業をすることができ、本館でもダンスが見れる、という認識が少しずつ広まってきたように思う。ただし、ホールを埋めることができるぐらいの集客ができるかと言えばまだまだ力不足なところがある。

本年でA～Cの全てのダン活事業を終え、さまざまな挑戦ができた。今後はその挑戦をさらに発展させ、事業規模の大小に関わらない本館ならではのダンス事業を継続的に提供していきたい。

●この地域のダン活の特徴

宮古市は盛岡駅からほぼまっすぐ東に 95km 弱、バスで 2 時間ほどの三陸沿岸にある。「宮古」という地名は京の都からの物資が届く重要な港町だったところから、という説があるそうで、現在も大型客船が寄港する巨大ターミナルがある海運の要所だ。劇場は市の中心部からは電車で一駅の海の近くにあり、40 年以上の歴史を持つ市の文化拠点である。

ダン活 2 年目で計画された北尾亘さんと B プログラムは、下見を 2020 年 7 月に行い、クリエーションを 12 月、本番を 2021 年 2 月末に実施する予定だった。2011 年 3 月 11 日から 10 年経つ時期でもあった。太平洋沿岸に住む子どもたちと共に未来への想いを込めた作品にしようと、北尾さん、劇場の大原さんと共に方向性が固まる。小中高生・幼稚園生が通う市内のダンスサークルと創作を行うことが決まり、公募ワークショップを経て交流を深めていった。このサークルはストリートやヒップホップを中心に教えている民間の団体で、飲食店を営みつつダンスへの熱い思いと地域の子どもの育成の願いを抱く主催の方が中心となり、2011 年から活動されている。LDH 所属アーティストを招くなど積極的な活動を行ってらっしゃることも聞いた。

12 月のクリエーションは順調に進んだが、3 回目の訪問直前にコロナ感染者数が増え、学校側から子どもたちの行動も制限されてしまい中止。翌々年度の 2022 年に延期することになった。2022 年度への延期で、子どもたちは 2 学年上がり、コロナ禍の影響が続く中、生活環境が変わった家族も多く、サークルに参加する子どもが格段と減り、B プログラム参加希望者が 5 名ほどになってしまった。そこで元々交流のあった宮古市に隣接する山田町のダンスサークルに声がけをして、10 名ほどの小中学生に参加してもらえることが決まる。2022 年度は年度が始まる前の 2 月に改めて下見と打合せを行い、クリエーションを 4 月末、本番を 6 月上旬に設定、2 年越しになったからこそできる時期での実施となった。宮古市の子どもたちも、新しく加わった山田町の子どものたちも、距離的に車がないと劇場へ通えない子がほとんど。保護者の協力のもと平日夜に毎日参加してくれ、日々表現できる内容が色濃くなっていく。アーティストの北尾亘さんは宮古市での A プログラムを 2019 年に経験され、その後ダン活以外の会館主催事業に関わったこともあり、作品を創作する上で重要なテクニカルスタッフのみなさんとの信頼関係が築き上げられていた。作曲の素養のある音響担当の方に楽曲創作を依頼し重要なシーンに組み込むなど、ダン活ではなかなか出会えない要素も加わり、1 時間近くの宮古市ならではの大作が出来上がった。その中でも特筆すべきが宮古市と山田町のサークル主催であり指導者の 3 名によるシーン（山田町は理容師・小学校教諭のご夫婦が主催・指導）。子どもたちへは直前までこの特別出演について伏せられていたので、普段の先生とは違う、新しい一面を見られたことは強く印象に残ったに違いない。今回のために宮古市内各所で撮影された風景の映像をバックにお三方の素敵なダンスが披露され、子どもたちのシーンと相俟って『まほう』というタイトルに北尾さんが込めた想いと共に観客へ届けられた。

●課題とこれからのに向けて

チラシデザインを手がけることもできる担当の大原さんは、今回初めてアフタートークの司会に挑戦された。初めてとは思えない落ち着きと聞きやすいお話しぶり。今後も積極的に劇場の顔として表に出るお仕事もされるといいのでは、と勝手ながら思っている。

自主事業でのダンス公演をこれまでも多く手がけてらっしゃる劇場だからこそ、3 年間のダン活を終えた今、その火を絶やさず地域の方々へ「ダンスだからこそ出来る面白さ」を届けてほしい。

実施団体	泉大津市
実施ホール	あすとホール
実施期間	令和4年7月28日(木)～7月30日(土) 令和4年9月27日(火)～10月2日(日)
アーティスト等	アーティスト：田村一行 クリエイションのためのアシスタント(共演者)：小田直哉、鉦久奈緒美 テクニカルスタッフ等：阿蘇尊
コーディネーター	中西麻友

■公募ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)

- ① 7月28日(木) 19:00～21:00、小学生以上、無料、14名、あすとホール

■公演(演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数)

- 泉大津風土記『穴師樹影譚』
- 10月2日(日) 14:00～15:00(開場13:30)
- 田村一行、小田直哉、鉦久奈緒美  
公募による一般市民  
(赤柴煌、赤柴巴、小室弘毅、滝澤仁悟、辻登志夫、長澤邦恵、野田悦子、府中しのぶ、矢野千寿)
- 一般1,000円 高校生以下500円 未就学児無料
- あすとホール
- 95名





# スケジュール

大阪府泉大津市／あすとホール

	下見	
	6/11 (土)	6/12 (日)
9:00		ヒアリング
10:00		↓
11:00	打合せ	昼食
12:00	移動	撮影準備
13:00	昼食	撮影
14:00	市内散策	↓
15:00	打合せ	移動
16:00	↓	打合せ
17:00	↓	
18:00		
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間①		
7/28 (木)	7/29 (金)	7/30 (土)
	テクニカル 打合せ	クリエイション②
	↓	↓
	昼食	昼食
	テクニカル 打合せ	クリエイション③
	↓	↓
打合せ		↓
↓		振り返り
	打合せ	
WS 準備	休憩	
公募 WS	クリエイション①	
↓	↓	
	↓	

	実施期間②					
	9/27 (火)	9/28 (水)	9/29 (木)	9/30 (金)	10/1 (土)	10/2 (日)
9:00		仕込み	仕込み	楽屋作り	舞台稽古	アップ・稽古
10:00		↓	↓		↓	通し稽古
11:00		↓	↓	残り作業	↓	ダメだし
12:00		昼食	昼食	昼食	昼食	昼食・メイク
13:00		仕込み	照明作り	市長表敬訪問	舞台稽古	公演準備・開場
14:00		↓	↓	場当たり	通し稽古	本番
15:00		↓	↓	↓	テクリハ準備	客出し
16:00		場所決め	↓	↓	テクリハ	撤去
17:00	打合せ	音響稽古	↓	↓	ダメ出し	
18:00	搬入	夕食	予備稽古・夕食	予備稽古・夕食	夕食	出演者と茶話会
19:00	クリエイション④	クリエイション⑤	クリエイション⑥	場当たり	ゲネ準備	振り返り
20:00	↓	↓	↓	通し稽古	ゲネプロ	
21:00	↓	↓	↓	↓	↓	
22:00	退館準備	退館準備	退館準備	退館準備	ダメ出し確認	

### 公募ワークショップ

Aプログラムに引き続き、ダンスが盛んな地域として課題を感じている、決まった振り付けを踊る画一的なダンスではなく、ダンス経験者の自己表現力を伸ばす機会を作るため、「舞踏」のワークショップを企画した。

対象年齢は小学生以上と幅広く設定し、「舞踏」に触れられる貴重な機会をより多くの方々に体験してもらいたいと考えた。その結果、ダンス経験者だけでなく、「舞踏」や「コンテンポラリーダンス」に興味のある、15才～72才の幅広い年齢層の参加者が集まった。

ワークショップは、アーティストである田村一行さんからの座学から始まった。ホワイトボードや映像を使いながら誰にでも分かりやすい言葉で、「舞踏」の歴史やご自身の所属する大駱駝艦のこと、その思想を語っていただいた。その軽妙な語り口に、元々、「舞踏」に興味を抱いていた参加者たちがどんどん引き込まれているのが分かった。想像力を膨らませながら、実践に移るとまずは、力を抜いてフニャフニャと身体を揺らしたり、糸で引っ張られるように身体のパーツを動かす、準備体操のワークを行った。次に、「キリスト」「けもの」と名付けられた独特の「型」を、アシスタントの小田直哉さん、銚久奈緒美さんからひとりひとり細かく指導してもらいながら体験した。最後は音楽に合わせて全員で踊った。子どもから年配の方までみんなが、初めての動きにのめり込むように、全身を使って表現していた。初めて舞踏に触れる参加者にとって、一見難解そうに思えた「舞踏」が、アーティストによる丁寧なコミュニケーションと実践を通して、参加者全員に素直に染み渡り、高い満足感に繋がるのがわかった。公演出演者にとっても貴重なプレクリエーションとなった。



## クリエイションの様子

### ●クリエイション開始（第1次稽古：7月29日～30日）

公演出演者のほとんどが前日のワークショップに参加していたこともあり、初日のクリエイションはスムーズに始まった。「型」を復習しながら、音楽に合わせて、細かい表現の部分まで指導を受けた。演劇やマイムなどの表現に親しんできた出演者も多く、田村さんのお話を熱心に聞き入っていた。その日作った振付は、LINEのオープンチャットで動画を共有し、次回の練習までに各自振り返れるようにした。クリエイション二日目は、参加者が少なく、個人的な練習とスケジュールの調整で終わり、全員が集まることの難しさに課題を感じた。

### ●練習再開（9月27日）

2ヵ月ぶりの練習は、舞踏の基礎的な動きの復習から始まった。作品の題材となる泉大津の歴史や土地などの文化資源をもとに個別の場面を作っていくのだが、その世界観はまだ出演者には伝わっていなかった。まずはダンスの基本的な動きから始め、配役があり、それぞれの振り付け練習にはいったが、新しい参加者もいたので、「振り付けが難しい」との声もあり、練習動画を共有し、稽古場以外の時間も個々で取り組んでいた。

### ●現地スタッフとの連携（9月28日）

それぞれの役が決まり、音楽も入り、徐々に「穴師樹影譚」を感じられるようになってきた。

今回が初めての舞踏公演である若い音響スタッフに対しても、丁寧にコミュニケーションを取っていただいたことでスムーズに合わせることができた。舞台を支える地域人材が育ったことはホールとして大きな成果だった。

### ●照明・段取り・舞台稽古（9月29日）

クリエイションを続けるかたわら、ハード面の課題解決で田村さんやテクニカルスタッフには続けて、大変な苦労をおかけした。それは舞台美術だけでなく、照明設備も同様だった。ホールに可動式のスポットライトがないため、手動でフェードアウトできる照明を手作りするなど、作品の世界観をより肌で感じられる様々な工夫を凝らしていただいた。

音楽と照明により公演の世界観を出演者も肌で感じるようになり、一層、稽古にも力が入ってきた。



### ●場当たり・初めての通し稽古（9月30日）

初めて行った通し稽古では、地域の文化資源を題材にした個々の場面の練習が線につながり、出演者自身が本当の意味で『穴師樹影譚』の全容を理解したようだった。日々の稽古を通して、田村さんやアシスタントの皆さんは真摯に出演者と対話し、人間関係を築いていた。特に、この日は「ひとりの動きが全体を決める」という意識を丁寧に共有してくれた。それにより、出演者が作品を表現する上で、自分の動きがどう必要かを考えながら、より一層必死で練習に取り組み始めた。みんなでひとつの作品を作り上げる感覚を改めて感じたのだろう。

### ●振付のその先へ・ゲネプロ（10月1日）

クリエーション最終日、再度の通し稽古とゲネプロを行った。舞台美術も揃い、衣装も身に着けたゲネプロでは、出演者それぞれが自分の振付に対して理解を深めていった。

そして、何より、ただ振付を覚えるだけではなく、自分がどのように作品を表現するか？という、大きな課題に初めて本気で直面していた。振付のその先の表現へ進むためにはどうすればいいのか、必死で考えているのが分かった。田村さんや小田さんに細やかな助言をもらった出演者たちが、足の裏の皮が剥けるほど懸命に練習に取り組む姿には、舞台に懸ける「本気」と技術面だけではなく「成長」がうかがえた。

ゲネプロを観たときは感動して涙が出るほどだった。

### ●ダメ出し・本番・振り返り（10月2日）

ついに本番当日。朝から最終確認を行い、あっという間に開演時間が近づく。初めての白塗りを四苦八苦しながら仕上げているうちに、出演者の空気が変わった。衣装を身に着け、気持ちが出来上がっていく。ついに本番に臨むときが来た。

本番は、今までで一番という出来栄で、本当に素晴らしい公演だった。観覧に来られた方々は、泉大津の物語に深く感動されていたと共に、一般市民の出演者と気付かない人がいたほど、出演者の皆さんは、迫力ある素晴らしい舞踏を披露してくれた。

本番後、田村さんからは一人一人にメッセージカードを頂いた。田村さんは、公演の指導をしていただいただけでなく、個人に対し丁寧に関わりを築いて下さった。



## 公演

## 泉大津風土記『穴師樹影譚』



『穴師樹影譚』の題材となったのは、本市の由緒ある社「泉穴師神社」。ここには、2019年の台風で倒れた樹齢約600年の巨大な「御神木」がある。悲惨な災害で死に絶えたように思えたその御神木から、ある日、新芽が息吹いた。田村さんは、そこに泉大津の名産である繊維産業や地域に伝わる神話を組み合わせ、1時間の市民参加型作品を作り上げた。収容人数100名のフラットなフロア、照明は固定。「このホールで何ができるのか？」という難題に田村さんは真摯に答えてくれた。下見時から綿密に舞台プランを組み、限られた空間ではあるが、全面にリノリウムを敷き、背景に戸板を並べ、出演者が客席後方から登場する花道を作ったことで、会場の狭さが臨場感に変わった。機織り機と泉穴師神社の箱庭盆を中心に配し、普段のホールとは一変した異空間とも呼べるような作品の世界観が作り上げられた。神秘的な舞台美術の中、「あなぜ」が吹き、神話にまつわるキツネやカニ、機織り機やその精霊が舞踏で表現され、最後には「御神木」に新しい芽が芽吹き、太鼓橋の向こうから現れる灯籠の神秘的な灯と共に幕を閉じた。現実と神話が幻想的に織り重なり合い、号泣する観客も出るほど、地域の人の心に響く素晴らしい作品となった。

## ●来場者アンケートより（感想）

- ・ 静と動、今昔の融合が興味深い作品でした。
- ・ すごく生命力を感じる表現でした。また観に来たいです。近い距離で見られてよかったです。
- ・ 泉大津をテーマにしていた点がより身近に感じることが出来ました。気を感じる舞台でした。
- ・ 神秘的な踊りに感動しました。市民の方がしっかり踊っていた。
- ・ 初めて舞踏を観ることができ新鮮に感じました。声きっかけで動きが変化し、繰り返しの動き面白かったです。体を鍛えようと思いました。
- ・ すごく感動しました、思わず一緒に踊り出してしまいました。
- ・ 舞踏を市民参加でやるのがすごいと思いました。一般的にとっつきにくい芸術ジャンルなのに、こんなに市民の方が集まっているのも驚きました。
- ・ 泉大津についての内容で、よりこの町が好きになりました。
- ・ 途中でこのまま超常現象が起きて驚かないぐらい異端な空間だと思いました。
- ・ 普段体験する事がないものに触れることが出来て満足しています。
- ・ 時々涙し、笑い、ラスト若芽が出たのかな？織機も良かった。すてきな公演をありがとうございました。

●この事業への応募動機

近年、大阪・泉州地域ではダンスが活発だ。人口約7万人の本市にも30を超えるキッズダンスチームがある。ただ、当館が事業で地域のダンス関係者と関わる中で、決められた振付を踊ることだけをダンスと捉えている人の多さを感じるようになった。

そこで、Aプログラムに引き続き、自己表現力を培うコンテンポラリーダンスによって、固定観念から解き放たれ、殻を破るような場を作りたいと考えた。また、今回担当していただいた田村さんの「舞踏」というジャンルには、ほとんどの人が初めて触れるため、ジャンルそのものや舞台を身近に感じてもらえる機会を提供したいと考え、本事業に応募した。

●事業のねらいと企画のポイント

アーティストと共に作品を作り上げ、上演する過程で、出演者や観客にまちの歴史や魅力を感じてもらおうと共に、作品を通して、自分の住むまちへの愛着や自己肯定感を育てることを狙いとした。また、ホールの新たな可能性として、上演経験のない「舞踏公演」を実現し、今後の地域活性化の素材として完成した作品を活かしたいと考えていた。

企画のポイントとして、まちの歴史や魅力を作品に落とし込むため、まちの文化資源の研究に力を入れていただいた。実際の織物工場で機織りの音を録音するなど、日頃のホール・地域・行政の繋がりを活用した情報提供を行うことで、まちを深く理解いただく機会を設けた。

●企画実施にあたり苦労した点

まず、当初ターゲットとしたかったダンス経験者からの応募が少なく、参加予定だった若者も出演辞退となってしまったのが悔やまれる。ただ、結果的に、幅広い年代の方に参加いただくことができ、多様な出演者が集まったことは幸いだった。

特に苦労したのは、ホールのハード面の課題解決だった。フロアはフラットで狭く、スポットも可動式の照明もない。そんな課題だらけの設備でも、アーティストやテクニカルスタッフの豊富な経験と柔軟な発想力で、壁だと思われた課題を作品の世界観を表現する魅力へと作り替えていただいたことは、ホールとして大変大きな学びになり、殻を破る経験となった。

●事業の成果と課題

成果としては、何より「自分たちの住む町の魅力を知ってもらいたい」という目的をもって田村さんに物語を制作していただいたことで、出演者、観覧者に総じて、泉大津の魅力を感じてもらえたことだ。地域の観光資源や産業を題材に、このような物語作っていただけたこと、またその作品を大駱駝艦と一般参加市民で表現し、観客に感動を与えられたことは、個人にとっても、ホールにとっても大きな成果となった。今後の地域活性化事業において、素材としても活用していきたい。当初は考えていなかった成果として、出演者のモチベーションがあげられる。舞踏を体験したことによる成果だけでなく、作品を協力して作り上げる一体感、チームワーク、自分の殻を破る自己表現など、内面的な成長に繋がる貴重な経験となった。

課題としては、ワークショップの募集において「舞踏」を全く知らない方々を対象とするなら、学校や団体へ対し直接募集を募る必要があったのではという反省点があった。

●今後の事業展開や展望

今回の公演をきっかけに、新たな市民参加型作品など、継続して事業を提案していきたい。

●この地域のダン活の特徴

ホール担当者の、泉大津をテーマにした作品を制作し、地域の中に在る、消えていってしまうものを若い世代に残していきたい、という想いで始まったBプログラム。アーティストには、地域伝承の物語を取り入れた作品創作が得意な田村一行さんを希望され、市民とともに市の歴史や魅力を改めて捉え直す取り組みとなった。

下見時には、図書館などを訪れ、毛布生産が盛んだった時代の話や、市にまつわる昔話をリサーチしたり、泉穴師神社では宮司さんのお話を伺い、御神木との宣材撮影も行った。

1回目の滞在では、織機の工場を見学して、織機の録音や、商工会の方のお話を聞くなどリサーチも続けつつ、市民参加者との出会いを迎えた。若い世代の募集に苦戦されたようだが、10代20代を含み、60代まで幅広い年齢層の方が集まった。舞台経験がある方、舞踏に興味を持たれた方、ご家族で参加される方もいた。興味はあるけれど全日程参加が難しいという方もいたが、公募WSに参加した後にアーティストと相談して、多少不参加の日があっても工夫して稽古ができるということで、出演を決めてくださる方もいた。

公募WSは、市民参加者の方も参加して、舞踏の基本を丁寧に伝える時間となった。力を抜くこと、「私」を捨てることから踊りになっていくことなど、実際に身体を動かしながら体験を積み重ねていった。身体が糸で吊られているイメージや、身体が風船や水袋でできているといったイメージを持ち、「動かす」のではなく「動かされる」ことを意識することで、やわらかな動きが生まれていった。その後のクリエーションでも、基本の動きを、ゆっくり時間をかけて丁寧に身体に馴染ませていくと共に、随所で作品の構想や演出のイメージを伝えながら、振付や動きをつくっていった。

2回目の滞在までは約2ヶ月の空きがあったが、参加者同士のオープンチャットグループをつくり、振付や出来上がってきた演出など映像で情報共有し、関係性を維持する工夫をされていた。そして最終的に9名となった市民参加者とのクリエーションは、とても濃密な時間となった。

まずは市民参加者の出演するシーンの振付や段取りをどんどん伝えて、全体像が見えてきたら一つ一つの動きを深めていった。何をイメージしたシーンなのか、市民の方の質問に回答しながら、田村さんの世界観を共有して創作が続けられた。狐が水の湧き出る場所を見つける話など、市民参加者も知らなかった要素が盛り込まれ、ダン活をきっかけに自分たちが住む地域の歴史を再発見する過程になったのではないだろうか。体力的に大変なこともあったと思うが、市民の方のモチベーションは高く、動きの密度を上げていくため、本番直前まで稽古が続けられた。

そして迎えた公演本番。穴師神社や御神木、昔話をモチーフに構成された作品は、異世界に迷い込んだような不思議さもありつつ、思わず笑みがこぼれるユーモアのあるシーンもあり、地域に存在する歴史を掘り返すような作品になった。昔話だけではなく、泉大津の繊維産業をモチーフにしたシーンは、織機をイメージした舞台美術を出演者が本番中に組み立てていく演出に、工場で録音した音、そこに絡め取られるような田村さんのソロとつながり、織物を身近に感じながら育った出演者にも観客にも伝わるものが多い、胸に迫るシーンとなった。

●課題とこれからに向けて

ホールに常駐のテクニカルスタッフがおらず、備品も一般的な劇場と比べると厳しい条件だったが、リノを敷き、美術などで様変わりした様子は、普段あすとホールを利用している方にとって新鮮な体験だったと思う。アーティスト自身からは、今回はかなり仕込んで劇場の状態に近づけたが、一度公演を実施したことで、元々のホールの状態を生かして仕込みを減らす可能性にも気づけたという話が出ていたので、今回の経験を元に、あすとホールならではのCプログラムに取り組んでいかれることを期待したい。

また、コロナ禍ということもあり、客席を増やすにも限度があり、チケットが完売でご覧になれなかった方もいたらしく、今後もこうした取り組みを継続することで、今回アプローチしきれなかった若い世代も含め、より多くの方々にホールに興味を持ってもらえるようになればと願っている。

実施団体	一般財団法人こまき市民文化財団
実施ホール	小牧市市民会館・大ホール
実施期間	令和4年10月6日(木)～10月9日(日) 令和4年11月2日(水)～11月6日(日)
アーティスト等	アーティスト：康本雅子 クリエイションのためのアシスタント(共演者)：合田有紀、ミウラ1号 《ダン活枠外》田中志保、南野詩恵 テクニカルスタッフ等：小西小多郎
コーディネーター	坂田雄平

■公募ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)

- ① 10月9日(日) 14:00～15:00、小学生以上、ダンス経験不問、ペア(友人、親子など)で参加、30円(保険料として)、1組2人(2組4名がキャンセル)、小牧市市民会館・大ホール舞台上

■公演(演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数)

- 『マイ葬式』
- 11月6日(日)
- 14:00開演(13:15開場)
- 康本雅子、合田有紀、ミウラ1号、田中志保、市民参加者5名
- 一般1,500円、高校生以下無料(要整理券)、アートフレンド会員・一般1,200円
- 小牧市市民会館・大ホール
- 52名

**マイ葬式**  
自分だけの新しい用いたをテーマに踊ります

市民参加型オリジナルダンス公演

2022.11.6  
14:00開演(13:15開場)  
小牧市市民会館 大ホール

一般1,500円 | 高校生以下無料(要整理券) | アートフレンド会員 1,200円

8月12日(日) 9:30-  
アートフレンド会員先着予約券も1日19:00-  
チケットは8月12日(日)19:00から販売開始です。

小まき市民文化財団 TEL.0568-71-9700

**CONTEMPORARY DANCE**  
康本雅子

ダンサー・振付家、世界を旅するバックパッカー時代に出会ったアフリカンダンスに魅せられダンスを本格的に始める。自身の作品の他、演劇や映像や広告の振付など活動は多岐に渡る。音楽では一貫して、中ず、SalyuのツアーやMVの振付、演劇では松尾スズキ、白井晃、長塚光彦演出の舞台での振付など。最近では細田守監督の映画「電とそばかすのぼけ」や、NHK Eテレで放映中のアニメ「キャッチャーダンサーズ」に振付提供。また、ワークショップファシリテーターとして全国の小学校や劇場にてダンスワークショップを行っている。

**1日のみのダンスワークショップ参加者募集**

ふたごまつりになってステップしたり、動きたり。言葉でなく、身体で対話しあえるダンスの面白さ一面を体験してみませんか?

当日のメニュー  
・背骨あわせストレッチ  
・肩こりダンス  
・心拍ワーク  
・脇の付くダンス、etc

申込のみ  
電話またはメールフォーム  
TEL.0568-71-9700  
13:00～15:00受付  
申し込みは必ずつまみ

2022.10.9(日) 14:00～15:00  
会場 市民会館 大ホール舞台上  
対象 小学生以上、ペア(2人)まで  
参加できる方 服装、年齢、ダンス経験不問  
定員 10組20名(申込次第)  
費用 動きやすい服装でお越しください。  
参加費 30円(保険料として)

小まき市民文化財団オンラインチケットサービス  
小まき市民文化財団 TEL.0568-71-9700  
小まき市民会館 TEL.0568-77-8205  
小まき市民センター TEL.0568-79-0011  
小まき市民センター TEL.0568-76-7000  
小まき市民センター TEL.0568-71-1197  
小まき市民センター TEL.0568-71-9646  
チケット予約コール TEL.0568-71-9700



# スケジュール

愛知県小牧市／小牧市市民会館

	下見	
	6/14 (火)	6/15 (水)
9:00		
10:00		
11:00		舞台下見・打合せ
12:00	小牧駅集合	昼食
13:00	昼食	チラシ用写真撮影
14:00	小牧ジャズダンス連盟訪問	
15:00	市民会館着	
16:00	小牧南高校演劇部訪問	春日井高校演劇部訪問
17:00	市民会館着	
18:00	職員対象のインリーチ	
19:00	翌日の確認・解散	
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間①			
10/6 (木)	10/7 (金)	10/8 (土)	10/9 (日)
			クリエイション④
			↓
		クリエイション③	
会場入り		↓	公募 WS
全体顔合わせ打合せ			片付け
出演者のみで打合せ			後半に向けた打合せ
	準備	↓	終了
クリエイション①	クリエイション②	諸確認	
↓	↓	退館	
退館	退館		

	実施期間②				
	11/2 (水)	11/3 (木・祝)	11/4 (金)	11/5 (土)	11/6 (日)
9:00	舞台準備		照明仕込み		
10:00					
11:00					リハーサル
12:00					昼食
13:00				クリエイション⑧	集合写真撮影
14:00				↓	公演
15:00	音楽家入り		衣装打合せ	↓	新聞取材振り返り
16:00				ゲネプロ	
17:00	出演者入り	映像撮影			片付け
18:00	クリエイション⑤	クリエイション⑥	クリエイション⑦	直し	
19:00	↓	(通し)	↓	退館	退館
20:00	↓	↓	↓		
21:00	↓	↓	↓		
22:00	退館	退館	退館		

### 公募ワークショップ

本年度のBプログラムで3プログラム全て終わり、ダンス活性化事業は完了となる。過去2プログラムの公募ワークショップでは、いずれも参加者を集めることに苦戦した。集まらなかった原因は何だったのかを振り返り、事前に何をやるワークショップなのかを、できるだけ具体的にすることにした。そのため康本さんと相談し、「当日のメニュー」として、行う内容を「背中合わせでストレッチ」「肩つけ散歩」など、動きをイメージできるような言葉をいくつかチラシやポスターに記載した。実施時間も1時間程度にして、気軽に参加できるよう終了予定時間も分かるようにした。また、対象は小学生以上とし、「友だち、親子、夫婦などペアでの参加」を参加条件にした。それは「小学生以上を対象にしても、実際は一人で来る子はいないのではないか。それならばペアにした方が、親子で、友達を誘ってとなり、来やすいかもしれない」と考えたためである。「ペアで募集するのか、一人での参加を可とするのかでワークショップの内容が変わってくる」とのことだったため、「ペアでの参加」を条件にすることにした。

しかし、実際の応募状況は三組六名と厳しい結果であった。更に、そのうち二組はキャンセルになり、当日の参加者は小学生とその保護者の一組二名のみとなってしまった。ワークショップは財団の職員や公演の出演者も参加して行った。二人一組になって背中合わせになり床を這うように動いたり、一人が体の一部を使って輪っかを作り、その中をもう一人が潜り抜けるなど、踊るのではなくペアだからこそできる様々な身体の動かし方を試す時間だった。参加した小学生からは「いつもできないことができて楽しかった」という感想を聞くことができた。



## クリエイションの様子

### ●顔合わせとテーマに基づくコミュニケーション

出演者として公募で集まった人は全6人。そのうち2人はダンス未経験、他4人はダンス経験がある方だった。中学生以上を参加対象としたが、応募者の年齢層は30代から50代であった。年齢の開きが大きくないこともあり、リハーサル開始後すぐに打ち解けていた。

リハーサル初日は自己紹介ののち、今回の作品のテーマ「マイ葬式（自分好みの弔い）」に沿い何を葬りたいか、どのように送りだしたいかなどを車座になって話し合う事から始まった。

### ●新聞紙を舞台上でたくさん使う

康本さんの頭の中に「新聞紙を舞台にたくさん敷く」というアイデアがあった。古新聞を職場と職員の家からできるだけ持ち寄り、用意した。

舞台上に丸く大きな新聞紙の湖をつくる。ダンサーはその新聞紙の湖にもぐったり、泳いだりする。ダンサーの動きと共に舞う新聞紙の様子や、その時に発せられる音に、作品の世界を膨らませる効果が予想以上にあった。

### ●音楽とのセッション

「風景音楽家」という珍しい肩書のミュージシャンのミウラ1号さんとボーカルの田中志保さんが参加。田中志保さんはミウラ1号さんが連れて来てくれたスペシャルゲストだ。康本さんの構想をもとに、みんなでシーンを作っていく。作品中流れる音楽の生音が空間を包み、ダンサーの動きを豊かなものにするとともに客席に舞台作品を届ける大きな役割を担っていた。

### ●市民参加の方の体調管理など

参加者の一人から「肋骨が痛い」と話があった。病院で診察したところ骨などに異常はなく「普段使わないところを使ったので、筋肉痛だろうと言われました」と報告を受けた。その結果にホッとしたが、ご本人は痛みがしばらく続き、「後半は参加することを控えたい」という連絡があった。無理をしないことや、辛くなったらそれを言いやすい環境づくりをすべきだったと深く反省した。これは後半に活かすことにした。



### ●後半日程の開始

約1か月ぶりに出演者が集合。1か月のブランクを感じるどころか、この間に自主練習をしていて、市民参加の方々はさらにパワーアップしていた。前半日程で作ったシーンを復習のように行った。クリエイションがスムーズに進んでいる印象であった。

### ●遺影の撮影

後半日程から映像の小西さんが合流。「遺影を動画で撮りたいと思います。撮影した遺影の額縁は各々の好きなもので囲みます。それぞれイメージするものを持ち寄ってください」。そういった康本さんからのメッセージを前半日程終了後に出演者の方に送っていた。後半リハーサルの2日目に一人ずつ動画を撮影。額縁には思い出のギター、ぬいぐるみ、マフラーなど、思い思いのものが集まった。

### ●衣装の参加

後半日程の中盤から衣装担当として南野さんが参加。小牧入りする前に前半日程のリハーサル動画を共有し、南野さんが衣装アイデアを提案。事前に送られてきた衣装案のイラストがとても可愛らしく、当日パンフレットに使わせていただくことにした。市民参加の方に事前にイラストを見ていただいた時には「個別に衣装を考えていただけるなんて感動」という感想が届いた。本当にそうだと思う。「お葬式」という暗いイメージからは遠い、可愛らしくも少し不思議でこの世とあの世の間のようないい意味で奇妙な衣装の設定であった。

いろんな人が一つの作品に向かって、それぞれに尽力していく、というとてもシンプルだけれど大切なプロセスをきちんと踏んでいる実感を伴う日々だった。

### ●通し稽古

後半2日目には一度通しができるほどになっていた。だいたい50分程度の上演時間。劇場で照明を担当するものが通しを確認し、翌3日目に明かりづくりをした。その後出演者たちは衣装を着けてのリハーサルと順調に進んだ。

本番前日は予定時間より1時間早めてゲネを実施。大きな問題はなく、康本さんが気になったところを出演者と確認し、翌日の本番に備えることになった。



## 公演

## 『マイ葬式』



公演のテーマを「マイ葬式」＝自分だけの葬式としたのは、康本さんの「日本の葬式の方法は画一的すぎるのではないかと思う。もっといろんな葬式や弔い方があってもいいのでは？」という疑問から生まれたものだった。当初は、自分の弔われ方について出演者の皆さんと意見交換しながら作品を創ることを考えていたが、弔う対象を自分自身に限ることなく、苦い思い出や出せなかった手紙、言えなかった想いなど、葬りたいモノ、コトも対象にすることで、作品の幅を広げることにした。

当財団が指定管理者として運営している劇場は、客席数が1300を超える市民会館の大ホールだけである。その空間を埋めることも課題となった。また、大きなホールほど客席から出演者の顔や表情は見えにくい。そのため、映像を取り入れることにし、出演者の方の無表情から笑顔に変化する動画（＝遺影）を撮影し、背景に大きく映し出した。そして出演者として音楽家のミウラ1号さんとボーカルの田中志保さんに入っていたいただいたことも、音による舞台空間の充実に繋がった。更に、急遽お願いすることになった衣装の南野さんのアイデアは、「葬式」の暗いイメージからは遠く離れた可愛らしくて少し滑稽な、この世とあの世のはざまを垣間見る世界観を創り上げた。ダンス、映像、音楽、衣装、照明などまさに総合芸術として新しい作品が立ち上がったと感じている。

市民参加による出演者の皆さんのモチベーションも高く、作品づくりのプロセスが非常にスムーズであった。

広報は、康本さんの劇場下見時に地元のダンスサークルや高校の演劇部に直接宣伝に行くなど、普段あまり営業に出ることはないなか、新しい試みとして行った。ただし、その効果、成果が出なかったことが非常に残念であり、今後どのような取組をするのが良いのかを考えていきかけとなった。

また、後パブになるが公演翌日に中日新聞の朝刊で本公演の記事が大きく掲載された。

## ●来場者アンケートより（感想）

公募で集まれた方も出演されていたので、プロだけの舞台とはまた違ってその人自身の気迫と魂の部分がすごく伝わってきた。6回ほどの練習であそこまで出来るのは本当に凄いなと思った。内容も単にキラキラ、可愛いカッコいいと言ったわかりやすいものではなく、生き方とか死について自身で考えさせられる内容でとてもよかった。ぜひまた鑑賞したい。プロと一般の方の組み合わせが本当に良かったと思う。

●この事業への応募動機

小牧市には中部フィルハーモニー交響楽団があり、クラシック音楽に関しては定期演奏会、学校招待公演、吹奏楽部等へ楽団員が赴く音楽指導事業など、幅広く事業を行ってきた。そのため、他の様々なジャンルの芸術文化に触れる機会を提供していくことを目的に、平成30年度からダンス活性化事業に取り組み始めた。初年度はAプログラムのワークショップ、次にレパトリー公演を実施するCプログラムと、段階を経て実施してきた。これまでの経験を活かし、今回は、創造型の事業に関するノウハウを蓄積すること、また、参加した市民を通して地域のつながりを深める機会といたく、応募した。

●事業のねらいと企画のポイント

振付家の指示で何かを踊る、作品の一部になるというのではなく、市民の方も自ら考えて作品作りに参加する事業にすることをねらいとした。そのため、「自分の葬りたいものを、自分だけの方法で弔う＝マイ葬式」をテーマにすることで、ディスカッションから始まるクリエイションとし、出演者一人一人の個性が際立つ作品にすることが企画のポイントであった。

●企画実施にあたり苦労した点

公募による出演者、一日限りのワークショップ、公演の来場者、これら全ての集客に苦戦してしまった。昨年度のCプログラムの際も集客は課題として残り、今年度こそはそこをなんとか克服したいと考えていた。下見で康本さんが小牧を訪れる際を「広報の機会」と捉え、市内及び近郊の高校演劇部や地元で活動するダンス教室などを訪問し、企画の説明や康本さんとちょっとしたワークショップを行うなど、企画の一端に触れてもらった。しかし実際の応募や来場にはなかなか結び付かなかった。出演者として集まったのは6名。年齢層は30代から50代。下見の際に地元の高校演劇部などを訪問し企画説明をしたが、リハーサル日程がテスト期間と重なってしまい、通して参加することができないという話があった。そのため康本さんとも相談し、後半日程だけの参加も可能としたが、応募にはつながらなかった。また、市内のダンス教室やサークルも回ったが、興味は持っていただいたものの平日夕方以降数日間連続でのリハーサル参加は難しいとのことであった。

●事業の成果と課題

少人数でも、関わった方たちにとって発見や喜びとなる機会にしたいと考えていた。終演後に行った出演者とスタッフでの振り返りでは「これまでは型があるダンスを踊っていたので、型がないコンテポラリーダンスに最初は戸惑ったが、後半からは楽しめた」「ダンス経験がなかったので、こんな動きを自分ではできるんだ、と知る機会になった」「市民参加という、プロのダンサーが中心で踊り、作品の一部に出させてもらうものだと思っていたが、メインで踊ることになり驚いた」「来年もやってほしい。あったら参加したい」といった声が聞かれた。また、作品作りを通して公募で集まった5人はあつという間に打ち解け、結束力の強い「仲間」になっていった印象があった。

課題はやはり集客面であった。招聘型の公演が主催事業のほとんどである当財団においては、これまで広報開始の際に「誰が来て、何をやるのか」が非常に明確であった。今回のように「どういった作品であるのか」ということが広報開始の段階では未定で、決まりだした後も言語化するの難しい作業であった。

●今後の事業展開や展望

今後も招聘して実施する事業だけではなく、小規模であっても地域や市民の方とつながりが生まれるような事業を展開することができればと思う。また、今回出会った市民の方たちとの関係はこれからも大切にしていきたい。

●この地域のダン活の特徴

2018年度にAプログラムを開催した小牧市もついに3回目のダン活を迎えた。最終年となる2022年度はBプログラム。本来は2020年度に開催予定だったが、コロナ禍の影響を受け、2022年度へと延期になった。2021年度は当初開催予定であったCプログラムがひとつ飛ばしての開催になった。まさにコロナに翻弄されながらの開催となった。小牧市は、小牧・長久手の戦いの舞台ともなった小牧山をシンボルとしている。歴史的文化的資源がある一方で三大ハイウェイの結節点として内陸工業都市としての側面もある。2018年度当時は、実施者となった（一財）こまき市民文化財団も2017年からスタートしたばかりの財団だった。はじめてダンス活動でアウトリーチに取り組んでから、5年を経てどのように変化してきたのか、そんな視点も持ちながら、今回のプロジェクトについて報告したい。

康本雅子さんによるBプログラムは、担当者の作品創作にかける思いも強く、エッジの効いた作品テーマと公演内容だった。とにかく作品は素晴らしいの一言だった。葬式という死を連想する重めのテーマであるが、参加者とコミュニケーションをとりながら、自分のお葬式を演出するなら？や自分の中で埋葬したいもの・エピソードなど参加者から聞き取り、My葬式や埋葬式のイメージを飛躍させ、作品として立ち上げていく。ダンス・音楽・映像・衣装とクリエイター陣のサポートも充実していたことはもちろんのこと、市民のポテンシャルも余すことなく生かされ、且つ、作品構成も見応えのあるものだった。観客の反応からも、その作品の魅力は十分に伝わっていたように思う。こうした創作現場に立ち会えたことは一舞台人としても幸運なことだった。さて、一方で苦労したのが集客だ。集まった参加市民は6名（途中1名が体調不良となり、出演は5名）、観客も52名と少なかった。ワークショップは当日キャンセルもあり、2人と極めて少なかった。2018年度から集客には苦戦していたこともあり、下見時点で康本さんと共に高校やダンス教室などに足を運んだり、PRの動画を作成したり宣材写真を撮影するなど、初年度よりもだいぶ広報活動等には力を入れていた。しかし、期待した結果につながらなかったことは残念でならない。一方で会館のスタッフワークは回を重ねるごとに頼もしく、参加した市民や観客の満足度は非常に高いダン活だった。特に参加者の有意義な繋がりは、この事業のなによりもの財産となったのではないだろうか。今回の参加者を中心に、次につながる事業展開が期待されるダン活であった。

●課題とこれからに向けて

小牧市市民会館は、コロナ禍の影響を受け、長期間にわたってダンス事業と向き合うことになった。初年度からの課題は集客だ。そのすぐ翌年から新型コロナウイルスの蔓延もあり、市民の集いの場としていくことの難しさは一層のものだったと思う。一方で券売においては、チケットの団体営業（割引や招待など）の通常の営業活動に取り組むことができなかった。特に下見時に関係性のできた団体へ協力のお願いが十分にできなかったことは悔やまれる。団体への券売営業などはやり方によってはマイナスの側面もあるが、そのバランスを十分判断し、柔軟な対応を取る専門性も公共ホールには求められる。特にエンタメ作品ではなく、首都圏等で上演されるような新規性・芸術性の高い公演は、内容の良し悪しが集客数と相関するとは限らない。稀有な鑑賞の機会は市民の文化的なリテラシーを高める契機にもなる。今回の公演も参加者や観客からの評価が高かっただけに、あと一步を動員することができていたら、その人たちが新たな観客となった可能性もある。2018年度のダン活では、財団スタッフの熱意と希望溢れるビジョンにとっても心動かされた。今回もたくさんのスタッフの方の熱意を感じつつも、スタッフが抱える歯痒さも感じられた。今回生まれた参加者たちとの繋がりは会館にとっても大きな財産だ。今回の参加者たちをさらに活躍させる次の事業にぜひ取り組んでほしい。そのことが、小牧市民と会館の職員の熱意を余すことなく循環させる仕組みづくりに繋がるはずだ。

実施団体	一般社団法人天草市芸術文化協会
実施ホール	天草市民センター
実施期間	令和4年11月18日(金)～11月20日(日) 令和5年1月4日(水)～1月9日(月・祝)
アーティスト等	アーティスト：藤田善宏 クリエーションのためのアシスタント(共演者)：渡邊未有、白石美徳 テクニカルスタッフ等：なし
コーディネーター	小岩秀太郎

■公募ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)

- ① 11月18日(金) 19:30～21:00、小学4年生以上、一般500円 高校生以下100円、15名、天草市民センター ホール

■公演(演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数)

- 『踊らんどアイランド』
- 1月9日(月・祝) 14:00開演(13:15開場)
- 藤田善宏、渡邊未有、白石美徳、市民ダンサー(ワークショップ参加者から)7名
- 一般1,000円、高校生以下500円
- 天草市民センター ホール
- 164名

天草市民センター 自主文化事業

新しい場所をつかんで、  
自分自身、成長の日に  
向かおうモシロイと  
やっつけておもしろ  
い。

# 踊らんどアイランド

ODOLAND ISLAND

天草の市民ダンサーが、  
ダンスカンパニーCAT-A-TACの  
藤田善宏と創る  
生楽器と身体表現を使った  
三世代で楽しめる  
超絶オモシロイ  
ダンスパフォーマンス!

演出・演出：藤田善宏(CAT-A-TAC主宰・コンパニイ)  
出演：市民ダンサー、CAT-A-TAC

令和5年  
1月9日(月・祝) 14:00開演  
開場 13:15

チケット 令和5年  
12月2日(金) 発売開始  
一般 1,000円  
高校生以下 500円 全席自由

天草市民センター  
〒863-0032 天草市南町3番地  
TEL 0969-22-4125  
Eメール center@amakusa-sic.com

天草市民センター  
〒863-0032 天草市南町3番地  
TEL 0969-22-4125  
Eメール center@amakusa-sic.com

# 踊らんどアイランド

～生のリズムでカラダが遊ぶ いつもと違うダンスの世界～

ダンスカンパニーCAT-A-TACの3人が天草に1週間滞在して  
市民ダンサーたちと一緒にオモシロいことをやります!

ダンスはもともと、バージョンの生演奏にエネルギーな発想を組み合わせた  
ここでは見られない天草ならではの舞もカタチに表現します。  
ダンスが得意な中学生、プロ志向の高校生や  
とにかくダンスが好きなお大人たち、  
様々な年齢層が一緒に  
プロのアртиストのアシストのもと、踊り広げる楽しいステージです。

開演前夜の“天草音楽大戦”、その特らのホールで  
新年早々、おじいちゃんおばあちゃんも誘ってご来場で  
はまたご友人どうして楽しいひとときをお過ごしください。

市民ダンサー

このほか、さらに多彩な市民ダンサーたちが出演!

CAT-A-TAC

藤田 善宏 演出・指揮  
小じたしひろ (パーソナリティ)

渡邊 未有 (ダンサー) 白石 美徳 (パーソナリティ)

新村 宏・演出家・ダンサー・デザイナー、ダンスカンパニー CAT-A-TAC (キヤットアタック) 主宰、コンドルズメンバー、文化庁芸術祭観劇部門新人賞受賞、福井県音楽会式典演奏技研会会長、群馬大学非常勤講師、身体表現と道具の得意、た台詞のいい物語、柔軟な発想を生かした真ジャンルや伝統芸能とのコラボの得意、三世代で楽しめるダンス劇や児童演劇・幼児教育教材の監修、障がい者対策ワークショップなど多岐性も重視した活動にも力を入れている、卒業生やジェネズ 3x 主演舞台、TEAM NACS、山田洋次監督賞受賞舞台、Eテレ他、舞台出演入団ダンサー多数。

お問い合わせ：天草市民センター  
〒863-0032 天草市南町3番地  
電話 0969-22-4125  
center@amakusa-sic.com

天草市民センターオフィシャルWEBサイト  
www.amakusa-sic.com

新型コロナウイルス感染症  
対策のためのお願い

マスク着用 手洗いや消毒 3密回避



# スケジュール

	下見	
	7/13 (水)	7/14 (木)
9:00		崎津集落視察
10:00		大江天主堂
11:00		移動
12:00		昼食
13:00		移動
14:00		振り返り
15:00	天草着	終了・移動
16:00	地場産業視察	
17:00	会場下見	
18:00	打合せ	
19:00	交流会	
20:00	↓	
21:00		
22:00		

実施期間①		
11/18 (金)	11/19 (土)	11/20 (日)
		クリエイション②
		↓
		昼食
	クリエイション①	振り返り
	↓	↓
天草着		終了・移動
打合せ		
WS 準備		
	打合せ	
公募 WS		
↓		

	実施期間②					
	1/4 (水)	1/5 (木)	1/6 (金)	1/7 (土)	1/8 (日)	1/9 (月・祝)
9:00				照明仕込み		準備・手直し
10:00		リノリウム		↓	テクニカル 打合せ	修正リハ
11:00			音響打合せ	シュート	手直し	↓
12:00				休憩	休憩	最終確認
13:00		映像チェック	サウンド チェック	シュート	クリエイション⑦	会場
14:00		個別練習		テクニカル 打合せ	↓	公演
15:00	天草着	↓		クリエイション⑥	↓	バラシ
16:00	打合せ	打合せ	リノ手直し	↓	テクリハ	振り返り
17:00	準備			↓	休憩	↓
18:00			個別練習	休憩	ゲネプロ	終了
19:00	クリエイション③	クリエイション④	クリエイション⑤	通し稽古	↓	
20:00	↓	↓	照明オペ立会い 稽古	↓	修正リハ	
21:00	終了	終了		終了	終了	
22:00						

### 公募ワークショップ

今回の公募ワークショップでは、経験者にはプロのダンサーの指向やテクニックを学び、さらに高めるヒントが得られるよう、また未経験の人にはダンスと出会うことで自分の表現力を開花させることを狙って、ダンス経験を問わず、募集したところ 15 名の参加を得て、和やかな雰囲気楽しく進み 1 時間 30 分があっという間に感じるほどであった。

参加者は、幼少期からバレエを始めて、指導者の経験もある主婦や、根っからのコンドルズファンで関西でのワークショップ合宿に参加した人、小さいころからダンス経験を重ねてきた高校生や小中学生、市民劇団に所属している親子、更には牛深ハイヤ祭りでのキーパーソン的な踊り手、プライベートでは日舞を習っている熊本県の ELT として在日中のアメリカ人女性など、全員がダンスや演劇などの表現活動の経験者で、9 歳から 59 歳の 3 世代と言える幅広い年齢層が集まった。

感染症対策として、検温、手指消毒、体調の確認を事前に行いワークショップ中のマスクの着用は必須とした。その他、近接したり接触することもあり得ることが藤田さんから伝えられて参加者のコンセンサスを取り、対策とワークの適切なバランスを取りながら進められた。

アシスタントの渡邊さんの指導でのストレッチに始まり（終了後も同じく渡邊さんの指導でのクールダウンで終わるという形が後のクリエイションでもセオリーとなっていた。）自分の身体の可動域を確認し合ったりペアになって相手に身体を預けるゲーム、白石さんが刻むドラムのリズムで身体を遊ばせるメソッドなどで、身体表現の楽しさとバリエーションの広さを再発見できた様子だった。



## クリエイションの様子

### ●クリエイション①

2日目となったクリエイション①は午前中に公演チラシ用に市民ダンサーのバストアップ写真の撮影を行い、土曜日ということもありお昼から夕方までの4時間を使って、シーン作りに取り組んだ。5人の市民ダンサーに藤田さん渡邊さんが加わった横一直線のダンス、椅子を使ったダンスを2パターン、フットライトを使ったシルエットバトルなど、次々と藤田さんの中の構成がカタチを成していく。

### ●クリエイション②

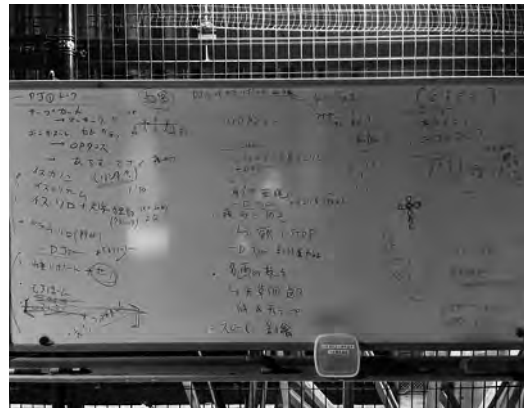
作品の組み立てが進み、キーワードとして挙げた“新しい橋”の元となる開通まで1ヶ月半となる天草未来大橋にちなんで、「勝手に開通式」のシーンを冒頭に持ってくることにした。また、地域FM局のパーソナリティーである、市民ダンサーのお母さんとそのラジオ局の全面協力で、舞台上に実際の野外用のラジオブースのパネルを設置し、作品全編を模擬ラジオ番組とリンクさせて進行するというアイデアが具現化することとなった。

### ●前半を終え後半に向けて

前半のクリエイションで見えてきた構成内容を藤田さんと共有し、次回までの準備物などを確認した。現段階でのシーンの構成、それに伴うテクニカル部分のオーダー、必要な舞台道具、衣装、使用する楽曲の音源、自主練習用の振付動画などについて、調達方法と期限の確認を行った。公募ワークショップの参加者に再度公演への参加を促したところ2名が後半の3日目から参加可能となり合計7名の参加となった。なお、藤田さんが高校生の友澤さんが、しっかりと踊れることを見抜いてシリアスなダンスシーンに起用することとなった。

### ●自主練習

前半のクリエイションでは練習できなかった、ラストのダンスと変更することになったオープニングダンスの振付動画が完成したので12月15日(木)に市民ダンサー4名で集まり、新しい振付けを覚えるとともに、前半に撮影していた動画も共有して各シーンの振付の確認もを行い、後半のクリエイション再開まで自宅練習をお願いした。



### ●クリエーション③（後半初日）

12月の自主練習から20日余りを経て5日後の公演本番に向けてクリエーションを再開した。本物のラジオブースの設置も出来た舞台上で、「開通式」からの各シーンと新しい振り付けの確認作業を順に行った。オープニングには、藤田さんが主宰するCAT-A-TACの本公演でも行う印象的な振り付けを組み込んでくださり、インパクトのあるオープニングになりそうな予感。

### ●クリエーション④⑤⑥⑦

舞台上にはリノも敷きこまれてダンスステージらしくなり市民ダンサーも覚悟を決めたかのように熱を帯びた稽古となっていた。また、後半3日目から新たに2名が参加して7名全員でのクリエーションが出来るようになり、本番の流れがより分かりやすくなってきた。

後半4日目の、この日から照明の仕込みも整った舞台での稽古が出来、藤田さんの演出意図に合わせた数パターンアイデアが繰り出され演者、明かり、音の連携も分かりやすくなってきた。

### ●サイレントなハイヤ節

作品の中盤、暗転で板についた踊り手が明りきっかけで牛深ハイヤのオーソドックスな振りで踊り始める。それも最初は無音で。そのあと白石さんのドラムの音が追い駆けるかのように入り、やがて一体となる雰囲気には驚かされた。それも稽古を重ね合わせていくたびに洗練されていく感じが素晴らしく、踊り手も奏者も新しい発見が出来たようだった。

### ●ゲネプロ

本番を明日に控えた1月8日(日)13:30からの7回目のクリエーションで最終確認。それぞれの出ハケ、衣装や小道具のチェンジをシミュレーションしながらの通稽古も上手くいき、いよいよ18:30ゲネプロがスタート。出演者のテンションも上がって順調にスタートできたが、出ハケの戸惑いや、映像のキッカケに遅れがあったが、この時見えたことにより本番までしっかりと修正と確認が出来た。



## 公演

### 『踊らんどアイランド』

新しい橋もつながったし新年早々、成人の日に何かオモシロイことやってみよう！プロジェクト



7月の個別研修の際の地元実演家との交流会で語られた天草での表現活動への思い、世界遺産の崎津集落などで触れた「潜伏キリシタン」の歴史、天草五橋や上島、下島を繋ぐ橋にまつわるエピソードなどから、コンセプトを「橋、島をつなぐ、新年、冬、宝島」として、プロジェクト名を「新しい橋もつながったし 新年早々、成人の日に 何かオモシロイこと やってみよう！プロジェクト」、公演タイトルを「踊らんどアイランド」とした。

作品は、地元FM局の実際の番組そのままのタイトルコールで始まり、地域のトピックを紹介するかの様な流れで各シーンを繋いだ。まず、開通間近の「天草未来大橋」の開通式のシーンから始まり、この後のオープニングダンスのころまでは、あつけにとられた様子の観客も3つ目のシーン、椅子取りゲーム辺りでようやく「このステージの見方、が理解できたようで会場は和やかな雰囲気となっていた。そのあと天草ならではのエピソードを盛り込んだシーンが続き中盤では、こちらからリクエストした2つのシーン、「成人の日なわ跳び」、のシーンで盛り上がり、シリアスなダンスシーンでは観客を魅了していた。最後にはコロナ禍から解放されてステージで踊れることへの感謝と、観に来ていただいた観客への感謝の気持ちを込めたメッセージとダンスで幕を下ろした。最後まで観客を飽きさせることなく約60分間のプログラムを終え2度のカーテンコールでも拍手が鳴り止まず、三度登場して観客の気持ちに応じてようやく終了となった。

#### ● 来場者アンケートより（感想）

- みんなの心がまとまった。短期間でできたと思わないほどすばらしかったです。涙がでました。四郎に見えて感動でした。
- コロナを心配してましたが満足でした。楽しく観ました。ありがとうございます。
- 感動しました。静と動、リズム、天草の題材…美しかったです。今後のご活躍も楽しみにしています。
- 見てて、みなさんのパワー、楽しさが伝わってきました。こちらこそありがとう。たのしかったです。
- 天草の色々なことが盛り込んであって良かったです。また、出演者の紹介も面白かった!!とても楽しく見させていただきました。
- 面白かったです。本当は自分も出たかったのですが、諸事情により今回はスキップしましたが、また次回あれば絶対参加します！
- とても良かったです。天草でこのような舞台が観れて幸せです。

●この事業への応募動機

市民参加型の創作ダンス公演に取り組むことで、ダンス経験者にはプロダンサーの指導によりさらに高めるヒントが得られるように、また未経験の人にはダンスとの出会いで自分の表現力を開花させられるように、さらに、コロナ禍で引きこもっていた心を開放できるような明るく楽しい雰囲気に取り組めるように、この創作プログラムに応募した。

●事業のねらいと企画のポイント

コロナ禍で引きこもっていた心を開放できるような表現を天草独特の文化と絡めて創作していきたい。具体的には、この2～3年のあいだに、やりたくてもできなかったことを挙げて、そこからテーマを見つける。潜伏キリシタンの苦しみから開放されても隠れキリシタンとして独特の信仰を続けているところ、それに相反した南蛮文化がもたらした自由な精神と、進取に富んだ気性の人々が多いなどといった点なども盛り込めないか工夫する。さらに熊本市から2時間という距離があり県内でも特別な生活・文化圏という意識や、海と山の自然が豊かな地域性を表現したい。

●企画実施にあたり苦労した点

今回のような市民参加型の作品創作において、早い時期にプロジェクトの趣旨をもっと具体的にすることの重要性を感じた。アーティストの作風に頼りすぎて、つい受け身になってしまい、外部へのアピールポイントを見いだせないままに動き出してしまった。その結果、告知・広報が後手に回って、その期間が短くなってしまった。その対処策としてチラシには詳しく載せられなかった情報を当日のパンフレットとして市民ダンサー全員の顔写真とコメント、二人のアシスタントのプロフィール、そして踊らんどアイランドとは？を入れて配布し「このステージの見方」を理解してもらえるようにした。しかし集客につなげるためには、実施団体の立場で早い時期に今回のような創作作品の全容を把握して語ることは困難であり、初期の段階からアーティストとのディスカッションを重ねて具体的な方向性を定めて、共有したうえで、キャッチコピーなどを先行させて、それに沿ってクリエイションを行うといった手法をアーティストに求める必要があると痛感した。

また、作品創作にあたり地域の特性をもっと理解しやすいようにアーティストが地域のいろんな場所を巡ることが出来るスケジュールとクリエイション期間中の現地での移動方法に検討の余地があると感じた。

●事業の成果と課題

終演後に出演者全員での振り返りでは、一人一人からこのプロジェクトに応募した思いや、やり遂げた思いを語ってもらったところ、以下のような「ダンスの楽しさを再認識した。」、「表現の仕方として新しい発見があった。」、「コミュニケーションが苦手だった自分が変わった。」などの発言が出て、このプロジェクトの狙いの一つが達成できたと感じた。さらに、今回出演した市民ダンサー7名にチームとしての連帯感のようなものが芽生えたので、今後の事業展開へ繋げられるような公演活動ができるような会館付きのパフォーマンスユニットとして存続できる方策を考えたい。但し今回の各シーンをそのまま模倣した再演には、権利等、様々な問題が絡むため各方面への相談と調整は必須であると考えます。

●今後の事業展開や展望

今後Cプログラムへ取り組んで、アーティストのレパトリー作品を上演し、コンテンポラリーダンスのファンの裾野を広げたい。また、公募ワークショップにおいては、今回の作品創作に参加したメンバーを核にしたパフォーマンスユニットを立ち上げるきっかけ作りをしたい。

●この地域のダン活の特徴

天草市への移動は、東京からだとは飛行機とバスを乗り継ぎ7時間の旅だ。干潟や島原半島の雲仙岳といった有明海ならではの風景を横目に、キリタン天草四郎であまりにも有名な天草諸島を渡っていく。これだけ長距離だと（東京からの場合だが）文化が停滞しているのではと思いがちだが、全くそんなことはなかった。キリタン文化が隆盛した土地らしく、天草市民は、ヨソの文化を柔軟に取り入れ、またフットワークも軽く、進取に富んだ気性を持っていると感じることが多々あったのだ。郷土芸能として全国的に有名な「牛深ハイヤ」の伝承地も天草市で、それらは遠く新潟の「佐渡おけさ」や青森・北海道までも輸出され、徳島の「阿波踊り」のベースにもなっているほど、インパクトがある芸能を生み出した。現代でも、ダン活以前からコンドルズのワークショップを開催したり、演劇が盛んだったり表現活動に非常に積極的だ。実施館である天草市民センター館長の湯貫氏自らも音楽や演劇への造詣が深く、数々の職種を経験した上で館長になっているから筋金入りだ。

芸術の可能性や喜びの現場を数多く見て信じている湯貫氏だからこそ、コロナ禍での我慢や不安な気持ちを吐き出させ、前向きな未来を歩みたい、という強い意識がこのBプロの企画の柱であり、それに最適なアーティストとして藤田善宏氏を希望された。藤田氏にとってダン活アーティストに登録されて初めての市民参加作品であったが、地域固有のストーリーや市民の才能を的確に捉えて演出し、ダンス表現までもっていく経験の豊富さは聞きにし及ぶもので、今回も、ワークショップ参加者のそれぞれの個性を即座に見出して引き出し、その多くを市民ダンサーへと引き込んだ。また丹念なフィールドワークと天意無縫にも思える自由な発想は、天草の人の当たり前を“輝かせる”素晴らしい地域資源として作品へと昇華させた。

天草にも地方ラジオ局があり、多くの市民が耳にする媒体である。ワークショップに参加し、市民ダンサーとしてエントリーしていた女子児童の母親がたまたま保護者として見学に来ていたのだが、その母親こそラジオDJで、彼女を急遽起用し、ラジオ放送をも作品に入れ込んでしまった藤田氏の手腕と発想力には舌を巻いた。そして最終的には踊る気がなかったこの母親まで踊りの輪に加わせ、親子共演の大感動を生み出してしまった。とはいえ藤田氏も、地方におけるラジオやケーブルテレビのような草の根媒体を活用することで、市民にダンスを広めるという構想を元から持っていたといい、それが今回形になったことは「エポックメイキングな舞台だった」と言わしめた。

またやはり、職業や地域、世代、外国人まで多様な市民に粘り強く声をかけ召集した湯貫氏の人望の厚さと、芸術・表現への熱意に、公共ホール担当者の「自ら好きで、企画・制作する喜び」の姿を見ることができたのは幸せであった。

●課題とこれからに向けて

芸術活動への湯貫氏の熱意と愛情が強い分、何でもやりきれしまうのだろう。ホールの若いスタッフをチーム仲間として、ホール運営にうまく引き込みたい。スタッフの皆さんもそれぞれ専門性も高く職人気質な感じがある一方、一緒に何かを作っていくための人材育成の機会づくりに期待したい。業者の発注ミスで急遽スタッフ・参加者総出でリノ敷が行われたが、その時にみんなで力を合わせ、知恵を出し合った時の楽しさ、清々しさ、笑顔は忘れないでおきたい。

広報面での募集チラシの文案やデザイン作成のほとんども湯貫氏が担っていたが、若いスタッフの視点や意見を積極的に取り入れたり、役割分担を試みたい。また、広報の方法をホール窓口だけでなく、メール申込みなどにチャレンジするなど、客層・利用者層のシフトチェンジも検討したい。

また、下見時から本番終了までを追った今回の映像作品は、センターのどんな人たちがどんなことをやっているのか、その関心を高めてくれると思う。積極的に活用してほしい。

出演者同士が積極的に連絡先を交換し連絡グループができたという。ダンスの楽しさや入口を知った市民ダンサーたちを逃さず、よりよい・より楽しいホール運営の外部評価員のような形で携わってもらいつつ、今よりもっと「天草市民ホールの舞台にあがりたいたい！」という声が増えることを祈っている。

実施団体	公益財団法人茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団
実施ホール	茅ヶ崎市民文化会館 大ホール
実施期間	令和5年1月19日(木)～1月22日(日) 令和5年2月15日(水)～2月19日(日)
アーティスト等	アーティスト：北尾亘 クリエーションのためのアシスタント(共演者)：河内優太郎、山田茉琳 テクニカルスタッフ等：中瀬俊介
コーディネーター	中富勝裕

■公募ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)

- ① 1月19日(木) 18:30～21:00、小学4年生以上、500円、16名、茅ヶ崎市民文化会館大ホール

■公演(演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数)

- 『冬のやぐら～茅ヶ崎 Re:mix 2023～』
- 2月19日(日) 14:00開演(13:15開場)
- 北尾亘、河内優太郎、山田茉琳、市民ダンサー(13名)
- 一般：1,000円 高校生・大学生：500円 中学生以下：300円
- 茅ヶ崎市民文化会館大ホール
- 81名





# スケジュール

神奈川県茅ヶ崎市／茅ヶ崎市民文化会館

	下見	
	9/13 (水)	9/14 (木)
9:00		
10:00	茅ヶ崎駅集合	
11:00	会場下見 打合せ	集合・打合せ
12:00	↓	休憩
13:00	休憩	会場下見 打合せ
14:00	市内見学 広報写真撮影	市内見学 広報写真撮影
15:00	↓	↓
16:00	↓	↓
17:00	会場下見打合せ	↓
18:00	解散	解散
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間①			
1/19 (木)	1/20 (金)	1/21 (土)	1/22 (日)
			テクニカル 打合せ
		テクニカル 打合せ	
	市内見学 映像素材収集	休憩	クリエーション 準備・受付
	↓	クリエーション 準備・受付	クリエーション③
集合・打合せ		クリエーション②	↓
アーティスト 舞台上稽古	↓	↓	↓
↓	打合せ	↓	↓
公募 WS 準備・受付	クリエーション 準備・受付	↓	舞台バラシ
公募 WS	クリエーション①	解散	打合せ
↓	↓		解散
↓	↓		
公募 WS セット バラシ	解散		

	実施期間②				
	2/15 (水)	2/16 (木)	2/17 (金)	2/18 (土)	2/19 (日)
9:00				リハーサル 準備・受付	リハーサル 準備・受付
10:00	舞台仕込み			自由練習	リハーサル
11:00	↓			↓	↓
12:00	↓	テクニカル 仕込み (照明)		休憩	休憩
13:00	↓	↓	テクニカル 仕込み (照明以外)	リハーサル	開場
14:00	集合 全体打合せ				開演
15:00	テクニカル 仕込み				↓
16:00	↓	↓	↓	↓	終演 振り返り
17:00	クリエーション 準備・受付	クリエーション 準備・受付	クリエーション 準備・受付	↓	↓
18:00	クリエーション④	クリエーション⑤	クリエーション⑥	ゲネプロ準備	スタッフ振り返り
19:00	↓	↓	↓	ゲネプロ	解散
20:00	↓	↓	↓	↓	
21:00	解散	解散	解散	翌日準備 解散	
22:00					

### 公募ワークショップ

コロナ禍に伴い市民の世代を超えた関係性が育まれる場であった祭りや催しが数年にわたり中止され、地域で世代間交流の機会が減少していることに社会的な課題を感じ、市民文化会館がそのような場の役割を果たせるようになりたいという思いが令和4年度のダン活実施の根底にあった。

ダンス経験の有無を問わず、関心を持ってくださった方が構えずに、気付けば自分も踊っていたという発見と喜びを感じ、さらなる興味へとつなげられるよう、北尾さんに相談して「茅ヶ崎の町や暮らし」という身近に感じられるテーマを設定した。

多世代を狙いとした募集に対し、公募ワークショップでは小学生をはじめとする10代～70代までの各年齢層から応募が得られ、「踊ってみましょう」ではなく「遊んでみましょう」と投げかける北尾さんの進行と、日常動作をアレンジした振り付けの数々に、会場の緊張感が次第にほぐれていった。

「両手でふすまを開け」→「隙間を通り」→「足で閉める」など、北尾さんが日常の中の情景や動作をストーリー仕立てに振り付け、その連続がいつのまにかダンスになっているという発見を相互鑑賞で得られる頃には、各々が全身を使って踊ると共に、それまで静かなダンスをしていた方が次の瞬間から飛び出すようにして舞台を広く動き回るなど、表現のスイッチが入る瞬間も見られた。

北尾さんが「地域の世代間交流」というコンセプトに合わせてダンスの中にコミュニケーションの要素をふんだんに取り入れてくださったおかげで、参加者からは「初めて出会った人や知らない人とも、踊りで楽しさや喜びをシェアし合えた。」など、企画の趣旨を実感いただける感想が得られ、広い世代の参加者にここでしか得られない出会いとダンスを通じた交流の機会を創造することができた。



## クリエイションの様子

### ●数字ワーク

0～10の数字に対応した10種類の動きを順に行う。

例) 1:スローモーション / 4:四つん這いで進む /

6:自由に「6」を表現 / 10:十倍速

主に年少の参加者が挑戦しはじめ、それを真似しながら周りの参加者も徐々に表現を大きくしていった。

数字の共通テーマの中で自分達の自由な感性が表現でき、個を大切にしながらも周りを感じられるワークであった。

### ●交流を生むワーク

それぞれが自由な方向にゆっくり歩き、他の人と目が合ったら足タッチ、肘タッチ、ハイタッチと順にタッチし、手を振ってまた移動する。

目が合う瞬間、そして手を振って別れる瞬間は、もれなく全員の顔に笑顔が浮かんでおり、身体の触れ合いとも相まって、相手との心の距離感がぐっと縮まるワークであった。

### ●モノケダンス

1月のクリエイション後、北尾さん、河内さん、山田さんの3名が踊るモノケダンスの動画を参加者に配布した。

テンポの速い振り付けで、練習は自由であったが、2月のクリエイションまでの間に自主練習室を開放したこともあり、互いに教え合いながら取り組み、2月に北尾さんと再会した際には皆が曲に合わせスムーズに踊れるようになっていて北尾さんも驚いていた。

### ●盆踊り（茅ヶ崎 Ver.）

1月のクリエイションで参加者から募ったアイデアを北尾さんが歌詞にして紹介した。自分の好きなスポットが登場するフレーズとそれにベストマッチした振り付けを目にして、参加者達からは感嘆の声が上がり、皆が自然とその場で身体を動かしていた。茅ヶ崎の盆踊りは一曲の紹介を終えた時点で既に皆のお気に入りとなっていた。



### ●映像合わせ

北尾さんとテクニカルスタッフの中瀬さんが市内各所を巡って撮影・編集してくださった背景用の映像を初めて目にした瞬間。参加者達からは歓声と拍手が上がり、自分達の知っている場所の登場に作品へのモチベーションが急上昇していた。

続いて1月から練習を重ねてきたモノノケダンスをスタイリッシュな映像を背景に踊る場面になると、皆のワクワクと喜びが伝わってくる活き活きとした様子が身体全体に表れ、映像とダンスが融合する瞬間が生まれた。

### ●グループ創作ダンス

茅ヶ崎の「海」「山」「道」というテーマで分かれ、グループ毎に情景を表現するダンスを創作した。

時間をかけて対話と試行錯誤を重ねながらも各グループが想像力に富み、一人一人が動くシーンと複数名で一つのものを表現するシーンを織り交ぜながら、最後は全員で一つのうねりとなるドラマティックな展開となった。

### ●リノリウムはがし

「冬のやぐら」ではシーンを追う毎に完全にセットされた舞台から素舞台になるまでの様子をお客様に見ていただくという演出も含まれており、クライマックスの盆踊りへ向けたリノリウムはがしの方法を舞台スタッフの指導のもと、二人一組となって、時に「こっちの方が早いかも。」と皆で意見を出し合いながら練習した。

### ●ゲネプロ

公演前日、自由練習として開放した早い時間から参加者達が集まり、数人でおさらいをしたり、自分が参加できなかった時間に決まった事項をペアが教えてくれたりと、緊張感に包まれながらも交流に富んだ時間を過ごしていた。

ゲネプロでは本番と同じ衣装に身を包み、各々の気迫が舞台袖でも感じられるダンス中、ふと目の合った人同士がニコッと微笑み合うなど、苦楽を共にした仲間を励まし、その瞬間を楽しめる、表現がいつそう輝く場面があった。



## 公演

## 『冬のやぐら～茅ヶ崎 Re:mix 2023～』



企画当初、北尾さんには茅ヶ崎の魅力ある場所やモノをダンスで表現する「旅番組」の様な舞台を創ることはできないでしょうか？という相談をさせていただいた。「茅ヶ崎」をテーマとした作品を企画することで踊り手と観客双方の地域愛や作品への関心が湧き上がることを期待した。北尾さんは驚きながらも「面白い！やりましょう！」と、その後の励みになる力強い言葉を返してくださった。

制作にあたっては映像の中瀬さんにも加わっていただき、北尾さんと共に茅ヶ崎の海から山、そして日常の町の情景などロケーションハンティングを実施した。ステージの背景に洗練された映像で次々と映し出される身近な風景の登場に、クリエイション中の市民ダンサーにも公演中のお客様にも驚きと喜びを感じていただけた様子であった。

また、北尾さんのご提案で当館ホールの舞台機構を余すことなく見ていただける構成を計画した。舞台スタッフも交えて調整を重ね、完成されたセットからシーンを追う毎に複数の幕やリリウムが次々とはけて、素舞台の上に日常的に利用・貸出している舞台備品のみで作ったやぐらが登場し、会場全体を巻き込む盆踊りでラストを飾るという大転換の演出がなされ、お客様からも大好評を得た。

公演に関わる様々な人の役割と専門性が演出に反映された作品をお届けできたことが嬉しい。

## ●来場者アンケートより（感想）

- ・芸術性、表現力も素晴らしく、観ていてワクワクする楽しい舞台でした。
- ・小学生・中学生だけではなく大人も参加できる楽しく芸術性のあるもので、本物のプロの作品まで見ることができるとすごい。市民が参加できることがとても素晴らしい。
- ・映像とダンス、照明、舞台装置、全てが斬新でとても興味深く見せていただきました。そして市民の方がこの大作を踊りきっていたのが何より素晴らしいと思いました。
- ・（妻に誘われて）ダンスというものがよくわからず拝見しました。何かわかりませんが、見入ってしまいました。市民のみなさんがとても楽しそうで、自分も元気になりました。
- ・地元茅ヶ崎の情景と相まって、とても親しみやすく、楽しい気持ちで観ることができました。
- ・茅ヶ崎という場所、土地にからめて創作されていて、茅ヶ崎市のPRにつながられると思います。
- ・コロナでしばらく鑑賞できなかったが、これまで見た公演の中で一番よかった。もう一度見たい。
- ・自分の住んでいる市でも同じ企画をやってほしい。今後も地域性のある公演を期待しています。
- ・見ている側も楽しむことができた公演でした。最高！参加したいくらい。

●この事業への応募動機

コロナ禍に伴い市民の世代を超えた関係性が育まれる場であった祭りや催しが数年にわたり中止され、世代間交流の機会が減少していることに社会的な課題を感じ、市民文化会館がそのような場の役割を果たせるようになりたいと思い、今回のBプログラムに臨んだ。

●事業のねらいと企画のポイント

祭りの場で生まれる「地域の世代間交流」の様な機会の創造をねらいとし、対象の年齢層を広く設定すると共に、北尾さんにはコミュニケーション要素を多く取り入れたワークを実施いただいた。クリエイションが空く期間には自由参加の練習日を設定するなど、参加者が対話や交流をしやすい仕組みを整えた。

また、「茅ヶ崎」をテーマとし市内の各地を巡る旅番組的な要素を持つ作品を企画することで、踊り手と観客双方の地域愛や作品への関心が湧き上がることを期待した。「茅ヶ崎」という町、そして「ダンス」を通じて舞台と客席の垣根を超え、老若男女問わず楽しみや発見、高揚感を共有いただきたいという思いがあった。

●企画実施にあたり苦労した点

準備と制作がリアルタイムで進行するBプログラムの性質上、本番前日まで作品の作り込みが続くため、どのタイミングでどこまでの情報が出せるか広報媒体毎に練った。最も頻繁に周知したSNSは、コーディネーターの中富さんにご教授いただきながらこれまで使用したことのない機能を取り入れたり、開催間近からの連日投稿に制作状況の様子を伝える記述やクリエイション後舞台上で撮影した出演者全員での告知ムービーを織り交ぜるなど、変化に富ませて配信した。

特に出演者やスタッフが実際に舞台上で動き徐々に具体化が進み出す公演前の4日間は、先の展開に向けた即時の事務対応や現地に赴いての映像使用の許可取り、公演中投影するドキュメンタリーの担当者インタビュー撮影、クライマックスに向けた舞台転換での解説、やぐら上での和太鼓演奏、これまで知識と経験のなかったアフタートークなど、企画・制作としての役割と舞台上での役割の双方を同時進行で担うこととなり、全体の進行や参加者のサポートを優先しつつも、皆さんの素晴らしい舞台を損なうことのないよう、様々な方の厚い助力と知恵をお借りしながら準備を行った。本番間際まで練り直したアフタートークは、随所に笑いを交えながら話を膨らませてくださる北尾さんの温かな返しのおかげで、舞台上で生まれる生の対話がお届けできた。

●事業の成果と課題

茅ヶ崎をテーマとした試みはお客様にも親しみやすいと好評で、盆踊りも交え舞台・客席一体型の公演にできた。終演後「こんなに違う歳の人達とふれ合い、仲よくなれて、こんな場所があってよかった。」といった感想の数々が参加者達から涙ながらに語られ、コロナ禍で減少している身近な地域に暮らす人達とのふれ合いや世代間交流の機会を少しでも増やそうと取り組んできた企画の趣旨が、参加者の言葉として表れたことに大きな喜びを感じた。一方で広報を集客につなげきれなかった反省点があるため、今後企画がより多くの方の目にとめていただけるよう、周知期間を十分に確保できる広報作成の見通しとスケジュール感を関係各所と丁寧に共有しつつ進めると共に、事業の参加者からもアイデアを募るなどして、これまでの周知では情報が届いていなかった市民の生活圏にアプローチできる方法を模索していきたい。

●今後の事業展開や展望

今回の公演で「地域愛」が挑戦への大きな原動力となることを感じたため、今後の事業でも市民の新たなチャレンジの背中を押す仕掛けとして、町や暮らしに注目することを大切にしたい。

公演後日、メールにて複数の参加者から「お客様が見た景色を自分達も見たい。」「全力で踊りきった姿を見たい。」という希望が届き、当日の映像鑑賞および振り返りの会を追加で実施した。

●この地域のダン活の特徴

「地域や名所を巡り、旅番組のような公演を作れませんか？」。

全体研修会で設けられたアーティストとの対話のセッションで、茅ヶ崎市民文化会館の担当から振付家・ダンサーの北尾亘に投げられた一言からこの市民参加型プログラムとなるBプログラム『冬のやぐら茅ヶ崎 Re:Mix2023』が生まれた。

茅ヶ崎市は人口約24.3万人、神奈川県湘南地域中部で藤沢市、平塚市、寒川町に囲まれ、南は湘南海岸、北は相模台地が広がる田園地帯など豊かな自然を感じられる温暖な地域。コロナ禍においても豊かな自然環境や利便性、ワーケーションなどの影響で転入者が増加傾向にある。茅ヶ崎といえば、サザンオールスターズ、加山雄三、杉本哲太、松坂桃李などの名立たるアーティスト、俳優、そして東京オリンピックで正式種目に加わったサーフィンでは、波乗りジャパンをけん引する松田詩野を輩出している。

文化・スポーツともに土壌豊かな茅ヶ崎で、市民が心待ちにしている名物が4大祭り。江戸時代の名奉行大岡越前守忠相公の遺徳を偲ぶ春祭り「大岡越前祭」、スポーツ、ステージ、フリマなどが開催される「湘南祭」、神輿が砂浜を乱舞し、夏を告げる「浜降祭」、そして、茅ヶ崎海岸の夜空を彩る「サザンビーチちがさき花火大会」がある。茅ヶ崎の街に賑わいをもたらす祭りが残念ながらコロナ禍で開催されず、人とのふれあいや世代を超えての交流が希薄になっていると感じた担当者の「ダンス、舞台上で祭りを表現できないか、心一つになれる祭りにしたい」の熱い想いがこのプログラムの屋台骨となり、公募で集まった10代から50代の市民13名と北尾亘、河内優太郎、山田茉莉、映像の中瀬俊介が対話を重ね創作した『冬のやぐら茅ヶ崎 Re:Mix2023』が上演された。

少しダンス経験があるから、ダンスワークショップに参加したことあるから、祖母がこの会館主催の市民参加ダンス公演で楽しそうに踊っていたから自分も踊ってみたいなど、参加の動機も多彩なメンバーが集まり、初日は緊張感がある中でも温かい雰囲気にもまれていた。まずは参加メンバーや館のスタッフに茅ヶ崎の名所や良いところ、伝えたいポイントなどのアンケートから始まり、振付や演出を着想。丁寧に参加者と対話し、アイデアを引き出す北尾亘の観察力、演出力、コミュニケーション力とバランス力は見事で、クリエイションは難しい振付やテンポがあるダンスを踊った後には会話の時間や創作ワークを入れるなどバランスを取りながら進行され、パワフルな10代チームの勢いに引っ張られる大人チームも次第に魅力溢れる個性が引き出された。また3週間ほどのクリエイション中断期間には会館がリハ室を解放した自主練時間にメンバーが積極的に集まり、ダンスの練習以上にメンバーの結束力が高まった。本番前日のゲネ終りの振り返りでは一人一人がダンサーとしての意識と、茅ヶ崎やダンスに対する想いを来場者に届けたいという士気が上がった。

公演は、江戸時代の茅ヶ崎や相模川周辺が描かれた緞帳が開くと、袖幕、リノリウム、大黒幕の黒で引き締まった空間から、ダンスと映像で展開されるシーンを追うごとに、徐々に幕が飛び、リノリウムも剥がされて空間が広がっていき、残されたホリゾン幕が最後に上がりきると舞台上で組まれた櫓が出現。演出でこの会館の全てを見せたいという北尾亘の熱い想いに、舞台スタッフも熱く応える。その舞台櫓には和太鼓が生まれ、その櫓の和太鼓を叩くのは、北尾亘に作品と祭りの想いを伝えたこのBプログラム担当者。櫓が舞台中央に移動すると和太鼓の4拍子、茅ヶ崎の魅力が詰まった北尾のラップ、そしてこの作品で生まれた盆踊りが繰り広げられ、次第に客席も呼応して自然と踊り出す。気づけば茅ヶ崎市民文化会館大ホールが熱き祭りの会場となった。会館名物の2枚緞帳のうち1枚「浜降祭」の緞帳が降りて幕が閉じると、どこことなく“祭りのあと”の寂しさを感じるものとなった。

●課題とこれらに向けて

熱い市民ダンサーをまとめ、一人一人に向き合った制作姿勢は素晴らしく、事業終了から1ヶ月後に本番の映像上映・振り返り会を開催したいと市民ダンサーに熱望されるなど、この作品の熱量や会館の姿勢が市民ダンサーにも届いた結果ではないだろうか。「一人でも多くの人に見て欲しかった」、この振り返り会では市民ダンサーからも温かくも厳しい声も上がった。終演後に行なったアーティストとの振り返りでも担当者自身が感じており、作品の「想い」、「熱」の届け方、適切な時期を考えて実行することは、今後の課題として明確になったと思う。

今回、映像演出に協力していただいた地元のお店や市民ダンサーとつながりがある企業や団体などは、ダン活事業で得られた新たなサポーターである。これまで会館で積み上げた広報展開とともに、その方々とのコミュニケーションとして認識して欲しい。発信することが広報の目的として考えるのではなく、受け手のことをイメージすることで、伝えたい目的・内容・時期や手段が導かれる。

人との繋がりが厚い・熱い茅ヶ崎だからできる展開方法もぜひ考えて広げて欲しい。





# スケジュール

沖縄県浦添市/アイム・ユニバース てだこホール

	下見下見		実施期間①				
	4/5 (火)	4/6 (水)	7/20 (水)	7/21 (木)	7/22 (金)	7/23 (土)	7/24 (日)
9:00							
10:00		テク打合せ					
11:00		↓					
12:00	浦添前田着	昼食					
13:00	移動・昼食	移動					
14:00	打合せ	顔合わせ 屋富祖公民館	<b>※新型コロナウイルス (COVID-19) の感染が拡大している状況を 受け事業中止</b>				
15:00	移動	↓					
16:00	顔合わせ 宮城ヶ原児童センター	打合せ					
17:00	↓						
18:00							
19:00							
20:00							
21:00							
22:00							

	実施期間②			
	7/28 (木)	7/29 (金)	7/30 (土)	7/31 (日)
9:00				
10:00				
11:00				
12:00				
13:00				
14:00	<b>※新型コロナウイルス (COVID-19) の感染が拡大して いる状況を受け事業中止</b>			
15:00				
16:00				
17:00				
18:00				
19:00				
20:00				
21:00				
22:00				



# Cプログラム

(公演プログラム)



# スケジュール

大阪府堺市／フェニーチェ堺

	下見	
	7/2(土)	7/3(日)
9:00		全体打合せ
10:00		↓
11:00		休憩
12:00		インタビュー
13:00	集合	↓
14:00		↓
15:00	打合せ	解散
16:00	↓	
17:00	チェックイン	
18:00	大スタジオ下見	
19:00	テクニカル打合せ	
20:00	↓	
21:00	解散	
22:00		

実施期間			
2/9(木)	2/10(金)	2/11(土)	2/12(日)
	入り	入り・公募WS準備	入り・最終稽古
	クリエイション	公募WS開場 公募WS開始	↓
	↓	↓	昼食
	昼食	昼食(振り返り)	最終確認
	稽古	稽古	開場
集合・打合せ	↓	↓	公演
稽古	↓	↓	アフタートーク
↓	↓	ゲネプロ	振り返り
↓	夕食	直し	↓
大スタ入り テクニカル打合せ	テクニカルゲネ	退館	退館
夕食・場当たり	直し		
↓	退館		
退館			

## 公募ワークショップ

本ワークショップでは、公演と対をなす事業として位置づけて、子どもを持つ親が子どもと日常的に芸術的な遊びが、自ら気軽にできるようになる体験機会を設定した。本ワークショップは、本公演と対照的に楽しい親子関係を軸にしてコントラストを付けることで、本Cプログラムが提示する親子観を多面化させた。本ワークショップに参加した親子が、当日体験したダンスをベースとして、今後自主的に様々な場面で遊び、交流を深めるきっかけとなることをめざした。

結果的に得られたこととして、すべての参加者において、親子の間でじっくりとワークを楽しむ様子が見られた。特にワーク内容に対して前向きな親が多く、積極的に子どもと関わろうとする中で、実に多様な表現を見ることができた。ナビゲーターである康本さん・小倉さんとしても、そのような参加者に半ば乗せられる形で、次々とメニューを提案していくような時間になっていた。また今回はそもそも応募者が多数で抽選となったことから、堺市内における今回のような内容のワークショップには、かなりニーズがあることが分かった。

今後につながる改善点としては、親子の組ごとのワーク内容がほとんどであったところを、次回からは他の親子同士の交流が生まれるようなワークもくみこむことができれば、より幅が広がると思われた。

併せて、近年、コンプライアンスの観点から「親子」と呼びかけることが時に憚られる。それは実際には親子概念を否定するものではないのだが、多方面への配慮が求められるのもしかるべきことではある。その中で康本さんより、「家族」は法的な定義がない幅の広い用語であると聞き、今後の参考としたいと思う。



## 公演

## 『コンテンポラリーダンス公演 康本雅子「子ら子ら」』



当初は300人収容の小ホールでの公演を予定していたが、コーディネーターから「つま先まで見えない環境はダンスに向かない」と指摘されたこともあり、大スタジオでの実施とした。照明など制限の多い会場であることから不安もあったが、テクニカルスタッフの助けを借りて、上演が叶った。

2年連続でダン活を担当し、コンテンポラリーダンスへの、ちょっとよくわからない不思議な動きをするあれでしょ、という世間の見方はなぜ、と考へ「目の前で起きていることをどう表現していいかわからない」＝言葉が紡げない、ということではと仮説を立てた。後述するアフタートークに加えて、インタビューを広報誌に掲載し、当日パンフレットにもダメ押しで載せ、波状攻撃のように、ダンスに対して語る言葉を観客へ渡した。

託児も受け付けつつ、未就学児入場可としたため、当日は子どもの泣き声など鑑賞に負担がかかるハプニングもあったものの、子連れで観られるコンテンポラリーダンス公演として喜びの声も頂き、子ども向けでない子ども入場可の公演というものの一定の需要を感じた。主催事業で関わりのある子ども食堂へ声をかけたこともあり、子どもの来場が多いことは予想できたが、チラシを送った子ども園の管理職であったり、公演前日に立ち寄った近所の居酒屋でダンサーと仲良くなったご店主と常連さんが当日来てくれたり、想像以上に性別やダンス経験（鑑賞含む）に関係なく幅広い層が集まる面白い公演となった。

## ●来場者アンケートより（感想）

- ・小さな子どもたちがじっと最後まで集中して見ていたことに驚きました。言葉遊びや音がすごく面白くて、真似したくなる場所がいっぱいあって、子どもたちがどこが面白く見ていたのか、お話を聞いてみたかったです。(40代・女性)
- ・身体の雄弁さ、伝える力、美しさに魅了されました。HPのインタビューにもあった「意味はないが“必然性”はある」という言葉が印象的で、ずっと頭の隅に置いて見ました(50代・男性)
- ・トークって言葉にする分、印象に制限がかかってしまったり、言葉に限定されてしまうようなところも出てくるので、なるほどと思いながらも、自分の感じたりリズムを失わないように聞いていました(60代・女性)
- ・康本さんが客席に挙手を要求するシーンや他の地域ではどうか、などご本人に聞いた方が良かったかなど。このアフタートークは結構きつい。ゲストも何しに来たのレベルで、康本さんの熱量が無くなりそう(30代男性)
- ・壇上のお二人が、断定せずまったりと語られるスタンスがすばらしくすてきでした！観客の方とも感情をシェアできたのが良かったです。(30代女性)
- ・子がいるので、身につまされてとても苦しかったです。子との格闘をこんなふうに作品にすることができるのだと思いました。(50代女性)
- ・自分が見て感じたことと同じような感想を持たれている点や全く違う点を感じておられ、その視点が参考になりました(60代男性)

●この事業への応募動機

指定管理者であるフェニーチェ堺（以下、館）主催のダンスWSが3年目を迎えたこと、昨年のAプロからダンスでできることは何かを考え、Bプロよりも市民へ働きかけることの幅に広がりを考え、応募した。

●事業のねらいと企画のポイント

観客に、ダンスを身近に感じてもらいたい、映画を観るくらいの気軽さで感想を話しながら帰ってほしい、という願いがあり、「これを観てこう考えた」と語り合う場を作ろうとした。単純に感想を聞くだけでは、元々語る言葉と知識を持っている人や経験者たちだけの場のものになり、初めて観る人が置き去りにされる可能性を考え、誰かの感想を聞くことでダンスを観る「視点」を多様に持つことのできる場を開くことに思い至り、アフタートークを企画した。これは鑑賞者育成という点でも非常に面白い試みとなるのではと思っていた。また、高校ダンスが盛んなこと、館が3年続けているダンスWSにはリピーターが多いこともあり、制作現場を見てもらい舞台やホールがもっと身近になれば、ホールや芸術を通じた地域の活性化につながると考え、クリエイションの公開も企画した。

●企画実施にあたり苦労した点

公演広報である。WS参加希望は多いが、公演を観る機会の少なさゆえか、券売は伸び悩んだ。営業をかけた先で「難しそうだからやめておく」と言われてしまうこともあり、世間のコンテンポラリーダンスに対するイメージを越えて、魅力を伝える難しさに苦心し続けた期間だった。公開稽古／ゲネプロに関しては、コーディネーターとの打合せの中で、「価値を受け取ることができる人」「作品を作りたい人」が現場に出会う場をめざしたが、そもそもコンテ公演が一般的でない堺市内では、その層にアプローチすることは非常に困難だった。

●事業の成果と課題

アフタートークでの観客からの意見は少なかったが、80名超の動員で30件近いアンケートが出た。厳しい意見もあったが、単に観た感想を求めるだけでは出てこない感想やトークへのコメントも多かったことは、感想を話したくなるという狙いに遠からず届いた結果と考えている。終演後にテクニカルスタッフから「あの方向性であれば、テクニカル面でできたこともあったはず」と話があり、トークの趣旨を踏まえた設えや雰囲気づくりを怠ったと感じている。ダン活チームに相談した際には広報面でのアドバイスに終始したが、作り込みを密にすべきであった。また、断念した公開稽古、ゲネプロは、舞台芸術に興味を持つ仕掛けづくりから綿密に用意すること、近隣の表現活動を行う方たちへアンテナを張る必要性を感じている。

●今後の事業展開や展望

館主催のWSとダン活合わせて実績を積み重ねてきたこの3年間で、踊りの魅力や楽しさは市民へ十分に伝わっていると感じている。ダン活については、主催が財団本部、館とは昨年Aプロは協力、本年Cプロは共催と、連携する形で続けてきたが、ダンスWS、公演とステップを踏み、改めて堺市での行うコンテンポラリーダンス事業を考えるタイミングなのではと思う。

当財団は、市が策定する「第2期文化芸術推進計画」に基づき、令和3年度から「文化芸術を用いた社会課題の解決」を課せられているが、アウトリーチを主に行う財団本部ができること、指定管理者であるフェニーチェ堺ができることは性質が異なる。だからこそ、共催の今年は鑑賞やクリエイションの公開など、ただ「やる」だけではなく挑戦的に進めた。今後のダンス分野においてはそれぞれで行ってきたことを合わせ、より強固に連携し、届けたいこと、その対象を見極めて進めていきたい。



**●この地域のダン活の特徴**

堺市は、中世から文化商業都市として栄えてきた街で地域資源も数々挙げられるが、この地域のトピックは、令和2年に「堺アーツカウンシル」が発足し、文化芸術の振興を図る地域づくりが始まったことだろう。

堺市文化振興財団は、堺市が令和3年に策定した「第2期堺文化芸術推進計画」に沿った文化活動の振興及び地域文化の創造に資する事業を行い、市民文化生活の向上と地域の発展に寄与することをめざしておられ、令和元年秋にグランドオープンした「フェニーチェ堺（堺市民芸術文化ホール）」の指定管理も担っている。今回ダン活に取り組むのは、フェニーチェ堺の運営部門とは別の当財団の事業本部で、昨年度のAプログラムでは事業本部の役割であるアートと地域社会の接点を生み出す社会包摂的な事業のモデルとなるプログラムを実施された。

本年度のCプログラムは公演事業であるため、事業本部が主体ではあるが、「フェニーチェ堺」の事業担当者と共に実施する体制でスタートした。

会場は、小ホールが主に室内楽の発表用にしつらえられた場所で、ダンスにとっては客席の段差がなく舞台上の足元部分が見づらい事や、康本さんの上演作品の持つ雰囲気などから、大スタジオを劇場として使用することになった。フェニーチェ堺にとって初めてのコンテンポラリーダンス公演、初めての大スタジオの劇場化、そして事業部もフェニーチェ堺担当者もダンスの制作は初めてということだったが、インタビュー記事やカラーの当日パンフレット、アフタートークの設定など、そこかしこに時間をかけて康本さんの作品の良さをどうにかして届けようとする担当者の姿が印象に残っている。しかしながら集客については、想像以上に困難だった（ひとつの要因として海外カンパニーのダンス公演が同日同時刻に兵庫県であったことも影響した）。大都市ではあるが、これまで主にクラシック音楽の振興に力を入れてこられた当市において、コンテンポラリーダンスは全くと言っていいほど馴染みがなく、ゼロを1にする創客は相当困難な作業だったことと思う。一方で、親子対象の公募ワークショップには応募が殺到して早々に定員になり、参加された方々も慣れている様子であることが印象深かった。公演の集客の課題はここだけの問題ではなく、関東を除く日本全国ほぼどこも同じ悩みを抱えている。だからと言って客を呼べる演目だけ上演すればいいのではなく、今の時代に、このジャンルの面白さや価値を届ける工夫がより一層求められているのだと考えさせられた。

**●課題とこれからに向けて**

初めてのダンス公演で集客に思いのほか苦勞し、もうダンスは・・・と思われる担当者も多いが、そこでやめてしまったら、ゼロを1にしようとした努力もまたゼロになる。1を2に、2を4に、4を8にと継続することでしか道は拓けないだろう。アーティストはそうやって続けている人がほとんどだが、そうしたコンテンポラリーダンスを面白がって、アーティストと共に創客に取り組もうとするホール担当者（ダンスの制作者）が増えてくれることを期待したい。堺市の担当者はそうした気骨のある方々で、これからの展開に期待している。また、事業を評価する方々が、キャパに対する集客率だけではなく、課題と目標に対し何が成果として残ったかということに着目し語れること、文化の担い手としてそうした視点や意識をもった人材が内外にあるかどうか、今後ますます問われるのではないだろうか。



# 事業資料

# 公募ワークショップチラシ

## 与論町中央公民館

A4 両面 (4色)

**ダンスはじめました。みなさんもいかがですか？**

経験不問！  
どなたでもご参加下さい！

中央公民館にて  
ダンスワークショップ開催

**2022.11.7 [MON] 19:00~**

申込方法は裏面をご覧ください。  
NPO法人ヨロンSC (与論町公共施設指定管理者)

＜講師＞ 長井江梨奈  
舞台芸術集団「山猫団」主宰。  
『伊羅キム』『舞く未来』『まことクワッ』にてダンサーとして国内、国外の様々な舞台の中心に。ライブハウス、商店街、美術館、開城などあらゆる場面でパフォーマンスをしてきた経験を生かし、2019年に山猫団を立ち上げる。  
2019年よりワークショップファシリテーターとしても活動。日本各地で子ども大人向けのワークショップや市民参加型公演の演出を行う。

身体が硬いひと、運動不足なひと、腰がなんかなやませているひと、余韻感を発散したいひと—老若男女誰でもご参加OKです！楽しく自由に身体を動かしているうちに、いつの間にか踊っちゃった！そんなワークショップです！

ダンス未経験者  
大・中・小  
お気軽に  
お問合せください！

**2022.11.7 [MON] 19:00~21:00**

【会場】与論町中央公民館 2F スホール  
【講師】長井江梨奈  
【対象】1名以上  
【定員】20名 ※お申し込み台数順  
【参加費】無料  
【持ち物】動きやすい服装、運動靴 (履き足でもOKです) 飲み物  
【申込方法】お電話・メールまたは下記の申込用紙を中央公民館窓口までお持ちください。  
メールアドレス: yeronkouminkan@gmail.com  
【電話】0997-97-2079  
【FAX】0997-97-2122  
【主催】NPO法人ヨロンSC (与論町公共施設指定管理者)  
【後援】一般財団法人 池城創造

中央公民館 ダンスワークショップ 申込用紙

ふりがな	生年月日	性別
氏名	西暦 年 月 日 ( 才 )	男・女
所属	電話番号	
ダンス経験	メールアドレス	
有・無 (有の場合 年 ジャンル: )		

## 大空町教育文化会館

A4 両面 (4色)

**皆で学ぼう身体の動き！わくわくダンスワークショップ**

新たな自分の魅力に出会おう！  
楽しく身体を動かそう！

講師  
なかむら よう  
**中村 蓉**  
アシスタント：田花 通

講師は思わずニヤけてしまう、踊れば顔が赤くなるくらい、そんな新鮮な動きを出す意欲的なダンサー・振付家の中村蓉さんによるダンスワークショップを開催いたします！  
必要なのは「身体、心、ダンス経験は全く要りません！！  
楽しく表現してみんなで笑いませんか？  
身体を動かすことが好きな方、表現することが好きな方も大歓迎！  
皆で楽しく身体を動かしましょう！  
身体を動かすだけで、こんなに楽しいひとと気づかせてくれるとっても楽しいワークショップです！

**12/17 2022**  
13:00 START (12:30 受付)  
【会場】大空町教育文化会館 教育ホール  
(旧大空町立中央公民館4F 47号室 11号)

ワークショップ参加者募集中！  
対象：①小学生3年生以上—  
②身体を動かしても問題ない方  
定員：30名 (先着順)  
持参：上靴・タオル・着替え・動きやすい服装  
申込方法：お電話もしくは下のQRよりお申し込み下さい。  
申込期限：12月13日(火)17:30まで

※ダンス未経験者 身体を動かす・表現することが好きな方大歓迎！  
※親子での参加も大歓迎！

参加無料

お問い合わせ・申込  
【一財】大空町青少年育成協会 0152-74-2367

**ARTIST PROFILE**

**中村 蓉 (Yo Nakamura)**  
東京大学在学中の時にダンス開始。4年間ダンスを専攻し、東京文化芸術大会「舞動」MAGIC/MVやサンリオピューロランドで現在上演中の『Nakayuki Commel』の振付を担当。幅広いジャンルに出演し、MV等にダンサーとして活躍している。2022年『DadY』ダンスアーティストとしてデビュー。現在はダンスが大好きで、踊れば思わずニヤけてしまう、踊れば顔が赤くなるくらい、そんな新鮮な動きを出す意欲的なダンサー・振付家として活動中。

【中村蓉氏の活躍はこちらのQRより】  
中村蓉 HOME PAGE  
中村蓉 Twitter  
中村蓉 YouTube

山形県酒田市中で実施したワークショップの様子

ワークショップの詳細についてはQRより

**令和5年7月 中村蓉ダンス公演決定！**  
今後の情報をお楽しみに！！

西尾市文化会館

A4 両面 (4色)

**あなたが変わる、私も変わる**  
 心構えも、意気込みも、要りません。ふらっといらしてください！

西尾市文化会館  
**コンテンポラリーダンス  
 ワークショップ**

**1.21 sat**  
 13:30-15:30  
 (13:00受付開始)

ダンサー・振付家  
**中村 蓉**

未経験のかた  
**大歓迎**  
 前面はこちら▼

主催：西尾市 共催：(一財)地域創造 協力：西尾市文化会館



あなたが変わる、私も変わる  
**コンテンポラリーダンスワークショップ**  
 2023年1月21日(土) 13:30~15:30  
 (13:00受付開始)

こんなあなたに来てほしい

- 身体が硬い/自重がある/運動が苦手だ
- リズム感が独特だと言われたことがある
- 文化会館に行くのが久しぶり..成人式以来かも
- ダンサーと一緒に踊ってみたい

アーティスト  
**中村蓉(Yo Nakamura)**  
 舞舞三人舞主宰時10名編成を担い、メー・マコトが国際演劇祭、東アジア文化都市式典(舞踊祭)の内外で作品を上演。2014年「MAGICAL」コンテンポラリーダンスで現在上演中。2017年「Nakayama Connect」の振付を自ら、舞ひあふ「笑」のコンパイルMV等にダンサーとして出演している。二階のニューアースダンススタジオにては演舞、振付も担当した。観れば思わずニヤけてしまう、舞れば舞休が気分のよくなるような振付を振り出している。

● 西尾市内でのダンスの様子  
 振舞祭・舞舞祭にて

対象 小学生5年生以上(ダンス経験不問)  
 定員 定員20名(応募者多数の場合は抽選。近傍市町在住者優先)  
 持ち物 動きやすい服装・着替えの飲み物・タオル  
 (筆記・画下・室内履き用シューズも可)

申し込み方法・問合せ先  
**受付期間：12月12日(月)~1月13日(金)**

QRコードから申し込み  
 スマートフォンなどで読み込み、必要事項を入力してください。  
 (西尾市電子申請システムに接続します。利用者登録は不要です。)

電話・メールで申し込み  
 ◎住所 ◎氏名 ◎電話番号 ◎生年月日 ◎性別 ◎ダンス経験の有無  
 メールアドレス:hunka@city.nishio.lg.jp  
 電話番号:0563-65-2197

アクセス  
 西尾市文化会館  
 西尾市山ノ内町(新沼)4番地  
 0563-65-5855  
 西尾市から徒歩約10分  
 (西尾バス停西尾線「文化会館」)  
 徒歩約10分(徒歩約10分)  
 西尾市文化会館(文化会館)  
 〒417-0001 西尾市山ノ内町(新沼)4番地  
 0563-65-5855



東広島芸術文化ホールくらら

A4 両面 (4色)

令和4年度 公共ホール現代ダンス活性化事業

**だれでも**  
 コーキング  
**ダンス**

2023 **1/28 土**

10:00~12:00 (9:30受付開始)  
 東広島芸術文化ホールくらら 大ホール舞台上

講師：MAHIZIA マヒジヤ (神戸市)  
 アシスタント：DAI 大井 (東広島市)

【対象】0歳からお年寄りまで、ダンス未経験者も、どなたでも大歓迎!  
 【定員】20名程度  
 【参加料】おとな1,000円 こども(高校生まで)500円 小学生以下は無料(要事前申込)



MAHIZIA マヒジヤ (神戸市)  
 神戸市在住のダンスアーティスト。ダンスの楽しさを伝えることを目的として、ダンスワークショップを開催中。ダンスの楽しさを伝えることを目的として、ダンスワークショップを開催中。

DAI 大井 (東広島市)  
 東広島市在住のダンスアーティスト。ダンスの楽しさを伝えることを目的として、ダンスワークショップを開催中。ダンスの楽しさを伝えることを目的として、ダンスワークショップを開催中。

「申込用紙」の受付料、郵送、お申し込みのうえに申し込みください。 FAX: 082-426-5901

申し込み  
 参加者氏名 年齢性別職業(学生の方は「学生」と記入)  
 住所  
 TEL 申込用紙の受付料を請求する際に必要です。  
 FAX  
 メールアドレス 申し込みのうえに申し込みのうえに申し込みください。  
 ダンス経験 あり・なし、未経験の方は「初心者」を記入してください。  
 保護者氏名 申込用紙の受付料を請求する際に必要です。  
 備考 申込用紙の受付料を請求する際に必要です。

2023年12月1日(土) 10:00より受付開始 ※定員に達し次第締め切ります。申し込み開始に必要な事項を記入し、申し込みのうえに申し込みのうえに申し込みください。申し込みのうえに申し込みのうえに申し込みください。

申込用紙の受付料を請求する際に必要です。申し込みのうえに申し込みのうえに申し込みください。申し込みのうえに申し込みのうえに申し込みください。

東広島芸術文化ホール  
 EAST HIROSHIMA ARTS & CULTURE HALL  
 〒733-0292 東広島市西条町1-1-1  
 TEL 082-426-5800 FAX 082-426-5901  
 082-426-5901



宮古市民文化会館

A4 両面 (4色)

**ワークショップ**  
開催日時 **2022年4月22日(金)**  
19:00開演 (30分前受付 | 21:00前7予定)

**宮古市民文化会館 大ホール**

**応募用紙** 応募締切 **4月21日(木)**

ふりがな	生年月日	性別
氏名	西 暦 年 月 日 時 分 秒	男 ・ 女
住所	〒 〇〇〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	
申し込み理由	希望など記入してください。	
申込者	〒 〇〇〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	
申込者印	印をここに押しつけてください。	

あすとホール

A4 両面 (4色) (出演者募集・公募 WS)

**大駱駝艦 田村一行 舞踏公演**  
出演者募集

大駱駝艦の舞踏は、田村一行から舞踏の土地から、ダンスパフォーマンスを奪って、公演による市民参加と共に創る新作舞踏公演！

楽しく身体を動かしながら、自分ならではの動き、躍りを残す。ダンス経験がなくても大丈夫。あなたの身体の、もっとも輝く瞬間を「舞踏」を通じて一緒に表現しませんか。

**◆舞踏新作公演 出演者募集◆**

【公演】あすとホール 大船町大津田二丁目1-13-4  
【対象】中学生以上 ダンス経験のない方も歓迎  
【定員】10名 各名額5,000円 【参加費】無料  
【申込方法】申込書を郵送で送る もしくはLAFAL、Zoom、LINE (メールアドレス) info@astohall.jp (web: www.asto-hall.jp)  
7月28日(木) 午後7時～午後9時 **ワークショップ**  
7月29日(金) 午後7時～午後9時半  
7月30日(土) 午前10時～午後3時  
9月27日(火)～9月30日(金) 午後7時～午後9時半  
10月1日(土) 午前10時～午後9時半  
10月2日(日) 午前9時～  
10月2日(日) 午後2時開演 終了後午後5時場所閉

**ダンスワークショップ**  
大駱駝艦の舞踏を体験しよう

**7/28 THU. 19:00~21:00**

大駱駝艦の基本体構は、フニヤフニヤ体をゆったり、ピピピピ体を動かせたり。力を抜くことから始めると、体も体も驚くほど自由になってゆきます。

【講師】田村一行  
【対象】小学生以上  
【定員】30名 ※お申し込み先着順  
【参加費】無料  
【持ち物】動きやすい服装、履つき履物の飲み物、タオル(雨天で行うワークショップ)  
【主催】あすとホール 泉大津市教育委員会  
【共催】(一財)地域創造

**申込用紙** (舞踏新作公演出演・ワークショップ参加共通)

ふりがな	生年月日	性別
氏名	西 暦 年 月 日 時 分 秒	男 ・ 女
住所	〒 〇〇〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	
申し込み理由	ダンス経験者の方はジャンルも書き添えてください。	
舞踏新作公演参加	ワークショップのみ参加	ダンス経験 有 ・ 無 有 ・ ジェン

あすとホール Art and Culture  
TEL: 0725-20-6778

小牧市市民会館

A4 片面 (4色) (出演者募集)

◀◀◀◀ **舞台に立とう!** ▶▶▶▶  
市民参加型オリジナルダンス公演「マイ舞式」

**出演者募集**

ダンサー 藤本麗子さんと創る市民参加型オリジナルダンス公演「マイ舞式」の出演者を大募集!  
ダンス経験がない方も大歓迎!  
新しいことにチャレンジしたい方、舞台に立ちたい方、ご応募お待ちしております!

**リハーサル日程**

10月6日(木)	18:00~21:00
10月7日(金)	18:00~21:00
10月8日(土)	13:30~17:00 18:00~21:00
10月9日(日)	9:30~12:30
11月2日(水)	18:00~21:00
11月3日(木)	18:00~21:00
11月4日(金)	18:00~21:00
11月5日(土)	13:00~20:00

公演当日 本番  
11月6日(日) 14:00開演

対象・条件: 中学生以上・ダンス経験不問  
※計8日間のリハーサルと本番日、原則、すべての日程に参加できる方  
※参加できない日がある場合は応相談  
定員: 15名  
参加費: 無料  
会場: 小牧市市民会館 大ホール  
応募期間: 2022年8月6日(土) 9:00~(申込先着順)  
応募方法: 電話またはメールフォームより

こまき市民文化財団 TEL.0568-71-9700

茅ヶ崎市民文化会館

A4 片面 (4色) (出演者募集・公募 WS)

**冬のやぐら**  
~茅ヶ崎 Re:mix 2023~  
茅ヶ崎でみんなとつくるダンス公演  
**出演者大募集!!**  
会場: 茅ヶ崎市民文化会館 大ホール

茅ヶ崎の魅力がいっぱい!

茅ヶ崎が誇る海の町を、暮らしのシーン、真夏のやぐらダンスで立ち上げます。  
みんなさんの「LOVE」を公開収録の場に結ぶダンス、ここでしか見れないダンス公開収録の場、一緒に踊りましょう!

ダンスが得意な方も、未経験の方も、茅ヶ崎好きな人、大歓迎!!

アーティスト 北尾 直 (きたお なる)  
制作: タナリー音楽 (タナリー音楽は是非!)

対象 小学生以上  
(小学生は、保護者保護者の付き添いをお願いします)

定員 20名程度 ※応募者多数の場合は抽選

参加費 無料 (傷害保険付)  
募集締切 2023年1月9日(月)  
※申込方法は裏面に準じてください

開催日 (全8日間)  
2023年  
1月12日(水) 18:00~21:00  
1月13日(木) 18:00~21:00  
1月14日(金) 18:00~21:00  
1月15日(土) 13:00~17:00  
1月16日(日) 9:00~12:00  
1月17日(月) 18:00~21:00  
1月18日(火) 18:00~21:00

リハーサル公演  
1月19日(水) 13:00~17:00  
1月20日(木) 18:00~21:00  
1月21日(金) 18:00~21:00  
1月22日(土) 13:00~17:00  
1月23日(日) 9:00~12:00  
1月24日(月) 18:00~21:00

公演日時 2023年2月19日(日) 14:00開演

1月19日(木) ダンスワークショップへの参加者も大募集! 詳細は裏面へ

人と暮らしと踊りがまじわる広場  
ココロオドル ダンス交差点

**ダンスワークショップ  
参加者大募集!!**

ダンスが初めての人も大歓迎

2023年1月19日(木) 18:30~21:00  
会場: 茅ヶ崎市民文化会館 大ホール

対象 小学生以上  
(小学生は、保護者保護者の付き添いをお願いします)  
定員 20名程度  
※応募者多数の場合は抽選

参加費 無料  
500円 (傷害保険付)  
募集締切 2023年1月9日(月)

北尾 直 (きたお なる)  
制作: タナリー音楽 (タナリー音楽は是非!)

茅ヶ崎市民文化会館  
TEL.0467-85-1123

Access Map: <http://www.city.kamakura.lg.jp>

2月19日(日) ダンス公演への出演者も大募集! 詳細は裏面へ

A4 両面 (4色) (出演者募集・公募WS)

### ワークショップ申込書

令和 年 月 日

ダンス体験ワークショップ      どちらかに  チェックをご記入下さい  
 創作舞台出演 (ダンス体験ワークショップを含む)

※お申し込みの際は、  
 所属学校へもご記入下さい

お名前

住所

年齢 歳 (      学校 学年)

連絡先 (電話番号)

メールアドレス

芸術や表現活動に関わった経験はありますか?     ある    ない  
 (ジャンル)

応募動機をお書き下さい

※参加にあたりご要望などがあればご記入下さい

申込先 天草市民センター 窓口  
 FAX:0969-22-5475  
 center@amakusa-cc.com

※お申込締め切り 10月末日まで  
 ※原則全日程参加。どうしても難しい日程がある場合はご相談下さい。

主催：天草市民センター 〒863-0033 熊本県天草市東町3番地 TEL.0969-22-4125  
 http://amakusa-cc.com

共催：(一財) 地域創造

天草市民センター自主文化事業

## 新しい橋もつながったし 新年早々、成人の日に 何かオモシロイこと やってみよう！プロジェクト

天草のみなさん  
 楽しい舞台を  
 一緒に創りませんか？  
 何かオモシロイことやりたい！  
 という 好奇心さえあれば  
**大丈夫。**  
 お待ちしております！

天草市民センター  
 ワンコインワークショップ

令和4年11月18日(土)  
 19:00~21:00  
 ワンコインで  
 誰でも参加  
 できます！

天草市民センター自主文化事業

## 新しい橋もつながったし 新年早々、成人の日に 何かオモシロイことやってみよう！プロジェクト

ダンス体験ワークショップ CAT-A-TAC の  
**藤田善宏さんと一緒に舞台作品を創りよう**  
 天草市民センターのステージで迎えるまでが、

**ダンス体験ワークショップ**      ダンス体験ワークショップのみの参加も大歓迎です。  
 (令和4年11月18日(土) 19:30~21:00 (19:00~受付)  
 対象 小学生4年生以上から一般の大人まで    定員 25名程度 (先着順)  
 参加料 一般 500円    高校生以下 100円  
 ※創作舞台クリエーションに参加希望の場合は、このワークショップからご参加ください。

**創作舞台クリエーション**      天草市民参加作品の創作と上演！  
 令和4年11月19日(土)、20日(日)  
 令和5年1月4日(水)~9日(月・成人の日)  
 対象 小学生4年生以上から一般の大人まで    定員 20名程度  
 ※ダンスなどの経験は問いませんが、全日程の参加を原則とします。  
 ※所属学校等の報告は必ずご記入ください。  
 参加料 一般 500円    高校生以下 100円  
 ※前日のダンス体験ワークショップ参加を含む。

ワークショップ及びクリエーションは、ダンスカンパニー CAT-A-TAC 主宰の藤田善宏さんが行います。初日を体験型のワークショップ(11/18)として、その後クリエーションを重ねて天草市民参加作品を制作し、最終日に創作舞台を有料公演として上演します。

スケジュール

①	令和4年11月19日(土)	13:00~17:00	クリエーション
②	11月20日(日)	10:00~12:00	クリエーション
③	令和5年1月4日(水)	19:00~21:00	クリエーション
④	1月5日(木)	19:00~21:00	クリエーション
⑤	1月6日(金)	19:00~21:00	クリエーション
⑥	1月7日(土)	19:00~21:00	クリエーション
⑦	1月8日(日)	13:00~20:30	クリエーション

※クリエーション等のスケジュールは変更する場合がございます。

**⑧公演本番 1月9日(月・成人の日) 14時開演**  
 ※公演当日午前からのリハーサルにもご参加いただけます。

ダンス体験ワークショップ・クリエーション・公演準備すべての会場は天草市民センターのホールです。

お申込み 応募受付：9月1日(月)~10月31日(日)  
 詳細の申込用紙にご記入のうえ、天草市民センターの窓口まで提出してください。FAX・メールでもお受けします。参加料はワークショップ参加時にお支払いください。 天草市民センター 電話：0969-22-4125

藤田善宏  
 YOSHIHIRO FUJITA  
 プロフィール

舞台芸術家・ダンサー、ダンスカンパニー「CAT-A-TAC」キャプテン、主宰、コンパニオン、文化庁芸術家訪問団参加者、舞台芸術家協会理事、熊本県立芸術文化センター理事、熊本大学非常勤講師、身体表現と道具を駆使した、表現のない物語、柔軟な発想を生かした異ジャンルや伝統芸能とのコラボが得意。二世代で舞臺のダンス師や音楽家、幼児教育教材の監修、舞台・教育ワークショップなど多岐に亘る活動にも取り組む。お事柄が「ジョー」上 主演者、TEAM RACS、山田洋次監督演出、ミラクル、舞台出演経験豊富。

このプロジェクトに賛同していただいている皆さん

- 天草南港漁業会
- 丸尾会
- ユミ・ダンススタジオ
- 坂瀬紫希美
- フラダンス池田
- 藤野公治
- 天草演劇愛好会
- 本郷と活版印刷の屋敷裏 ほか

天草各地を訪れ、芸術活動に関わる私たちの話を聞いていただいた藤田さんが、公演で参加される皆さんの力を借り、ゼロから舞台作品を制作されると伺いました。置かれた演出家・ダンサーでもある藤田さんが、どんな天草を表現されるのか楽しみです。私たちもこのプロジェクトを応援しています。

令和4年7月13日、天草市民センターで藤田さんとのお話を開催しました。



アイム・ユニバース てだこホール

A4 両面 (4色)

**初めてのコンテンポラリーダンス、ワークショップ**

決まった形の無い、自由な表現で表現も多々あるコンテンポラリーダンス!!  
コロナ禍で変わったコンゴとも関わって、いまさらにはじめてみるかも??  
年齢不同・ダンス未経験者、大歓迎!!一緒に楽しく踊りましょう!!

**さあ、ココロとカラダを動かそう!!**

**MANIZIA**  
ダンサー マニシア  
ダンスアーティスト  
舞踊の心と体の、コンテンポラリーダンスの奥、OV撮影、不気味な少年、マドレーヌをテーマとしたワークショップ、プロの演出のダンスパフォーマンスを通して、あらゆる場所でのダンスの楽しさを伝えていく。舞臺の音楽と音楽のダンスの両方、立体的な表現を追求し、表現の幅を広げたい。

日程: 2022年 7月24日(日) 14:00-16:00(13:30受付開始)  
募集期間: 2022年5月1日(日)~7月17日(日) ※定員になり次第締め切ります  
定員: 20名  
会場: アイム・ユニバース てだこホール 練習室1  
参加料: 1,000円 (お茶代含む)  
持ち物: どなたでも(ダンス経験不同、年齢不同/服装予定は保護着付)  
持ち物: 動きやすい服、マスク、飲み物、着替え、上履き (履きかか可能なものも可)  
お申し込み: (下記①・②いずれかにて)  
①専用Googleフォームから申込  
②てだこホール窓口への直接申込・電話・FAX・メール申込(専用メールアドレス)  
※募集は申し込み順です(先着順)※申し込みは先着順です(先着順)  
お問い合わせ: アイム・ユニバース てだこホール  
TEL: 098-942-4360 FAX: 098-942-4338  
メールアドレス: dance@tedako.jp  
主催: アイム・ユニバース てだこホール 後援: (一財)琉球舞踊

7月24日(日) 14:00 - 16:00  
「初めてのコンテンポラリーダンス」WS 申込書

氏名: \_\_\_\_\_ 性別: \_\_\_\_\_  
住所: \_\_\_\_\_  
〒 \_\_\_\_\_  
電話番号: \_\_\_\_\_  
Eメール: \_\_\_\_\_  
申込理由: \_\_\_\_\_  
申込者(ご本人)の年齢: \_\_\_\_\_  
申込者(ご本人)の性別: \_\_\_\_\_

【会場】  
アイム・ユニバース てだこホール  
練習室1  
〒900-2602 沖縄県那覇市仲町1-3-3  
TEL: 098-942-4360 FAX: 098-942-4338  
https://www.tedako.jp/  
※2-4月曜休館  
※感染症のコロナ対策のつめこみ

関連ダンス公演のお知らせ  
まちを舞った! うらそえ Vol.1  
ダンススケッチ 屋富祖 GOGOGO!!

フェニーチェ堺

A4 両面 (4色)

**ワークショップ**  
おうちで時間があまる時、旅行先でちょっと暇を持て余した時、親子で遊べるかわただあびがあれば、楽しく親子の時間を過ごせます。

**親子で遊べるかわただあび**

小牧市市民会場の親子ワークショップの様子

からだを動かすプロである、ダンサー・舞付家の塚本美子さんと一緒に、普通じいちゃんといっしょに面白い遊びを体験してみませんか?

2022年 2月11日(土)祝  
フェニーチェ堺 多目的室  
10時開場 10時30分開演 (2時終了) (小学生以下は要予約)  
対象: 4歳~小学生とその保護者  
定員: 抽選で15組限定 (小学生以下は保護者同伴)  
料金: 大人 500円 / 子ども 0円 (当日現金払い)  
応募は事前申込が必要です!  
応募方法は募集ページをご覧ください。

**応募方法**  
WEB申込フォームもしくはFAXでお申し込みください。  
2022年1月4日(水)10時~1月20日(金)17時までの期間で申し込みをされた方の中から抽選いたします。  
抽選結果は、当落に関わらず1月23日にご案内いたします。 (抽選結果は抽選結果発表ページにてお知らせいたします。)

**FAX参加申込書** ※お送り先: 琉球舞踊文化芸術財団 FAX: 072-228-0115

申込者のお名前	_____		
メールアドレス	_____		
電話番号	_____		
お子様の人数	1名	2名	3名
	4名	5名	6名以上
お子様の年齢	_____		
大人の方の人数	1名	2名	3名
	4名	5名	6名以上
今後、琉球文化芸術財団が主催する同様の事業にご案内を、ご登録のメールアドレスにお送りしてよろしいでしょうか。	はい	いいえ	

ご質問・お問い合わせ・必要の記載

同時開催  
ソノチヤタリダンス会  
子ら子ら  
小売価格 観客席  
小売券  
12:12 13:00 / フェニーチェ堺  
14:00 / 大スタジオ  
一般 3,000円  
U25 2,000円  
応募要領  
抽選結果発表ページにてお知らせいたします。  
抽選結果発表ページにてお知らせいたします。  
抽選結果発表ページにてお知らせいたします。





### 踊らんどアイランドとは？

「ダンス、というとなってしまう方もいるかもしれませんが、例えば海外の方とのコミュニケーションでは、どうにか要件を伝えようと、知りうる限りの単語を引き出したリ、ジェスチャーに工夫を凝らしますよね。それが相手にうまく伝わったり、相手の言いたいことを理解できて嬉しかったという経験は皆さんにもあると思います。少ない言葉と体の動き「身体表現」を駆使したダンスで何かを伝える。「踊らんどアイランド」のなかにも思わず微笑んだり、「うんうん、あるある！」と感じるシーンがきっとあると思います。

この3年間、発表の場がなかっただけでなく、思うようなレッスンも出来ず閉じ込められていた市民ダンサーたちの思いを、藤田善宏さんのリードで開放して、9日間という限られた期間で「踊らんどアイランド」を創り上げました。

天草の伝統文化に先人たちの思いを継ぎながら、県道周辺の「天草未来大橋」に未来を重ね、今の天草を楽しく身体いっぱい表現します。

皆さんそれぞれの天草を思い浮かべながら、どうぞごゆっくりお楽しみください。

### CAT-A-TACとは？

主宰・藤田善宏を筆頭に、ジャンルに捉われない新しい着眼点で若手ダンサーやミュージシャン、運動健将などから構成される多様性を持ったダンスカンパニー。子どもから大人まで幅広く楽しめるダンスや、身体表現を駆使した無声ダンス劇(言葉のない物語)が得意。その関心は感心を受け、見立ての面白さには定評あり。様々な仕掛けとアイデアを、感動と共に皆様にお届けします。

CAT-A-TAC オフィシャル WEB サイト  
<https://cat-a-tac.jp>

### このプロジェクトに賛同して下さった皆さま

- 天草南風漁業会
- 丸尾會
- 藤田善宏
- フランドス池田
- 坂東草布美
- 天草演劇愛好会
- ユミ・ダンススタジオ

協力：本田直介(プロジェクトアドバイザー)  
 小山真一(Office Epcot)  
 みつばちラジオ(天草ケーブルネットワーク株式会社)

主催：天草市民センター 共催：(一財)地域創造

新型コロナウイルス感染症対策のためお願い

天草市民センター 〒863-0033 熊本県天草市東町3番地  
 電話 0969-22-4125  
[center@amakusa-cc.com](mailto:center@amakusa-cc.com)

天草市民センターオフィシャル WEB サイト  
<https://www.amakusa-cc.com/>

天草市民センター 白ま文化事業

# 踊らんどアイランド

天草の市民ダンサーが  
 ダンスカンパニー CAT-A-TAC の  
 藤田善宏と創る  
 生楽器と身体表現を使った  
 三世代で楽しめる  
 超絶オモシロイ  
 ダンスパフォーマンス!

実行・演出 藤田善宏 CAT-A-TAC 主宰・コンパニオン  
 協賛 市民ダンサー CAT-A-TAC

令和5年  
 1月9日(月)祝 14:00 開演  
 13:15 開演

天草市民センターホール

## CAT-A-TAC

### 市民ダンサー

将来の夢は踊れる素敵なお仕事です！  
 天草市民センター 市民ダンサー

藤田 善宏  
 構成・演出・振付・出演  
 振付家・演出家・ダンサー・ダンスカンパニー CAT-A-TAC (キャットアタック) 主宰・コンドルズメンバー、文化庁芸術祭賞部門新人賞受賞、福井県国民文化祭、演技研習総合監修、群馬大学非常勤講師、身体表現と道具を使った台詞のない物語、柔軟な発想を生かした異ジャンルや伝統芸能とのコラボが得意。三世代間、多様なダンス劇や児童演劇、幼児教育教材の監修、障がい者対象 WS など、多様性を重視した活動にも力をいれる。小澤旬やジャニーズ Jr. 主演舞台、TEAM NACS、山田洋次監督演出舞台、Eテレ他、振付出演ステージング多数。

安達 末有  
 アンスラント  
 彫刻家の父と舞踊家の母の元、5歳から踊り始める。国内舞踊コンクール多数入賞。子ども達へのダンス指導や、日本舞踊とコンテンポラリーダンスの融合による身体の可能性についての研究を行っている。

白石 美徳  
 パーカッション  
 社交ダンス専門のゼックバンド Yoshinori Shirashi BALLROOM Orchestra 主宰。音楽活動以外にも異ジャンルアーティストと積極的に共演。東京と関西の2拠点で活動中。

堤 悠莉乃  
 将来の夢は踊れる素敵なお仕事です！  
 天草市民センター 市民ダンサー

友澤 優姫  
 文系に見られがちな高校3年生です！  
 本日は舞台の仕事に就きたいです。これまで、ダンスで天草島内外で様々な舞台に立って頂いたり、地元 TV、ラジオにてキャスター、パーソナリティーとして出演させて頂きました！  
 踊らんどアイランド、面白いステージをぜひご覧ください！

森 都  
 牛蒡ハイヤと日舞をしています。資格がら踊ることが好きです。  
 今回の「踊らんどアイランド」での経験が私にとって「学び」になると感じました。

Linda Dobbins  
 Linda Dobbins  
 I am from America, but my mother is Swedish. I've been in Amakusa since November 2021, but I spent a year studying abroad in Nagoya from 2017-2018. I came to Japan because it is so safe here and the people are so kind. I love any dance where I can move around a lot because I really like exercise! I feel like I have a family while participating in ODOLAND because the people are so patient with me despite the language barrier. Everyone has been so friendly and I've laughed a lot. It's been a great experience!

田中 孝美  
 過去にエアロビクスを指導していた時期があります。ダンスが好きです！上手になりたいので参加してみようと思いました。藤田さんのワークショップは発想が豊かで、自由に身体を動かすことができました。楽しかったです！

北野 利樹夢  
 大好きなピアノ講師です。天草で演劇をやっています。映画「のさげすみ」では方言監修・指導をしました。コンドルズと藤田さんのダンス作品が大好きでその一部になりたくて参加しました。

山下 真由美  
 身体は小さいけど元気がいっぱいな小学4年生です！  
 4歳からお母さんが踊るダンスを真似て始めました。お母さんが踊るダンスを真似て始めました。お母さんが踊るダンスを真似て始めました。お母さんが踊るダンスを真似て始めました。

踊らんどアイランド

茅ヶ崎市民文化会館

A3 二つ折り 両面 (4色)



新型コロナウイルス  
感染予防対策に  
ご協力をお願いします。マスク着用 手洗いの徹底 換気

～ごあいさつ～

本日はご承知いただき誠にありがとうございます。  
今日のご日に「冬のやぐら」を選んで下さった事、大変嬉しく思います。

さて、今日このステージではどんなダンスが繰り広げられるのでしょうか？企画担当の方から受け取った「茅ヶ崎LOVEをカタチにした舞臺組のようなダンス作品を演じて頂きたい」という熱い思い。  
【舞臺組みたいなダンス公演の笑】と、かれこれ15年近くダンスを創造し続けてた私でもはじめてのご所望に心が躍りました！

茅ヶ崎の魅力を少しずつ教えていたときながら、「想像の余白」を大切に準備しました。年齢も住む土地も違う個性溢れる演目でフレンドリーな皆さんと、茅ヶ崎の山も海も時間もリミックスして、「新たな顔の凱配」を生み出そうと思います。最後までゆったりとお楽しみ頂ければ幸いです。

2023.2.13 北尾 亘

気鋭の振付家・ダンサー・北尾亘と公募のダンサー達がダンスで魅せる茅ヶ崎の見どころ満載！

世代もバックグラウンドも異なる面々が出会い、対話と交流を重ねて生まれた情熱のダンスステージ。いくつもの茅ヶ崎愛が纏りなすパフォーマンスは大きなうねりとなって、茅ヶ崎の「祭り」に新たな1ページが生まれます。あなたの知っているあの景色もきっと新しく見えるはず！本編終了後にはアフタートークを実施します。

(振付・構成・出演)	(出演)		
北尾 亘 (Baobab)	河内 優太郎	山田 菜琳	
	安東 大維志	とも	山内 有希子
(映像)	梅宮 さおり	三澤 優菜	山越 美香
中瀬 俊介 (Baobab)	神崎 紡希	みのりん准教授	ゆみ
	きりしま えりか	みゆう	
	寺岡 実樹子	山内 響	

(テクニカルスタッフ) (相談企業株式会社)

舞台：小林 哲也	滝沢 美美	神崎 利架
照明：谷川 裕俊	南澤 舞奏	望月 南未紀
音響：佐藤 圭	新井 雅人	柳田 真菜美



**北尾 亘** (きたお わたる)

振付家・ダンサー・俳優  
ダンスカンパニー (Baobab) 主宰。全作品の振付・構成・演出を担う。単独公演は国内外のフェスティバルに参加。振付家として、水ノ下歌舞伎やKUNIO、口ロなど舞台作品のほか、NHK連続テレビ小説「半分、青い。」などTVドラマ、CM、映画にも振付を提供。ダンサー・俳優として、近藤良平、多田淳之介、杉原邦生、山本卓幸などの作品に出演。演劇ユニット (さんりん) としても活動。また、日本全国でWS講師やアウトリーチ活動を展開し、ダンスの普及活動にも取り組む。

純美学園大学・桜美林大学・多摩美術大学非常勤講師。  
ベッシー賞(ニューヨーク・ダンス&パフォーマンス賞)「OUTSTANDING PERFORMER部門」(2020年)/ミネソタ・横浜ダンスコレクション2018 コンペティション「ベストダンサー賞」ほか、多数受賞。  
2021年よりヨコハマダンスコレクション コンペティションIIの審査員を務める。



**河内 優太郎** (かわち ゆうたろう)

神奈川県鎌倉市出身。18歳でダンスを始め、これまでに山田うん、北尾 亘、奥津野真、小沢健太、真木竜、長谷川謙也などの作品に参加。東京2020オリンピックでは、山田うんのアシスタントを務める。幼少期に急性リンパ性白血病になった経験を活かし、現在は特別支援学校、病院、福祉施設にて、治療中の児童や知的障害、肢体不自由児、発達障害等に向けたワークショップやアウトリーチを独自に展開。人生の初舞台は本公演の場所となる茅ヶ崎市民文化会館大ホール。



**山田 菜琳** (やまだ まりん)

1995年生まれ。神奈川県出身。3歳よりヒップホップを始め、その後ジャズダンスや創作ダンスを学ぶ。桜美林大学にてコンテンポラリーダンスを本佐貴裕子に師事。これまでに北尾 亘、笠井雄文×上村なおか、中川尚登、織本ロマンズなどの作品に出演。第72回NHK紅白歌合戦オープニングムービー出演などの映像作品や、Heal「白夜」などのMV出演多数。小学校や特別支援学校へのワークショップアシスタント、振付アシスタント多数。



**中瀬 俊介** (なかせ しゅんすけ)

1983年生まれ。映像作家、ドラマトゥルク。和光大学文学部在学中からライブコンサートの映像演出などを手掛ける。2009年、2012年に世界を1周し、2014年にPerformance Project デルターカを発売。2017年にBaobabに加入。北尾亘とともに作品の創作に関わる。他に、岡本俊、笠井 雄、中村尊、中瀬龍希の振付作品に映像演出で参加。





### 1 趣旨

一般財団法人地域創造（以下「地域創造」という。）は、公共ホールの活性化とコンテンポラリーダンスによる創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりに寄与し、あわせて公共ホールスタッフ等の企画・制作能力の向上と創造性豊かな地域づくりに資することを目的として、地方公共団体等との共催により、公共ホールを拠点としてコンテンポラリーダンスの公演事業又は地域交流プログラムを実施する。

### 2 対象団体

- (1) 地方公共団体
- (2) 地方自治法第244条の2第3項の規定に基づき指定管理者として指定を受け、公の施設の管理を行う法人その他の団体
- (3) 地域における文化・芸術活動の振興に資することを目的として設置された、公益財団法人等((2)を除く)のうち、地方公共団体が資本金、基本金その他これに準ずるものを出資している法人で地域創造が特に認めるもの。

### 3 実施団体の決定

地域創造は、上記団体から提出された事業申込書等をもとに審査し、実施団体を決定の上、当該団体に対して速やかに通知する。

決定に当たっては、下記4の各プログラムを継続して実施する団体及び当該事業を実施したことがない団体を優先するが、過去に当該事業を実施した団体であっても、市町村合併の有無、公共ホールの管理者の変更、当該事業についてのスタッフの習熟度等の事情を考慮して、予算の範囲内で決定する。

### 4 事業内容

実施団体は、以下のいずれかのプログラムを実施する。

なお、実施するプログラムは、今後のダンス事業を実施するためのビジョン（※1）に基づいて選択することとし、事業実施の翌年度以降に他のプログラムを継続して実施することができるものとする。

（※1）ビジョンとは、別記様式1-2の「事業実施後の事業展開・ビジョン等」のことをいう。

#### (1) Aプログラム（地域交流プログラム）

原則として、連続する4日間の事業日程で、学校や福祉施設等でのアウトリーチと公募型のワークショップを4～6回実施する。ただし、アウトリーチは3回以上、公募型ワークショップは1回以上実施する。

なお、原則として、事業の実施に向けて、コーディネーター等による現地における個別研修（現地見）を1泊2日以内で1回実施する。

派遣するアーティストは、別紙1の登録アーティストの中から、地域創造が決定する。

#### (2) Bプログラム（市民参加作品創作プログラム）

原則として、全9日間の事業日程を連続する3日間及び連続する6日間などの2回に分けて、市民参加作品を創作し1回上演する。公演は有料とし、入場料収入は実施団体に帰属するものとする。

また、公募型ワークショップを1回実施する。

なお、事業の実施に向けて、登録アーティスト、コーディネーター等による現地における個別研修（現地見）を1泊2日以内で1回実施する。

派遣するアーティストは、別紙1の登録アーティストの中から、実施団体の希望を勘案の上、地域創造が決定する。

#### (3) Cプログラム（公演プログラム）

原則として、連続する4日間の事業日程でコンテンポラリーダンスの公演（レパートリー作品（新たに演出されるリ・クリエーション作品含む））を1回上演する。



---

公演は有料とし、入場料収入は実施団体に帰属するものとする。

また、公募型ワークショップを1回実施する。

なお、事業の実施に向けて、登録アーティスト、コーディネーター等による個別研修（現地下見）を1泊2日以内で1回実施する。

派遣するアーティストは、別紙1の登録アーティストの中から、実施団体の希望を勘案の上、地域創造が決定する。

## 5 経費負担

事業実施に伴う下記の経費については、地域創造が負担する。下記以外の経費及び実施団体が前項に定める内容を超えて事業を行った場合に発生した経費については、実施団体の負担とする。

### (1) 登録アーティスト等派遣経費

#### ① Aプログラム

登録アーティスト及びアシスタント（ソロの場合1名まで）の謝金、交通費（現地移動費を除く。）、宿泊費、日当、派遣対象者に係る損害保険料

#### ② Bプログラム

登録アーティスト及びクリエーションのためのアシスタント（共演者）（ソロの場合2名まで、デュオの場合1名まで）の出演料等、テクニカルスタッフ等（※2）の謝金、交通費（現地移動費を除く。）、宿泊費、日当、派遣対象者に係る損害保険料

#### ③ Cプログラム

登録アーティスト及び共演者（ソロの場合2名まで、デュオの場合1名まで）の出演料等、テクニカルスタッフ等（※2）の謝金、交通費（現地移動費を除く。）、宿泊費、日当、派遣対象者に係る損害保険料

（※2）テクニカルスタッフ等は、公演準備のサポート役として必要と判断されるテクニカルスタッフ、演出助手や制作者及びその他地域創造が認めた者で、個別研修（現地下見）及び実施時に派遣する。

### (2) 公演負担金

Bプログラム及びCプログラムについては、実施団体が支出した事業実施に係る経費のうち、別紙2の対象経費の2/3以内で、50万円を上限に実施団体に対して負担する。

## 6 事業実施に対する支援

### (1) 全体研修会の開催

地域創造は、事業実施前に実施団体を対象として、事業の実施に必要な実践的ノウハウ等についての研修会を開催する。

なお、参加に係る旅費等は実施団体の負担とする。

### (2) コーディネーターの派遣

地域創造は、実施団体に実践的なノウハウを習得する機会を提供するとともに、事業の円滑な運営を図るために、企画制作の経験が豊富なコーディネーターをアドバイザーとして派遣する。

コーディネーターの派遣は、原則として、個別研修（現地下見）及び実施時に行う。

## 7 提出書類等

### (1) 事業申込書 …別記様式1-1、1-2、1-3（1-3はBプログラム及びCプログラムのみ）

令和3年度に本事業の実施を希望する対象団体は、「事業申し込みにあたっての留意事項」を参照のうえ、必要書類を添えて、令和3年7月9日（金）までに当該書類を提出すること（地域創造必着）。

---

なお、2(2)及び(3)に該当する団体が申請をする場合には、施設設置者または出資者である地方公共団体の長の副申を受けること（別記様式1-4）。

- (2) 事業実施計画案 …別記様式2-1、2-2  
全体研修会の終了後、地域創造の指定する日までに当該書類を提出すること。
- (3) 事業実施計画書 …別記様式3-1、3-2、3-3（3-3はBプログラム及びCプログラムのみ）  
事業実施2か月前までに企画内容を決定し、当該書類を提出すること。
- (4) 事業実績報告書 …別記様式4-1、4-2、4-3（4-3はBプログラム及びCプログラムのみ）  
事業終了後30日以内または令和5年4月14日（金）のいずれか早い日（必着）までに、事業実施にあたり制作したチラシ、パンフレット等を添えて当該書類を提出すること。
- (5) 変更承認申請書 …別記様式5-1、5-2  
実施団体の決定通知を受けた後に申請内容に重大な変更が生じた場合は、ただちに当該書類を提出すること。  
なお、変更内容によっては事業の要件を満たさなくなり、共催できない場合がある。

## 8 その他

- (1) 共催に関する表示  
実施団体は、事業実施に際して作成される印刷物に、地域創造が共催している旨を表示すること。  
**【表示例】** 共催：一般財団法人地域創造、共催：（一財）地域創造
- (2) 損害賠償の免責  
事業実施に伴い発生した損害賠償等の責任について、地域創造は責めを負わないものとする。
- (3) 関係書類の提出  
地域創造は、この要綱に定めのある書類のほか、実施団体の決定等の審査に当たって必要な書類の提出を求めることができる。
- (4) 情報提供  
地域創造が、全国の地方公共団体に対して行う事業に関する情報提供等のため、資料提供を求めた場合や現地調査を行う場合は、実施団体は協力するものとする。
- (5) その他  
事務手続き及びスケジュール等その他細目について必要がある場合は別途定める。  
また、その他事業の実施に関し、疑義が生じたときには、地域創造と実施団体が協議して決定する。

## 登録アーティスト

令和4年度登録アーティスト（7組）

北尾亘、田村一行、長井江里奈、中村蓉、藤田善宏、マニシア、康本雅子

## 参考

## 事業の流れ・手続き等

## ●令和3年度（事業実施前年度）

時期（予定）	内 容	提出書類
4月下旬 ～7月9日	申し込み受付 申込書締切：7月9日（金）	事業申込書
8月下旬	事業内定通知	
10月26日 ～10月28日	全体研修会（アーティストプレゼンテーション）の開催 開催場所：としま区民センター	
11月中旬	事業実施計画書の作成	事業実施計画書
12月下旬	派遣アーティスト、担当コーディネーターの決定・通知	

## ●令和4年度（事業実施年度）

時期（予定）	内 容	提出書類
4月上旬	事業決定通知	
4月～	個別研修（現地見）の実施	
事業実施 2か月前	・事業内容の確定、事業実施計画書の作成 ・主催団体、派遣アーティスト、地域創造の三者で契約の締結	事業実施計画書
事業終了後 30日以内	・実績報告 ・負担金の請求	事業実績報告書 公演負担金請求書 (Bプログラム及びCプログラムのみ)

## 公演負担金対象経費（対象経費の 2/3 以内で上限 50 万円）

※ Bプログラム及びCプログラムのみ対象

## 1 対象経費

文芸費	現地舞台監督料、現地における照明・音響プラン料、調律料、著作権使用料など
設営・舞台費	現地舞台仕込等人件費、現地照明・音響等オペレーター人件費、照明・音響等機材費、舞台設営費、リノリウム借上料、市民参加作品に関わる経費（衣裳費、舞台美術費、メイク費、小道具費、運搬費など）など
会場費	会場借上料
謝金・旅費・通信費	地元出演者等謝金、会場整理等賃金、地元出演者等交通費・宿泊費・日当費、通信費など
宣伝・印刷費	広告宣伝費、チラシ・ポスター・プログラム・チケット製作費、チケット販売手数料など
記録費	録画費、写真費、記録映像作成費ほか
消耗品費	事業に係る消耗品費
保険料	ワークショップ参加者等保険料ほか

※対象経費としての判断が困難な項目等は、関係者間で協議し決定する。

## 2 対象外経費

- ① 事業実施団体以外の者が支出した経費
- ② 事業実施団体及び申請者が請求者となっている経費（例：利用料金（地方自治法第 244 条の 2 第 8 項の規定によるもの）を収受する指定管理者が自ら当該施設を使用して事業を実施した場合に、自身に支払う形となる利用料金等）
- ③ 地域創造負担を超えるアシスタント・共演者等に係る経費
- ④ 打ち上げ費、その他飲食関係費（ケータリングを含む）
- ⑤ 手土産代、記念品代、出演者等への花束代等物品による謝礼費用
- ⑥ 事務局経常費（事務所維持費、職員給与等）
- ⑦ 登録アーティスト等の現地移動にかかる交通費
- ⑧ その他、対象経費として適当でないと地域創造が判断したもの

### ●小岩秀太郎（東京鹿踊代表／縦糸横糸合同会社代表）

1977年岩手県出身。郷土芸能「鹿踊」伝承者。（公社）全日本郷土芸能協会（東京都）に入職し、芸能の魅力発信や災害復興支援、コーディネートに携わる。東日本大震災を契機に、出身者・首都圏在住者が芸能でつながる「東京鹿踊」プロジェクトならびに東北仙台にて「縦糸横糸合同会社」を立ち上げる。地域に伝わる“縦糸”の文化を選び出し、他分野他視点の“横糸”が交差する場のコーディネートと、次世代への伝達方法を検討・実践する企画提案を東北内外で行っている。東北と東京の二拠点で活動中。

### ●神前沙織（NPO法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク（JCDN） チーフ・コーディネーター、ディレクター）

2005年よりJCDNにて「踊りに行くぜ！！」等のプロダクション・マネージャーを担当。2009年より、子供から大人まであらゆる人を対象とした「コミュニティダンス」の全国的な普及に携わり、多数の市民参加公演をコーディネート。2012年より、沖縄・大阪・滋賀など各地の小中学校にダンスアーティストを派遣。高齢者／児童福祉施設、少年更生機関などと連携しダンスプログラムの企画・コーディネート。ほか、振付家、ファシリテーター育成事業など、京都を拠点にダンスと社会をつなぐ様々なプログラムを行っている。

### ●坂田雄平（NPO法人いわてアートサポートセンター プロデューサー）

宮古市民文化会館館長補佐・プロデューサー、岩手県文化芸術コーディネーター（県央・沿岸）、三陸国際芸術祭のディレクター、調査・コンサルティング事業などを担当。2003年より桜美林大学パフォーミング・アーツ・インスティテュートに所属、芸術地域通貨ARTSを開発・運用や附属劇場の企画・運営などを行う。2007年より財団法人地域創造にて演劇事業や調査研究事業に携わる。2012年より北九州芸術劇場にて演劇・ダンス事業や領域横断型の文化芸術プロジェクトを担当し、現職。

### ●中富勝裕（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 プロデューサー）

2006年より横浜赤レンガ倉庫1号館にて、国際的なダンスフェスティバル「横浜ダンスコレクション」を始め、海外の振付家との共同制作や数々のダンス公演をプロデュース。アーティストとともに国内外の劇場やフェスティバル等のネットワーク構築、連携に力を入れている。また舞台芸術の新たな観客創造を目指し、地域・企業と劇場をつなぐ事業を展開。Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2021 や横浜音祭り 2022 ではフェスティバルの核となる主要プログラムを手掛けた。Seoul Choreography Contest（2010年韓国）、WIFI Body Festival New Choreographers Competition（2014年フィリピン）などの審査員も務めている。

### ●中西麻友（NPO法人芸術家と子どもたち 事務局長）

1980年大阪生まれ。成安造形大学デザイン科写真クラス卒業。2006～2008年大阪市内の小学校に教諭として勤務。その後1年半のイギリス留学を経て、2011年3月より「NPO法人芸術家と子どもたち」に勤務。ワークショップ・コーディネーターとして、学校（特別支援学級含む）や幼稚園、保育園、児童養護施設、障害児入所施設等での事業を担当。

### ●宮久保真紀（Dance New Air チーフプロデューサー）

1997年～2015年、スパイラル／榊ワコールアートセンターに勤務。パフォーミングアーツを担当する他、スパイラル内外の展覧会やイベント企画に携わる。2年に一度、東京・青山を中心に開催している国際ダンスフェスティバル「Dance New Air」には前身のダンスビエンナーレトーキョー 2004 から参画。劇場空間をはじめ、屋外スペースやサイトスペシフィックな空間、映画館、書店、プラネタリウムなど、様々な場所を舞台にダンスを通して新たな可能性を提案している。15年8月より（一社）ダンス・ニッポン・アソシエイツ代表理事。

令和4年度公共ホール現代ダンス活性化事業報告書

発行／一般財団法人地域創造

〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11 オリックス赤坂2丁目ビル9階

Tel.03-5573-4055、4077 Fax.03-5573-4060

発行日／令和5（2023）年6月